



トヨタ ウェルキャブシリーズ



ウェルキャブ 車いす仕様車／ウェルジョイン
取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

HIACE



1 安全・安心のために
(車いす仕様車)

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 車いすの車内外への
乗り降り(車いす仕様車)

スイングアームリフトを使用して車いすに乗ったまでの
車内外への乗降、車いすの車内での固定・解除に関する説
明

3 車室内・車室外装備

ドア、シート・シートベルト、手すり、電装品、室内装備
に関する説明

4 お手入れのしかた

ウェルキャブ装備のお手入れに関する説明

5 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

6 点検・整備項目

定期点検整備についての説明

イラスト目次	6
本書の見方	20

1 安全・安心のために
(車いす仕様車)

1-1. 安全なドライブのために	
車いすの車内外への 乗降について	22
車いすの固定および シートベルトの 着用について	29
車両火災・故障・損傷を 防ぐために	33

2 車いすの車内外への乗り降り
(車いす仕様車)

2-1. スイングアームリフトを 使用する前に	
ご使用前に確認して いただきたいこと	36
2-2. 車いすの車内外への乗降・固定	
操作の流れ：車いすの 車内外への乗降・固定	44
リフトメインスイッチ	58
スイングアームリフトの スライド・昇降のしかた	66
後退防止用ストッパー	74
スイングアームリフト 車内への乗り入れ	78
車いす固定装置（車いす仕様車 “Aタイプ／ASタイプ”）	85
車いす固定装置（車いす仕様車 “Bタイプ／Cタイプ／ Dタイプ／Fタイプ”）	107
車いす用シートベルト	118
車いす収納装置	127

3 車室内・車室外装備

3-1. ドア

- チャイルドプロテクター 136
- バックドアの開閉
(車いす仕様車) 137

3-2. シート・シートベルト

- リクライニングシート
(車いす仕様車) 138
- 1人掛けシート (車いす仕様車
"Fタイプ") 141
- 3人掛けタンブルシート
(車いす仕様車
"Dタイプ") 143
- 右はね上げ式シート (介助の方用)
(車いす仕様車
"Bタイプロング") 149
- クッションはね上げ式シート
(車いす仕様車 "Bタイプ/
Cタイプ/Fタイプ") 151
- クッションはね上げ式シート
(うしろ向き/介助の方用)
(車いす仕様車 "Aタイプ/
ASタイプ") 154
- 1人掛けスペースアップシート
(車いす仕様車 "Bタイプ/
スーパー長/
Dタイプ") 157
- 2人掛けスペースアップシート
(車いす仕様車
"ASタイプ") 164
- シートベルト
(車いす仕様車) 170

3-3. 手すり

- スライドドア乗降口ハンドレール
&フロントハンドレール
(車いす仕様車 "ASタイプ/
Bタイプ/Cタイプ/
Dタイプ/Fタイプ" /
ウェルジョイン) 178
- 手すり 187
- 可倒式手すり (車いす仕様車
"Bタイプ/Cタイプ/
Dタイプ/Fタイプ") 190

3-4. 電気品

- 電動格納式ステップ 194
- 夜間照明灯
(車いす仕様車) 198
- ルームランプ 199

3-5. 室内装備

- 小物入れ (車いす仕様車) 201
- リヤヒーター 203

4 お手入れのしかた**4-1. お手入れのしかた**

電動格納式ステップの清掃 ...	206
スイングアームリフトの清掃 (車いす仕様車) ...	209
光電センサーの清掃 (車いす 仕様車 “F タイプ”) ...	212
車いす固定装置の清掃 (車いす仕様車) ...	215
ベルトの清掃 (車いす仕様車) ...	218

4-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口 ...	219
工具 ...	224
タイヤ ...	226

5 万一の場合には**5-1. パンクしたときは**

スペアタイヤの取り出し (車いす仕様車) ...	228
ジャッキアップするときは ...	231

5-2. 緊急時の対処法

ヒューズの交換 ...	234
スイングアームリフトが 作動しないときは (車いす仕様車) ...	242
車いす固定装置が作動しない ときは (車いす仕様車) ...	252
電動格納式ステップが 引き出された状態で 作動しないときは ...	255
バックドアイージークローザーが 故障したときは (車いす仕様車) ...	257

6 点検・整備項目

さくいん

6-1. 点検・整備項目

定期点検整備 260

こんなときは (症状別さくいん)	266
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	272
五十音順さくいん.....	274

本書はウェルキャブ 車いす仕様車／ウェルジョインの装備について記載しています。

車両全体の取り扱い方法や注意事項などは、必ず別冊の標準車取扱書をお読みください。

ただし、ウェルキャブ装備により、お車と標準車取扱書の仕様や機能が一致しない場合がありますのでご了承ください。

1

2

3

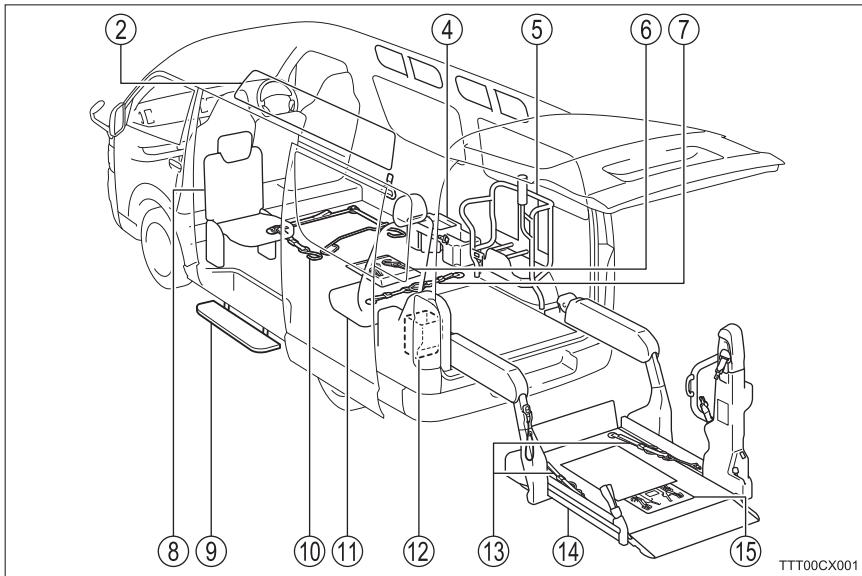
4

5

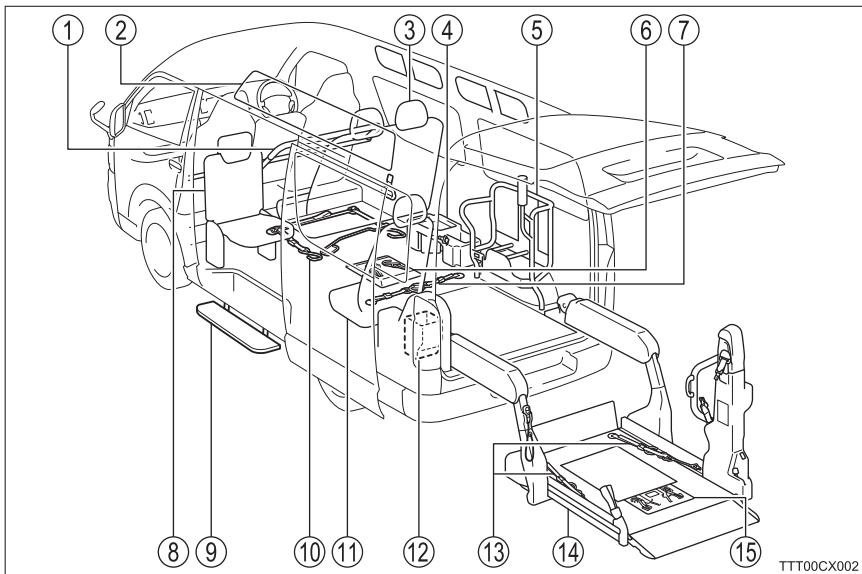
6

イラスト目次

■車いす仕様車 “A タイプ”



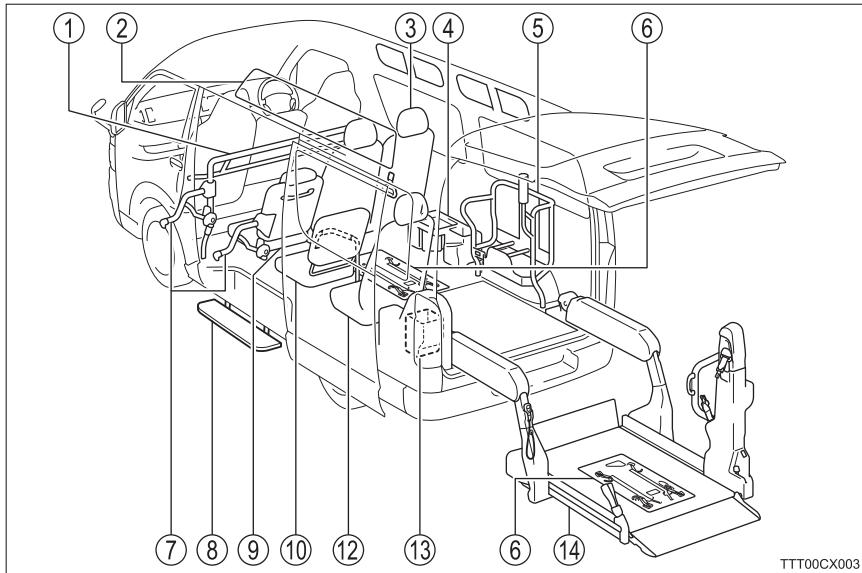
■車いす仕様車 “AS タイプ”



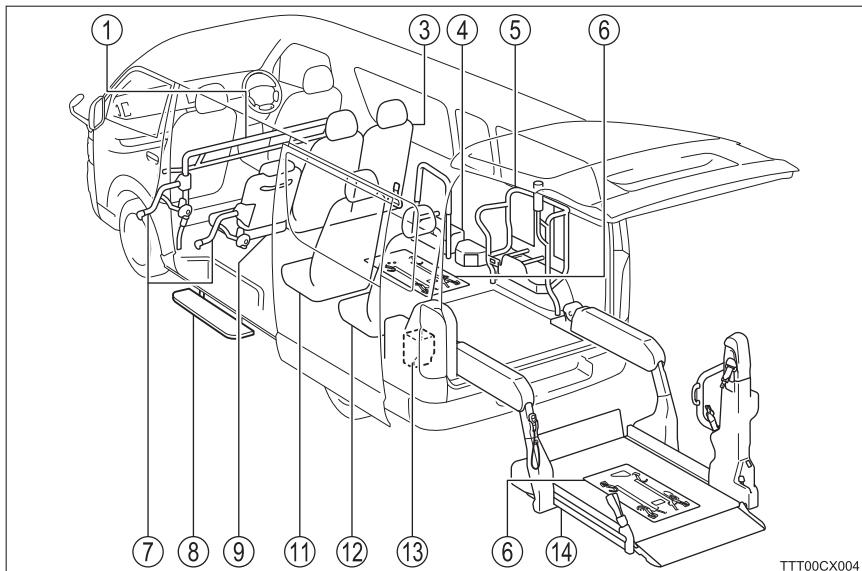
① フロントハンドレール	P.178
② ルーフサイドウインドウ★	
③ 2人掛けスペースアップシート	P.164
④ 小物入れ	P.201
⑤ 車いす収納装置	P.127
⑥ 車いす固定装置（車内）	P.99
清掃	P.215
作動しないときは	P.252
⑦ 大型車いす用ベルト	P.90
⑧ クッションはね上げ式シート（うしろ向き／介助の方用） ...	P.154
⑨ 電動格納式ステップ	P.194
清掃	P.206
作動しないときは	P.255
⑩ 車いす固定ベルト（アシストバー付き）	P.96
⑪ 1人掛けリクライニングシート（アームレスト付）	P.138
⑫ 小物入れ	P.201
⑬ 車いす固定ベルト（テンションゴム付き）	P.86
⑭ スwingアームリフト（プラットホーム）	
作動条件	P.66
スライド・昇降	P.66
乗り入れ位置	P.78
清掃	P.209
作動しないときは	P.242
⑮ 車いす固定装置（スwingアームリフト上）	P.88, 93
清掃	P.215
作動しないときは	P.252

■車いす仕様車 “B タイプ”

▶ ロングボデー

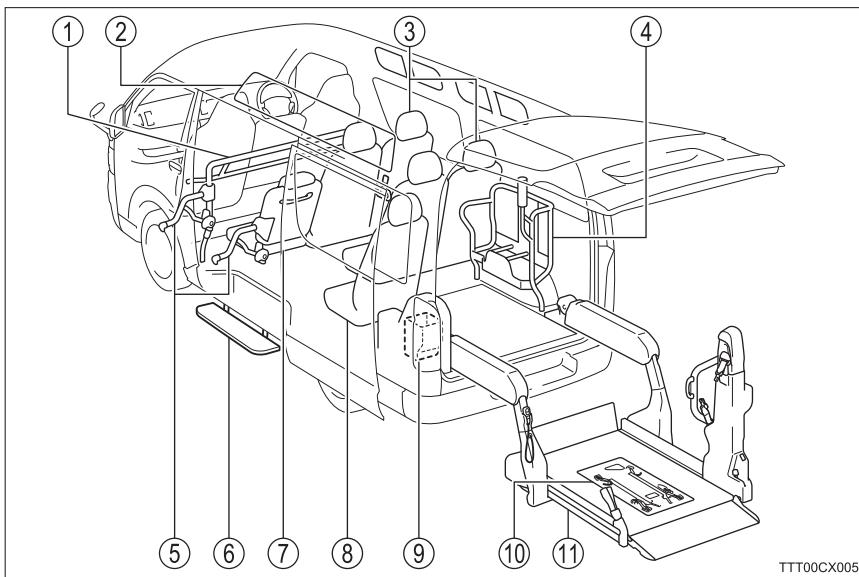


▶ スーパーロングボデー



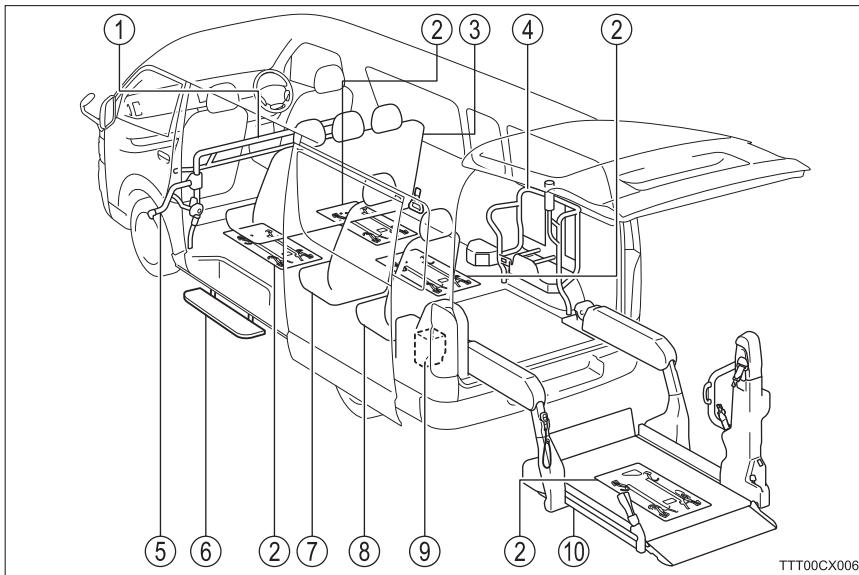
①	スライドドア乗降口ハンドレール&フロントハンドレール	... P.178
②	ルーフサイドウインドウ★	
③	2人掛けリクライニングシート P.138
④	小物入れ	
	ロングボデー P.201
	スーパー長ボデー P.187
⑤	車いす収納装置 P.127
⑥	車いす固定装置 P.107
	清掃 P.216
	作動しないときは P.252
⑦	可倒式手すり★ P.190
⑧	電動格納式ステップ P.194
	清掃 P.206
	作動しないときは P.255
⑨	クッションはね上げ式シート P.151
⑩	右はね上げ式シート（介助の方用） P.149
⑪	1人掛けスペースアップシート P.157
⑫	1人掛けリクライニングシート（アームレスト付） P.138
⑬	小物入れ P.201
⑭	スイングアームリフト（プラットホーム）	
	作動条件 P.66
	スライド・昇降 P.66
	乗り入れ位置 P.79
	清掃 P.209
	作動しないときは P.242

■車いす仕様車 “C タイプ”



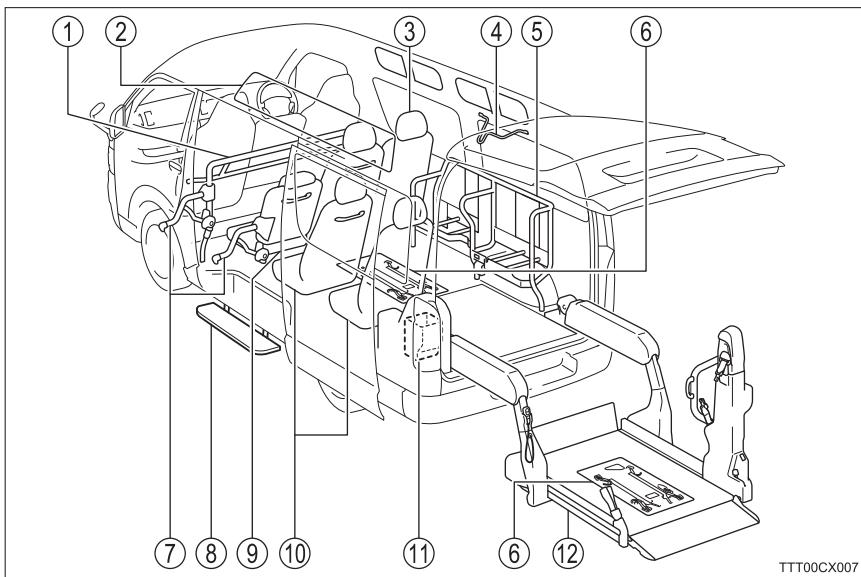
①	スライドドア乗降口ハンドレール&フロントハンドレール	... P.178
②	ルーフサイドウインドウ★	
③	2人掛けリクライニングシート P.138
④	車いす収納装置 P.129
⑤	可倒式手すり★ P.190
⑥	電動格納式ステップ P.194
	清掃 P.206
	作動しないときは P.255
⑦	クッションはね上げ式シート P.151
⑧	1人掛けリクライニングシート（アームレスト付） P.138
⑨	小物入れ P.201
⑩	車いす固定装置 P.107
	清掃 P.216
	作動しないときは P.252
⑪	スイングアームリフト（プラットホーム）	
	作動条件 P.66
	スライド・昇降 P.66
	乗り入れ位置 P.79
	清掃 P.209
	作動しないときは P.242

■車いす仕様車 “D タイプ”



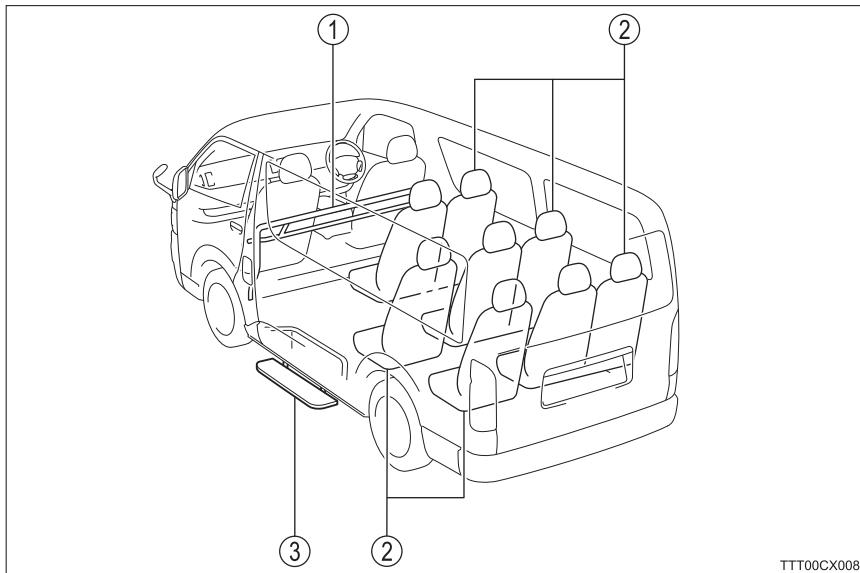
①	スライドドア乗降口ハンドレール&フロントハンドレール	... P.178
②	車いす固定装置 P.107
	清掃 P.216
	作動しないときは P.252
③	3人掛けタンブルシート P.143
④	車いす収納装置 P.127
⑤	可倒式手すり★ P.190
⑥	電動格納式ステップ P.194
	清掃 P.206
	作動しないときは P.255
⑦	1人掛けスペースアップシート P.157
⑧	1人掛けリクライニングシート（アームレスト付） P.138
⑨	小物入れ P.201
⑩	スイングアームリフト（プラットホーム）	
	作動条件 P.66
	スライド・昇降 P.66
	乗り入れ位置 P.79
	清掃 P.209
	作動しないときは P.242

■車いす仕様車 “F タイプ”



①	スライドドア乗降口ハンドレール&フロントハンドレール	... P.178
②	ルーフサイドウインドウ★	
③	2人掛けリクライニングシート P.138
④	ガードバー P.119, 131
⑤	車いす収納装置 P.131
⑥	車いす固定装置 P.107
	清掃 P.216
	作動しないときは P.252
⑦	可倒式手すり★ P.190
⑧	電動格納式ステップ P.194
	清掃 P.206
	作動しないときは P.255
⑨	クッションはね上げ式シート P.151
⑩	1人掛けシート（アームレスト付） P.141
⑪	小物入れ P.201
⑫	スイングアームリフト（プラットホーム）	
	作動条件 P.66
	スライド・昇降 P.66
	乗り入れ位置 P.79
	清掃 P.209
	作動しないときは P.242

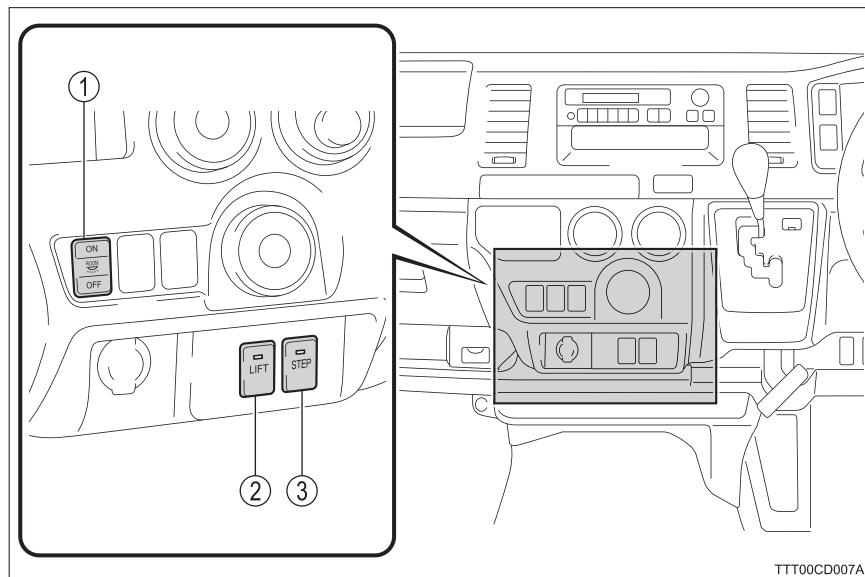
■ ウェルジョイン



- ① スライドドア乗降口ハンドレール&フロントハンドレール ... P.178
- ② シート* 標準車取扱書参照
- ③ 電動格納式ステップ P.194
 - 清掃 P.206
 - 作動しないときは P.255

* : シートレイアウトは標準車と同じです。(上図はグランドキャビン)

■ インストルメントパネル部



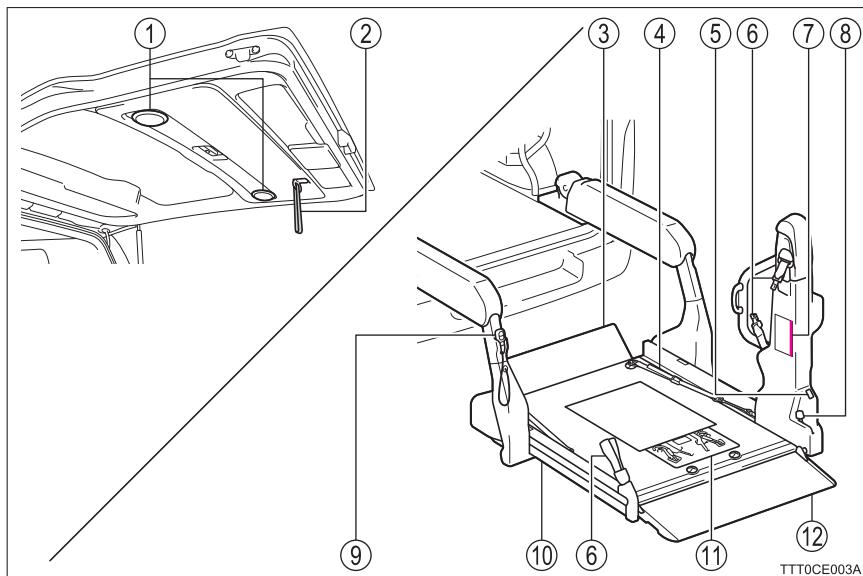
- ① リヤルームランプメインスイッチ※¹ P.199
- ② リフトメインスイッチ※² P.58
- ③ ステップemainスイッチ P.194

※¹ : スーパーロングボディー車のみ

※² : 車いす仕様車のみ

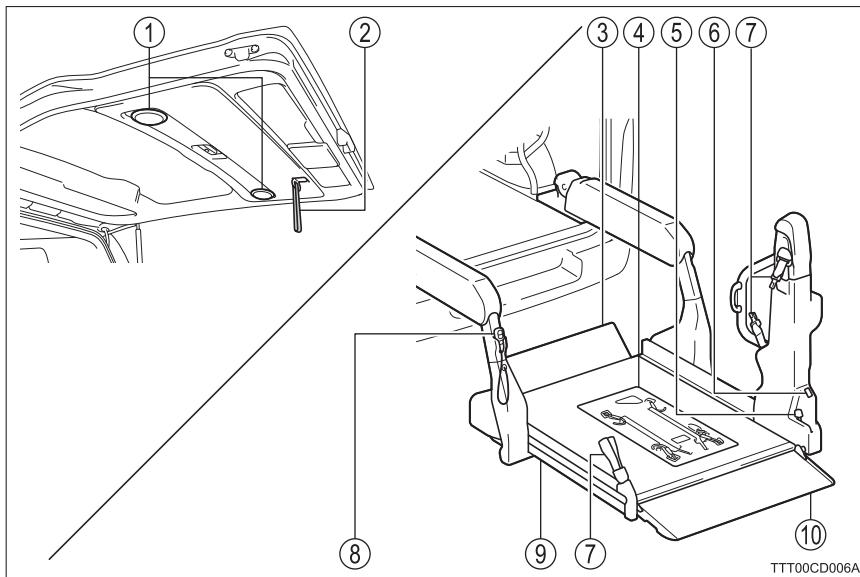
■ バックドア部／スイングアームリフト（プラットホーム）

▶ 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”



① 夜間照明灯	P.198
② バックドアストラップ	標準車取扱書参照
③ フットプロテクタ	P.67
④ 車いす固定ベルト（テンションゴム付き）	P.86
⑤ 固定装置スイッチ	P.88, 93
⑥ 車いす用シートベルト	P.119
⑦ 車いす搭載基準線（赤色）	P.90
⑧ 解除レバー	P.75
⑨ 操作スイッチ	P.67
⑩ プラットホーム	
⑪ 車いす固定装置	P.88, 93
⑫ 後退防止用ストッパー	P.74

▶車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”



- ① 夜間照明灯 P.198
② バックドアストラップ 標準車取扱書参照
③ フットプロテクタ P.67
④ 車いす固定装置（サポートバー付き） P.109
⑤ 解除レバー P.75
⑥ 固定装置スイッチ P.110
⑦ 車いす用シートベルト P.119
⑧ 操作スイッチ P.67
⑨ プラットホーム
⑩ 後退防止用ストッパー P.74

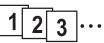
本書の見方



警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



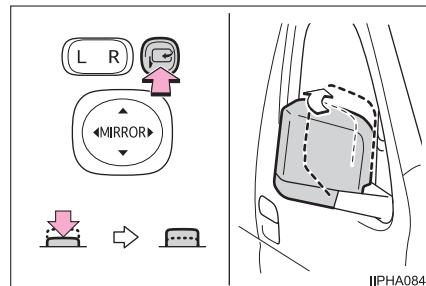
注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

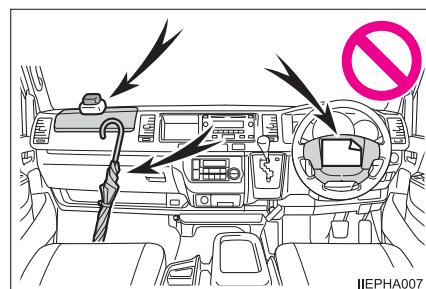
▶ 押す・まわすなど、していたい操作を示しています。

⇨ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



→ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

🚫 “してはいけません” “このようしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知つておくと便利なことを説明しています。

安全・安心のために ～必ずお読みください～(車いす仕様車)

1

1-1. 安全なドライブのために	
車いすの車内外への 乗降について.....	22
車いすの固定および シートベルトの 着用について.....	29
車両火災・故障・損傷を 防ぐために.....	33

車いすの車内外への乗降について

- 本書におけるウェルキャブ 車いす仕様車の操作はすべて介助の方が行ってください。
- この項目では、スイングアームリフトを使用しての車内外への乗降について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

■ ウェルキャブ 車いす仕様車の操作をするときは

操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方および車内に乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。

- 手足を挟まれたり、車いすからの転落など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足が車内の装置やシートなどに挟まれないように注意してください。
- 車内に乗車の方の手足を車いすで挟まないように注意してください。

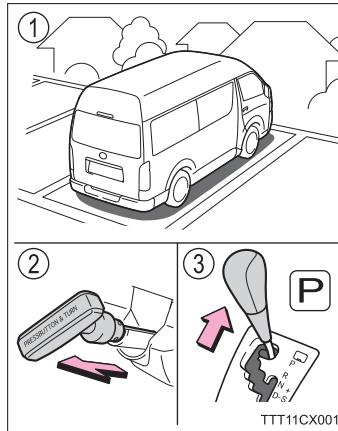


⚠ 警告

■スイングアームリフトを操作する前に

- 安全で平坦な場所に停車してください。交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスイングアームリフトを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあります。

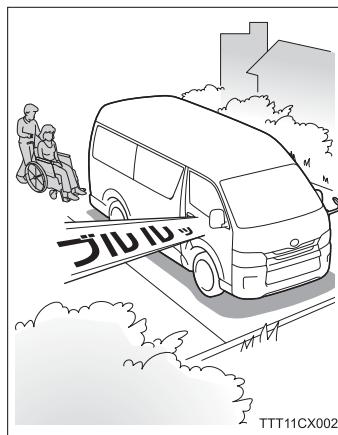
- ① 安全で平坦な場所に停車
- ② パーキングブレーキを確実にかける
- ③ シフトレバーを P の位置にする



- エンジンをかけた状態で使用してください。

エンジン停止状態ではバッテリー上がりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあります。

- 乗降するときはヘッドランプを点灯および非常点滅灯を点滅させ、周囲へ注意をうながしてください。



⚠ 警告

■スイングアームリフト作動確認の実施について

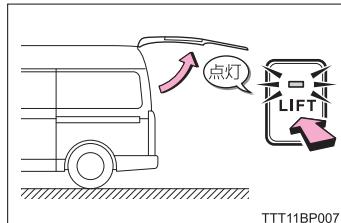
スイングアームリフト上に車いすを乗り入れる前に、必ずスイングアームリフトを車外スライド・下降および上昇・車内スライドさせ、作動中に異常な振動・音などがないことを確認してください。

▶ 確認のしかた

① 安全で平坦な場所に停車し、エンジンをかけたままにしておく

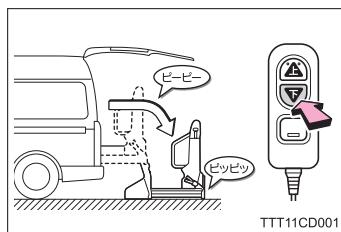
② リフトメインスイッチを ON 状態にし、バックドアを全開にする

- ・ バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチが ON になります。



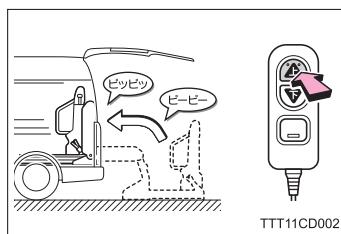
③ 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトを車外スライド・下降させる

- ・ 作動中 “ピーピー” とブザーが鳴ります。
- ・ 規定の位置まで下降すると自動的に停止し、“ピッピッ” とブザーが鳴ります。



④ 操作スイッチの「上」を押し続け、スイングアームリフトを上昇・車内スライドさせる

- ・ 作動中 “ピーピー” とブザーが鳴ります。
- ・ 規定の位置までスライドすると自動的に停止し、“ピッピッ” とブザーが鳴ります。



● 異常が認められたときは、ただちにスイングアームリフトの使用を停止し、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 警告

■スイングアームリフトを操作するときは

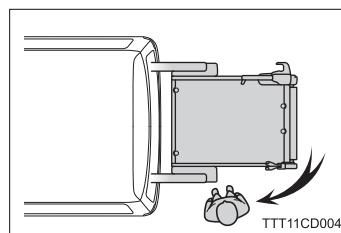
- 急な坂や階段・段差および凹凸のはげしい場所では絶対に使用しないでください。

車いす乗車の方がスイングアームリフトから転落したり、スイングアームリフトが段差からはずれて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



- スイングアームリフトを操作するときは、車両から少し離れた斜め後方の安全な場所で操作してください。

近付きすぎたり真うしろで操作するとスイングアームリフトが手足にあたったり、上昇操作時に車高が下がるためバックドアが頭にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



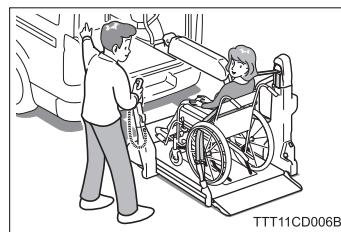
- 作動範囲内に人やものがないことを確認し、作動範囲内で操作しないでください。

- ・ スイングアームリフトに手足を挟まれたり、ものが損傷するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ・ スイングアームリフトが車内にスライドしているとき、シートをご利用の方の足がシートの下にないことを確認してください。



- 車いす乗車の方に合図してから操作をしてください。

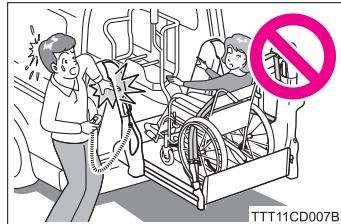
急に操作すると、スイングアームリフトの不意な作動により、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 警告

- リフトアームに手をかけないでください。

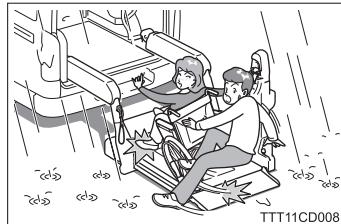
リフトアームに手を挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



TTT11CD007B

- 悪天候時、スイングアームリフトを使用するときは、スイングアームリフトがゆれたり、プラットホームや後退防止用ストッパーがすべりやすくなりますのでご注意ください。

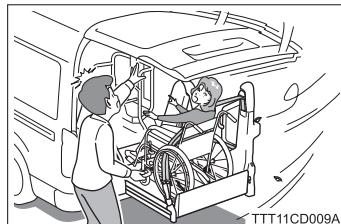
風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。



TTT11CD008

- 強風時、バックドアが閉まることがあります。

バックドアが頭にあたるおそれがありますので、注意してください。



TTT11CD009A

- スイングアームリフトに3名以上乗ったり、スイングアームリフトの最大昇降能力をこえないでください。

スイングアームリフトが故障し、スイングアームリフトや車いすから転落したり、手足を挟まれるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- スイングアームリフトの定員：2名
- 最大昇降能力：250kg（車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方の合計重量）



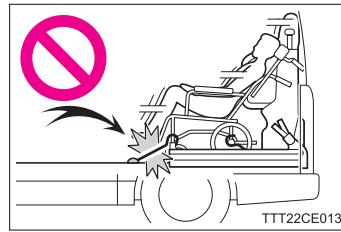
TTT11CD010A

⚠ 警告

■スイングアームリフトを操作するときは（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”）

大型車いす用ベルトで大型車いすを固定したままスイングアームリフトを車外にスライドさせないでください。

大型車いすは床面に取り付けた大型車いす用ベルトとスイングアーム上の車いす固定装置で固定します。スイングアームリフトの作動により無理な力が加わると、思わぬ事故の原因になって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■車いすをスイングアームリフトにのせたときは

車いすを停止位置で停止させ、車いすのブレーキを両輪ともかけてください。スイングアームリフト格納時、スイングアームリフトと車両のあいだで足を挟まれたり、車いすが転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▶ 車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”

① 左右位置：車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる

② 前後位置：次の目安を参考に、車いすの前後位置を調整する

〈車いす前方〉

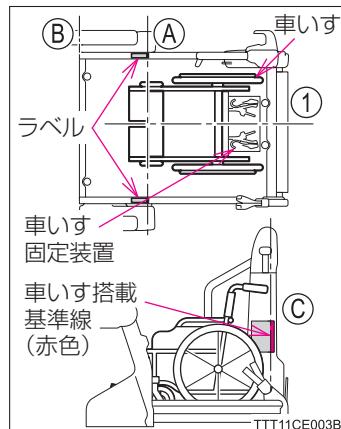
Ⓐ 車いす固定ベルトのフックをかける位置をプラットホーム上のラベルよりも前側にする

Ⓑ 車いす乗車の方の足や車いすの前端がプラットホームから出でていないことを確認する

〈車いす後方〉

Ⓒ バックドアを閉めるときは、車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも前側になっていることを確認する

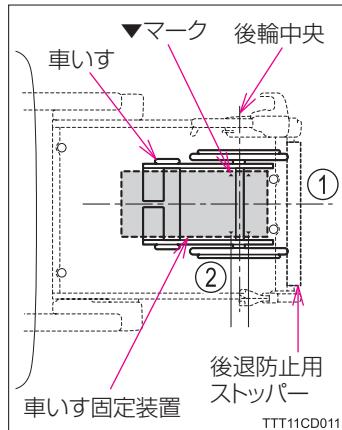
車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になってしまふときは、バックドアを閉める際、車いすにあたらないことを確認しながらゆっくり閉めてください。



⚠ 警告

▶ 車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”

- ① 左右位置：車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：車いすの後輪中央が床面
 ▼ ▼マーク間に位置を目安に停止させる
 - ・車いすの後輪が後退防止用ストッパーにあたる場合は、前側の▼マークを目安にして、あたらぬ位置まで前方に移動させます。



■ スイングアームリフト上で車いすを固定したときは（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”）

車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になってしまうときは、バックドアを閉める際、車いすにあたらぬことを確認しながらゆっくり閉めてください。バックドアが車いす乗車の方の頭にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車いすおよびバックドアが破損するおそれもあります。



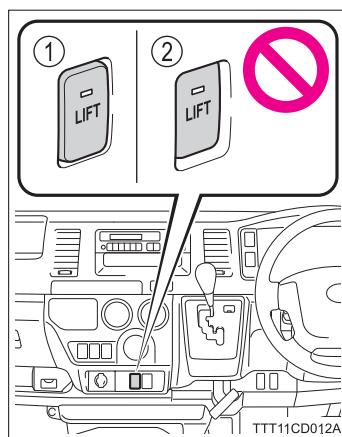
■ スイングアームリフトおよび車いす固定装置使用後は

バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にしてください。

リフトメインスイッチが ON 状態になっていると、誤ってスイッチが押された場合、スイングアームリフトおよび車いす固定装置の不意な作動により、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。（スイングアームリフトの作動条件→ P.66、車いす固定装置の作動条件→ P.85, 107）

① OFF 状態

② ON 状態



車いすの固定およびシートベルトの着用について

車いすの固定およびシートベルトの着用について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

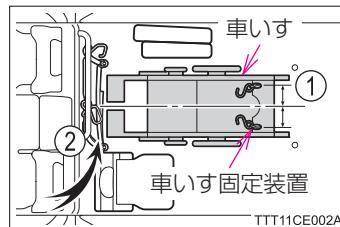
⚠ 警告

■車いすの停止位置について

車いすを停止位置で停止させ、車いすのブレーキを両輪ともかけてください。スイングアームリフト格納時、スイングアームリフトと車両のあいだで足を挟まれたり、車いすが転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

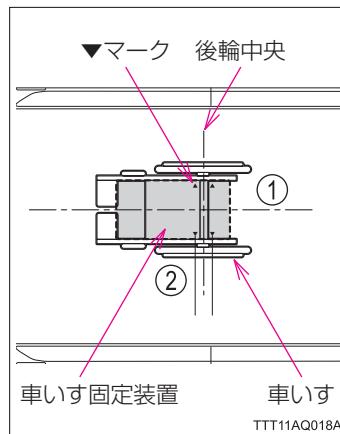
- ▶ スイングアームリフト上 (→ P.27, 28)
- ▶ スイングアームリフト上で大型車いすを固定する場合 (車いす仕様車 "A タイプ / AS タイプ") (→ P.90)
- ▶ 車内(スイングアームリフト上以外)(車いす仕様車 "A タイプ / AS タイプ")

- ① 左右位置：車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：車いす乗車の方のつま先ができるだけ車両前方になる位置まで乗り入れる



- ▶ 車内 (スイングアームリフト上以外) (車いす仕様車 "B タイプ / C タイプ / D タイプ / F タイプ")

- ① 左右位置：車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：車いすの後輪中央が床面
 ▼ ▼マーク間になる位置を目安に停止させる
 - ・ 車いす乗車の方の手足がシートおよび他の車いす乗車の方などにあたっていないことを確認します。
 - ・ あたるときは車いすの後輪中央が床面▼▼マーク間になる位置で、車いすの前後位置を調整します。



⚠ 警告

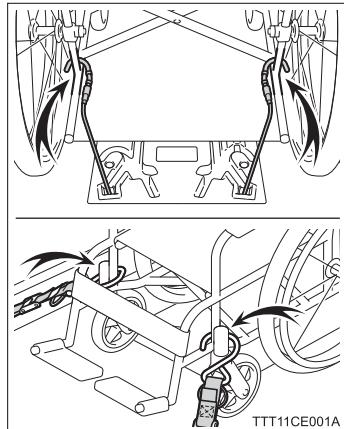
■走行前の車いす固定状態の確認

サポートバーまたはフックを前後左右にゆすり、ワイヤーにたるみがなく車いすが確実に固定されていることを確認してください。

確実に固定されていないと、走行中に車いすが動き出し、車いすが損傷したり、転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

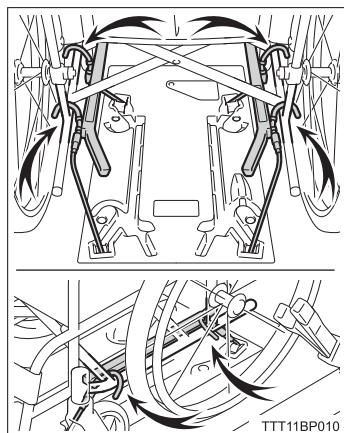
▶車いす仕様車 “Aタイプ／ASタイプ”

フックがフレーム接合部にかかっており、フックをゆすったときにフックが動かないことを確認してください。



▶車いす仕様車 “Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”

フックがフレーム接合部にかかっており、サポートバーまたはフックをゆすったときにフックが動かないことを確認してください。



■車いすのタイヤ空気圧について

車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 警告

■車いす乗車の方のシートベルト着用確認

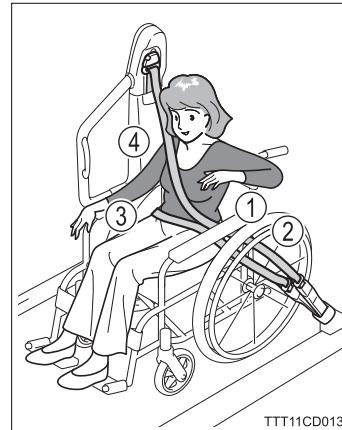
走行中は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▶ 3点式シートベルト（手動車いすでの着用）

必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方をねじれないように着用してください。

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下とスパークのあいだを通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

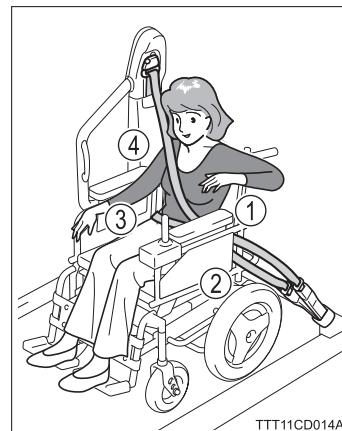


TTT11CD013

▶ 3点式シートベルト（電動車いすでの着用）

必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方をねじれないように着用してください。

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下とスカートガードのあいだを通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。



TTT11CD014A

⚠ 警告

▶ 2点式シートベルト（車いす仕様車 “Dタイプ”）

必ず腰部ベルトをねじれがないように着用してください。

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下とスロークのあいだを通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる



■ チャイルドシートの装着禁止

リヤ席にチャイルドシートを装着しないでください。

※ ウエルジョインのリヤ席はチャイルドシートの装着ができますので、標準車取扱書の「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。



■ 車内を移動するときは（車いす仕様車 “Aタイプ／ASタイプ”）

足元に注意してください。

車内の車いす用シートベルトのバックルでつまずいてけがをするおそれがあります。



車両火災・故障・損傷を防ぐために

車両火災・故障・損傷を防ぐために、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

□ 知識

■ バッテリーの取り扱いについて

スイングアームリフト操作中にバッテリーをはずさないでください。スイングアームリフトが作動しなくなります。

- スイングアームリフト操作中にバッテリーの交換またははずしたときは、バッテリーの接続状態を確認し、リセット操作をしてください。(→ P.243)

⚠ 警告

■ 清掃するときは

車内およびスイングアームリフトを水洗いしないでください。

スイングアームリフトのユニットや車いす固定装置などの電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 手入れ、清掃のしかたは、装置により異なります。「お手入れのしかた」を参照し、正しく手入れ、清掃をしてください。(→ P.205)



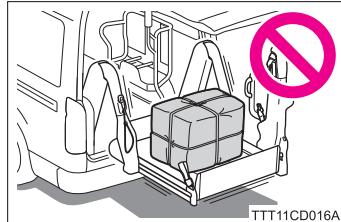
⚠ 注意

■スイングアームリフトについて

スイングアームリフトに荷物を載せたり、最大昇降能力をこえないでください。

スイングアームリフトは車いすの昇降専用です。荷物を載せたり最大昇降能力をこえると、荷物の落下やスイングアームリフトの故障につながるおそれがあります。

- 最大昇降能力 250kg (車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方の合計重量)



TTT11CD016A

■電動車いすを固定したときは

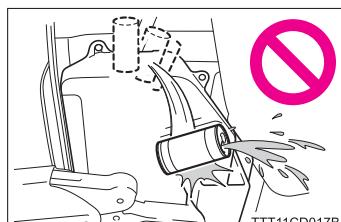
電動車いすの動力を使用して固定状態の確認をしないでください。

車いす固定装置が故障するおそれがあります。

■ポンプ保護カバーについて

ポンプ保護カバー付近に飲み物などを置いたり、水をかけないでください。

ポンプ保護カバー内にはスイングアームリフトの作動をコントロールする機器が設けてあります。水がかかると機器が故障するおそれがあります。



TTT11CD017B

■積雪時のスイングアームリフトの使用について

積雪時にスイングアームリフトを使用する場合、プラットホーム下面に雪が付着しないようにしてください。

作動不良になったり、室内で凍結し、スイングアームリフトの故障につながるおそれがあります。

プラットホーム下面に雪が付着したときは、スイングアームリフトを少し上昇させた状態で、雪を取り除いてから格納してください。



TTT11CD018

車いすの車内外への 乗り降り（車いす仕様車）

2

2-1. スイングアームリフトを 使用する前に	
ご使用前に確認して いただきたいこと	36
2-2. 車いすの車内外への 乗降・固定	
操作の流れ：車いすの 車内外への乗降・固定	44
リフトメインスイッチ	58
スイングアームリフトの スライド・昇降のしかた	66
後退防止用ストッパー	74
スイングアームリフト・ 車内への乗り入れ	78
車いす固定装置（車いす仕様車 “Aタイプ／ASタイプ”）	85
車いす固定装置（車いす仕様車 “Bタイプ／Cタイプ／ Dタイプ／Fタイプ”）	107
車いす用シートベルト	118
車いす収納装置	127

ご使用前に確認していただきたいこと

スイングアームリフトは車いすまたは人を乗せた車いすを、プラットホームに乗せて車に乗り降りさせる装置です。
操作はすべて介助の方が行ってください。

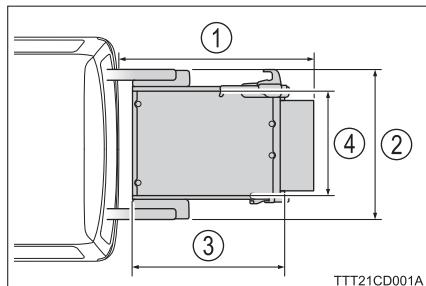
重量について

スイングアームリフトに乗り入れる、車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方の重量の合計が250kg以下であることを確認してください。

スイングアームリフトの最大昇降能力：250kg・定員2名

スイングアームリフト寸法

- ① リフト張出し長さ
- ② リフト幅
- ③ プラットホーム長さ
(有効寸法)
- ④ プラットホーム幅
(有効寸法)



単位：mm

①	②	③	④
1800	1245	1200	790

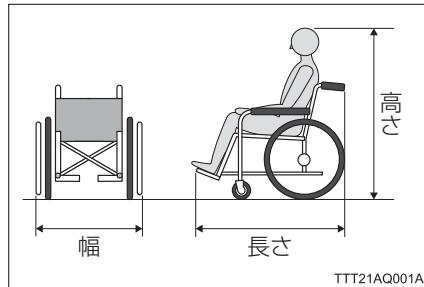
車いすのタイヤ空気圧について

車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

車いす・ストレッチャー乗車の目安

■車いす乗車の目安

車いすの購入にあたっては、P.38～42の車いす乗車の目安を参考に、室内高および座高を考慮してお求めください。



- 特に体格の大きい方はご注意ください。
- 車いすの乗り入れは、図中の番号順に行ってください。
- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定装置のフックが正しくかけられないときがあります。 (→ P.88, 93, 99, 109)
- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがある場合、シートベルトを正しく着用できないときがあります。 (→ P.119, 121)

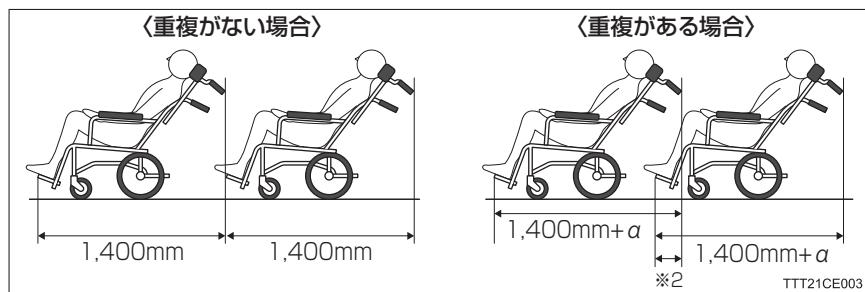
車両タイプ	室内レイアウト	乗車人数
車いす仕様車 Aタイプ		車いすご利用時 乗車人数 7名 (5名+車いす2名)
		ストレッチャー ^{※1} ご利用時 乗車人数 7名 (5名+車いす1名+) ストレッチャー1名

単位: mm

車いす仕様車	①			②		
	幅	長さ	高さ	幅	長さ	高さ
Aタイプ	670	1,400 ^{※2}	1,435	785	1,400 ^{※2}	1,435
ストレッチャー同時乗車時	785	990	1,435	—	—	—

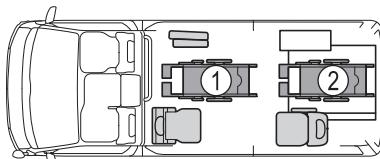
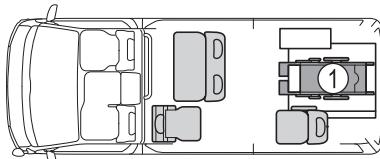
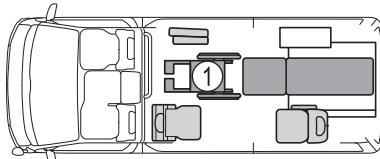
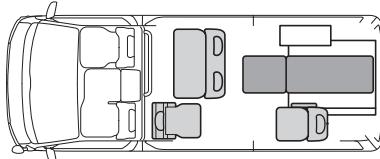
■ 大型車いすの長さの目安

上記数値は①②に同じ長さの車いすが乗車し、重複がない場合の目安です。重複が可能な場合(①②の車いすの前後の形状によります)は、さらに全長が長い車いすの乗車も可能です。



※2: 重複した分、それぞれの車いすの長さに余裕が出ます。

※1: ストレッチャー固定装置は架装オプションになります。

車両タイプ	室内レイアウト	乗車人数
車いす仕様車 ASタイプ		車いすご利用時 乗車人数 7名 (5名+車いす2名)
		車いすご利用時 乗車人数 8名 (7名+車いす1名)
		ストレッチャー ^{※1} ご利用時 乗車人数 7名 (5名+車いす1名+ストレッチャー1名)
		ストレッチャー ^{※1} ご利用時 乗車人数 8名 (7名+ストレッチャー1名)

単位：mm

車いす仕様車	(1)			(2)		
	幅	長さ	高さ	幅	長さ	高さ
ASタイプ	650	1,400 ^{※2}	1,435	785	1,400 ^{※2}	1,435
[ストレッチャー同時乗車時]	650	950	1,435	—	—	—

※2：重複した分、それぞれの車いすの長さに余裕が出ます。

■大型車いすの長さの目安

Aタイプと同様です。 (→ P.38)

車両タイプ	室内レイアウト			乗車人数
車いす仕様車	ロングボディー			車いすご利用時 乗車人数 10名 (8名+車いす2名)
				ストレッチャーご利用時 乗車人数 9名 (8名+ストレッチャー1名)
	Bタイプ			車いすご利用時 乗車人数 9名 (7名+車いす2名)
				ストレッチャーご利用時 乗車人数 8名 (7名+ストレッチャー1名)
	Cタイプ			車いすご利用時 乗車人数 10名 (9名+車いす1名)

単位：mm

車いす仕様車	(1)			(2)		
	幅	長さ	高さ	幅	長さ	高さ
Bタイプロングボディー	725	1,080	1,435	785	1,265	1,435
Bタイプスーパー長ボディー	785	1,395	1,495	785	1,265	1,495
Cタイプ	785	1,265	1,435	—	—	—

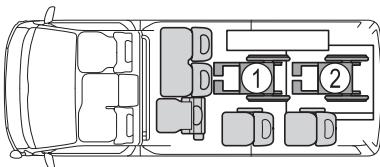
※：ストレッチャー固定装置は架装オプションになります。

車両タイプ	室内レイアウト	乗車人数
車いす仕様車 Dタイプ		車いすご利用時 乗車人数 9名 (7名+車いす2名)
		車いすご利用時 乗車人数 8名 (4名+車いす4名)
		車いす・ストレッチャー*ご利用時 乗車人数 7名 (4名+車いす2名+ストレッチャー1名)
		ストレッチャー*ご利用時 乗車人数 8名 (7名+ストレッチャー1名)

単位：mm

車いす仕様車	車いす2脚乗車時	(1)			(2)			(3)			(4)		
		幅	長さ	高さ									
Dタイプ	車いす2脚乗車時	785	1,080	1,495	785	1,265	1,495	—	—	—	—	—	—
	車いす4脚乗車時	680	990	1,495	680	990	1,495	785	1,010	1,495	785	1,265	1,495
	車いす2脚+ストレッチャー同時乗車時	680	990	1,495	680	990	1,495	—	—	—	—	—	—

*: ストレッチャー固定装置は架装オプションになります。

車両タイプ	室内レイアウト			乗車人数
車いす仕様車	Fタイプ			車いすご利用時 乗車人数 10名 (8名*+車いす2名)

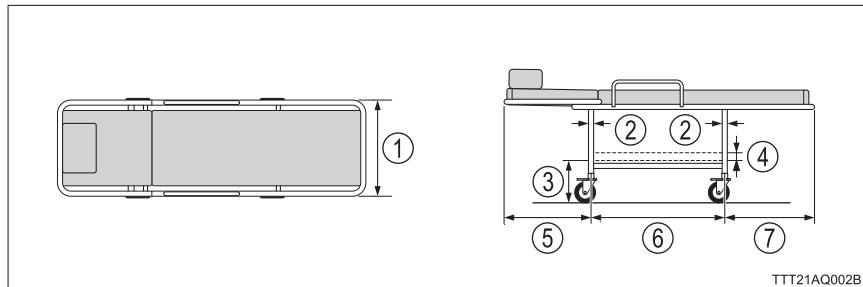
* : 車いすからシートに移乗された方（2名）を含む

単位 : mm

車いす仕様車	①			②		
	幅	長さ	高さ	幅	長さ	高さ
Fタイプ	725	1,080	1,435	725	1,265	1,435

■参考：ストレッチャー乗車の目安

架装オプションのストレッチャー固定装置を使用する場合のストレッチャー乗車の目安は、次のとおりです。



① 幅

③・④ 固定位置高さ

② パイプ直径

⑤・⑥ 固定位置（パイプ中心）前後間隔

単位 : mm

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
560以下	25～28	240	45	515以下	775～780	510以下

⚠ 警告

■スイングアームリフトを使用するときは

スイングアームリフトに3名以上乗ったり、スイングアームリフトの最大昇降能力をこえないでください。

スイングアームリフトが故障し、スイングアームリフトや車いすから転落したり、手足を挟まれるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●スイングアームリフトの定員：2名

●最大昇降能力：250kg（車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方の合計重量）

■車いすのタイヤ空気圧について

車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 注意

■故障を防ぐために

スイングアームリフトに荷物を載せたり、最大昇降能力をこえないでください。スイングアームリフトは車いす・ストレッチャーの昇降専用です。荷物を載せたり最大昇降能力をこえると、荷物の落下やスイングアームリフトの故障につながるおそれがあります。

操作の流れ：車いすの車内外への乗降・固定

スイングアームリフト・車いす固定装置および車いす用シートベルトを使用して車内外に乗降・固定するときは、次の手順で行います。すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

車いすを乗り入れ・固定する位置および大型車いすの場合で、手順が異なります。該当する乗り入れ・固定位置および車いすの種類のページを参照してください。

大型車いすの定義は P.78 を参照してください。

●車いすをスイングアームリフト上に

乗り入れ・固定するときは P.44

●大型車いすをスイングアームリフト上に乗り入れ・

固定するときは（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”）.... P.48

●車いすを車内（スイングアームリフト上以外）に乗り入れ・

固定するときは（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ／

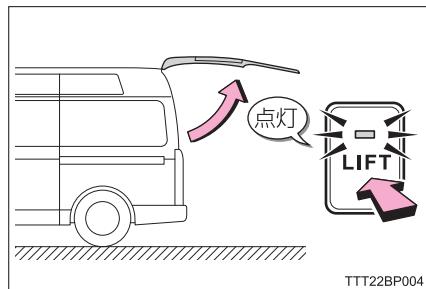
Bタイプ／Dタイプ／Fタイプ”） P.53

車いすをスイングアームリフト上に乗り入れ・固定するときは

① 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする

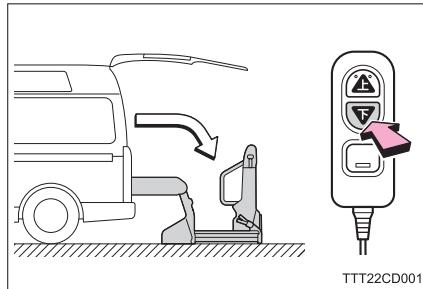
② リフトメインスイッチを ON 状態にし、バックドアを全開にする（→ P.58）

バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチが ON になります。



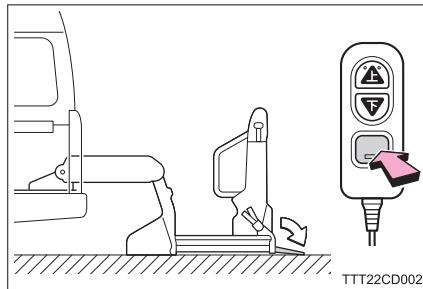
- 3 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトをスライド・下降させる（→ P.67）

- ・自動的に停止するまで下降させます。
- ・停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



- 4 倒しボタンを押し続け、後退防止用ストッパーをうしろ側に倒す（→ P.74）

後退防止用ストッパーが接地するまで倒します。



- 5 車いすをスイングアームリフト上の停止位置で止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.78）

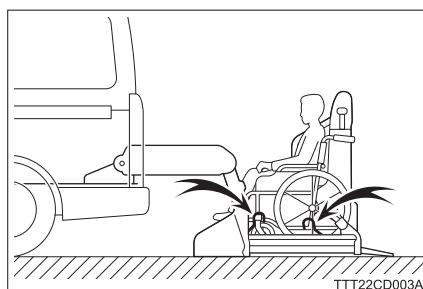
（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”

→ P.79）

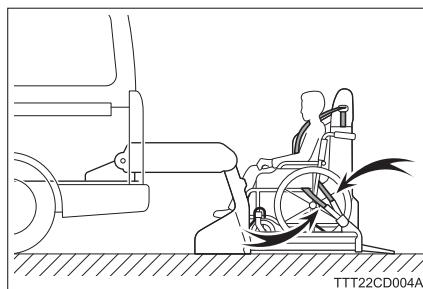
- 6 スイングアームリフト上の車いす固定装置で車いすを固定する
（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.86）

（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”

→ P.109）

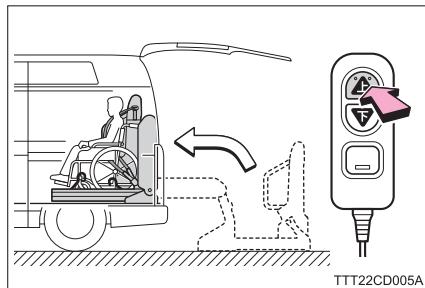


- 7 スイングアームリフト上の車いす用シートベルトを着用する
（→ P.119）



8 スイングアームリフトを上昇・スライドさせる (→ P.68)

- ・自動的に停止するまでスライドさせます。
- ・停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



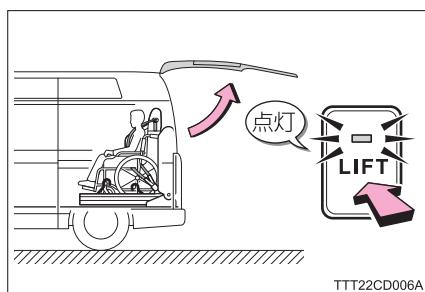
9 バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする (→ P.58)

車いすをスイングアームリフト上から固定解除・降車するときは

1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする

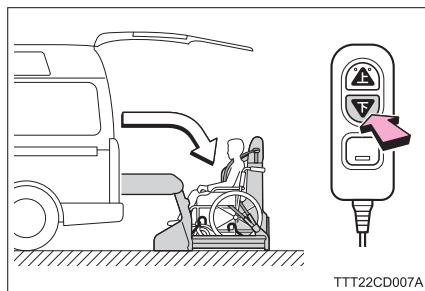
2 リフトメインスイッチを ON 状態にし、バックドアを全開にする (→ P.58)

バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチが ON になります。



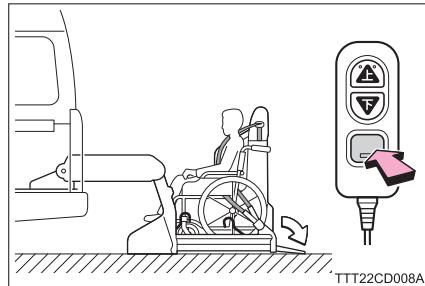
3 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトをスライド・下降させる (→ P.67)

- ・自動的に停止するまで下降させます。
- ・停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



- 4 倒しボタンを押し続け、後退防止用ストッパーをうしろ側に倒す (→ P.74)

後退防止用ストッパーが接地するまで倒します。



- 5 スイングアームリフト上の車いす用シートベルトをはずす (→ P.122)

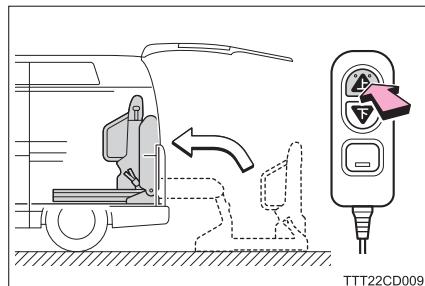
- 6 スイングアームリフト上の車いす固定装置での車いすの固定を解除する
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.89)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”
→ P.112)

- 7 車いすのブレーキを両輪とも解除する

- 8 車いすを安全な場所に移動し、車いすのブレーキを両輪ともかける

- 9 スイングアームリフトを上昇・
スライドさせる (→ P.68)

- 自動的に停止するまでスライドさせます。
- 停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



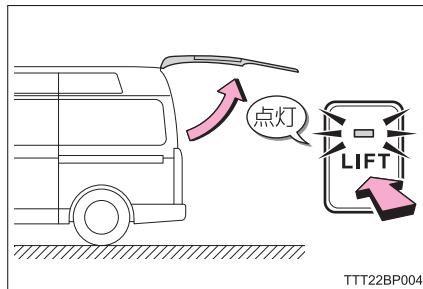
- 10 バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする
(→ P.58)

**大型車いすをスイングアームリフト上に乗り入れ・固定するときは
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”)**

- ① 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする

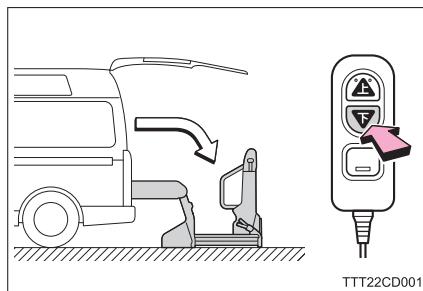
- ② リフトメインスイッチを ON 状態にし、バックドアを全開にす
る (→ P.58)

バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチが ON になります。



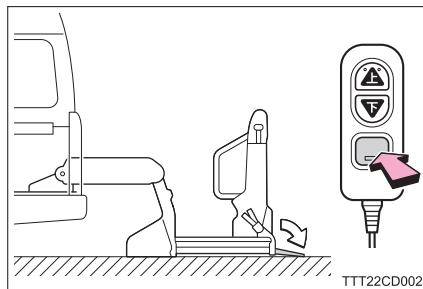
- ③ 操作スイッチの「下」を押し続け、
スイングアームリフトをスライ
ド・下降させる (→ P.67)

- ・自動的に停止するまで下降させま
す。
- ・停止すると “ピッピッ” とブザー
が鳴ります。



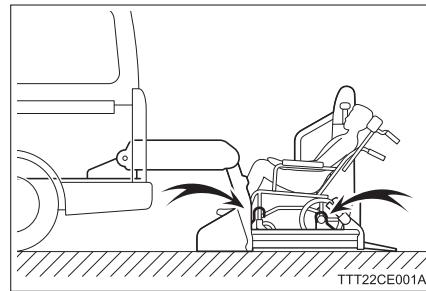
- ④ 倒しボタンを押し続け、後退防
止用ストッパーをうしろ側に倒
す (→ P.74)

後退防止用ストッパーが接地するまで
倒します。



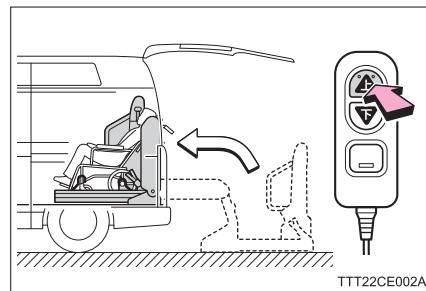
- 5 車いすをスイングアームリフト上の停止位置で止め、車いすのブレーキを両輪ともかける（→ P.78）

- 6 スイングアームリフト上の車いす固定装置で車いすを固定する（→ P.86）



- 7 スイングアームリフトを上昇・スライドさせる（→ P.68）

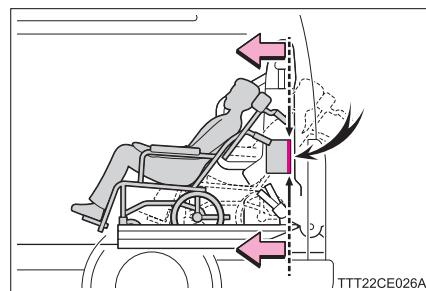
- 自動的に停止するまでスライドさせます。
- 停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



- 8 スイングアームリフト上の車いす固定装置での車いすの固定を解除する（→ P.89）

- 9 車いすのブレーキを両輪とも解除する

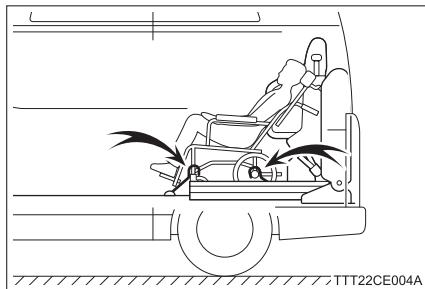
- 10 車いす搭載基準線（赤色）より前方まで車いすを動かし、車いすのブレーキを両輪ともかける（→ P.90）



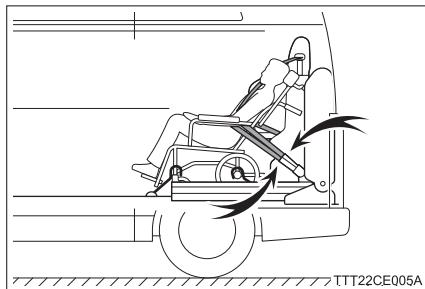
- 11 大型車いす用ベルトを車両に取り付ける（→ P.90）

大型車いす用ベルトが車両に取り付けてあるときは、フックを仮置き位置（→ P.95）からはずします。

- 12 大型車いす用ベルトおよびスイングアームリフト上の車いす固定装置で車いすを固定する
(→ P.92)



- 13 スイングアームリフト上の車いす用シートベルトを着用する
(→ P.119)



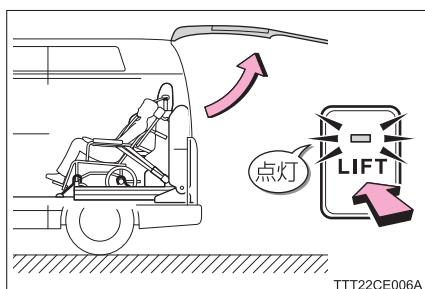
- 14 バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする
(→ P.58)

**大型車いすをスイングアームリフト上から固定解除・降車するときは
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”)**

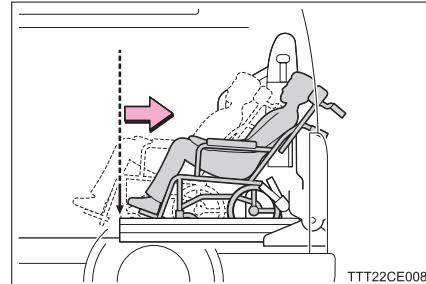
- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする

- 2 リフトメインスイッチを ON 状態にし、バックドアを全開にする
(→ P.58)

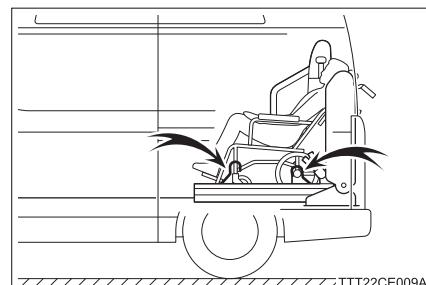
バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチが ON になります。



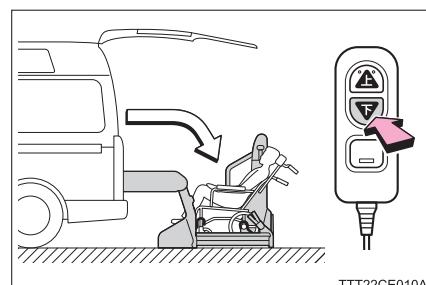
- 3 スイングアームリフト上の車いす用シートベルトをはずす(→P.122)
- 4 大型車いす用ベルトおよびスイングアームリフト上の車いす固定装置での車いすの固定を解除する(→P.94)
- 5 大型車いす用ベルトのフックを仮置き位置に引っかける(→P.95)
- 6 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- 7 車いすをスイングアームリフトの停止位置まで移動し、車いすのブレーキを両輪ともかける(→P.78)



- 8 スイングアームリフト上の車いす固定装置で車いすを固定する(→P.86)

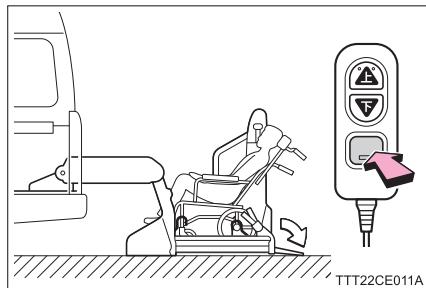


- 9 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトをスライド・下降させる(→P.67)
- 自動的に停止するまで下降させます。
 - 停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



- 10 倒しボタンを押し続け、後退防止用ストッパーをうしろ側に倒す (→ P.74)

後退防止用ストッパーが接地するまで倒します。



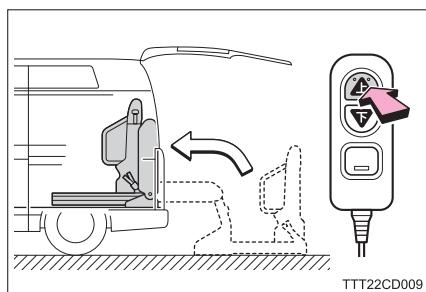
- 11 スイングアームリフト上の車いす固定装置での車いすの固定を解除する (→ P.89)

- 12 車いすのブレーキを両輪とも解除する

- 13 車いすを安全な場所に移動し、車いすのブレーキを両輪ともかける

- 14 スイングアームリフトを上昇・スライドさせる (→ P.68)

- 自動的に停止するまでスライドさせます。
- 停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



- 15 バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする (→ P.58)

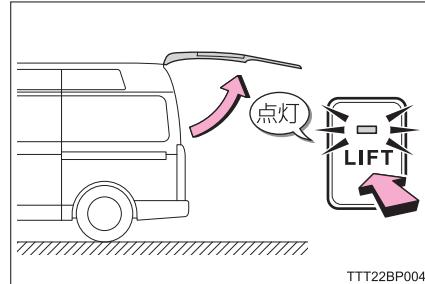
車いすを車内（スイングアームリフト上以外）に乗り入れ・固定するときは（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ／Bタイプ／Dタイプ／Fタイプ”）

Fタイプで車いすからシートに移乗される方・移乗されない方が同時に乗車するときは、車いすからシートに移乗される方が先に乗車します。

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする

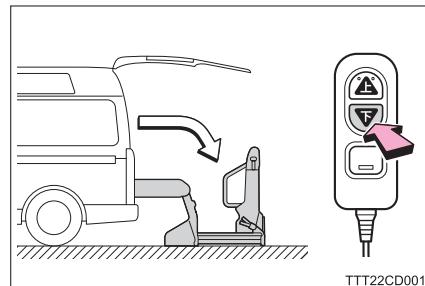
- 2 リフトメインスイッチをON状態にし、バックドアを全開にする（→P.58）

バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチがONになります。



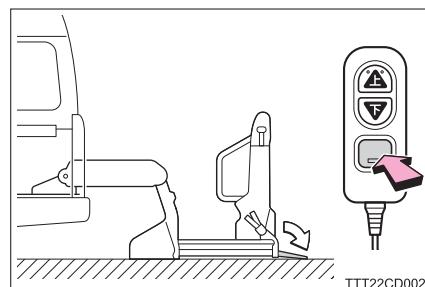
- 3 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトをスライド・下降させる（→P.67）

- 自動的に停止するまで下降させます。
- 停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



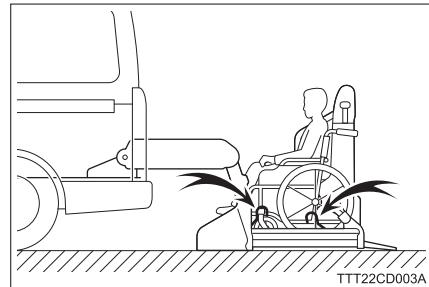
- 4 倒しボタンを押し続け、後退防止用ストッパーをうしろ側に倒す（→P.74）

後退防止用ストッパーが接地するまで倒します。

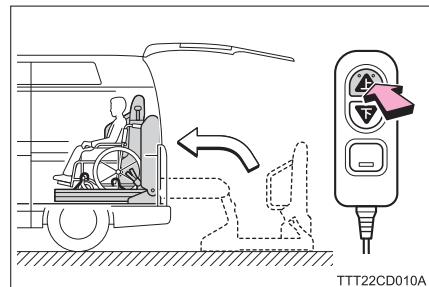


- 5 車いすをスイングアームリフト上の停止位置で止め、車いすのブレーキを両輪ともかける
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.78)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.79)

- 6 スイングアームリフト上の車いす固定装置で車いすを固定する
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.86)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.109)



- 7 スイングアームリフトを上昇・スライドさせる (→ P.68)
・自動的に停止するまでスライドさせます。
・停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



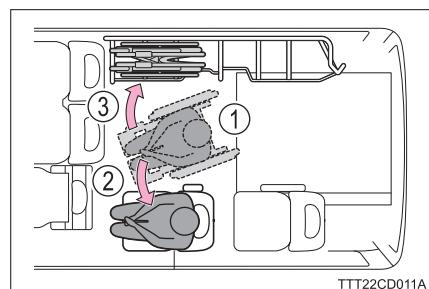
- 8 スイングアームリフト上の車いす固定装置での車いすの固定を解除する
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.89)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.112)

- 9 車いすのブレーキを両輪とも解除する

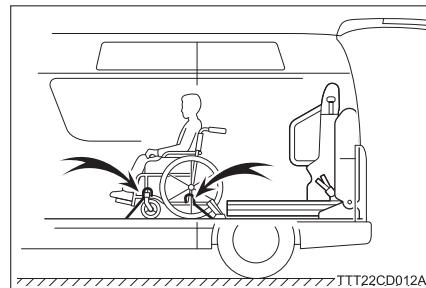
- 10 車いすを車内の停止位置まで移動し、車いすのブレーキを両輪ともかける
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.97)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.108)

► F タイプで車いすからシートに移乗するときは

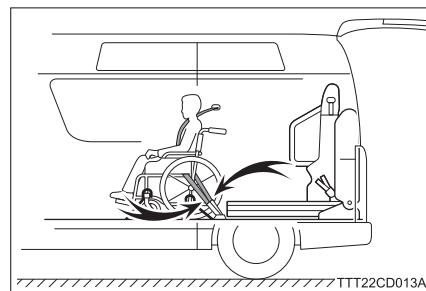
- ① 車いすをシートに近付け、車いすのブレーキを両輪ともかける
- ② 車いすからシートに移乗する (→ P.81)
- ③ 車いすを折りたたんで収納する (→ P.131)



- 11 車内の車いす固定装置で車いすを固定する
(車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”→P.98)
(車いす仕様車“Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”→P.110)



- 12 車内の車いす用シートベルトを着用する (→P.119, 121)



- 13 バックドアを閉め、リフトメインスイッチをOFF状態にする
(→P.58)

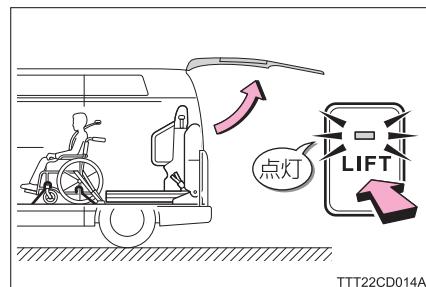
車いすを車内（スイングアームリフト上以外）から固定解除・降車するときは（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ／Bタイプ／Dタイプ／Fタイプ”）

Fタイプでシートから車いすに移乗して降車されるときは、車いすに乗られている方が先に降車します。

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする

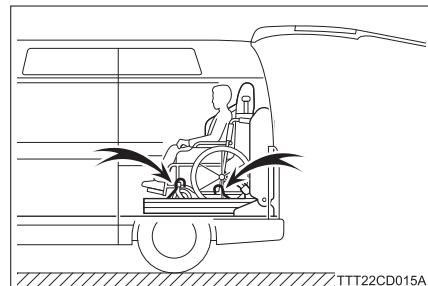
- 2 リフトメインスイッチをON状態にし、バックドアを全開にする (→P.58)

バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチがONになります。

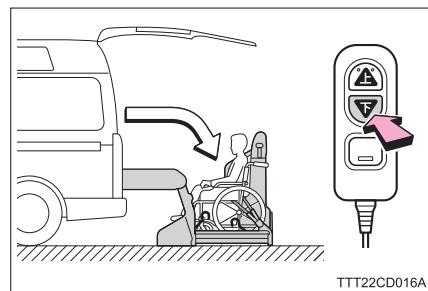


- 3 車内の車いす用シートベルトをはずす (→ P.122)
- 4 車内の車いす固定装置での車いすの固定を解除する
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.100)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.112)
- 5 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- 6 車いすをスイングアームリフトの停止位置まで移動し、車いすのブレーキを両輪ともかける
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.78)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.79)

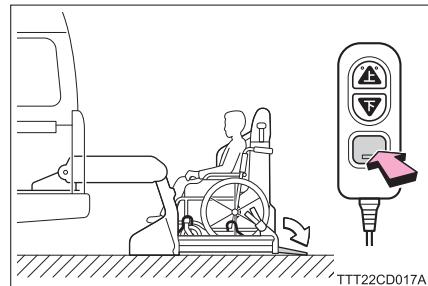
- 7 スイングアームリフト上の車いす固定装置で車いすを固定する
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.86)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.109)



- 8 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトをスライド・下降させる (→ P.67)
- 自動的に停止するまで下降させます。
 - 停止すると “ピッピッ” とブザーが鳴ります。



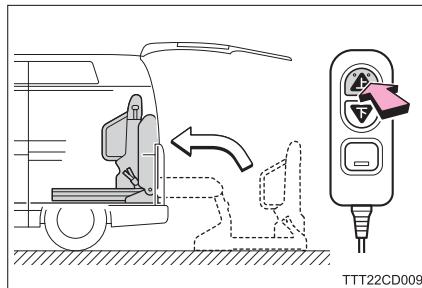
- 9 倒しボタンを押し続け、後退防止用ストッパーをうしろ側に倒す (→ P.74)
後退防止用ストッパーが接地するまで倒します。



- 10 スイングアームリフト上の車いす固定装置での車いすの固定を解除する
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.89)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.112)

操作の流れ：車内 (A タイプ／AS タイプ／B タイプ／D タイプ／F タイプ)

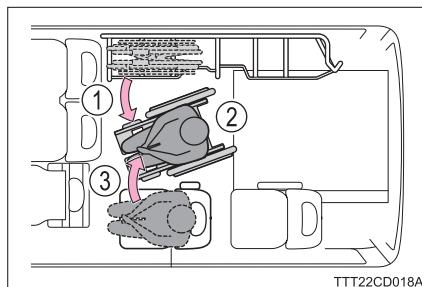
- 11 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- 12 車いすを安全な場所に移動し、車いすのブレーキを両輪ともかける
- 13 スイングアームリフトを上昇・スライドさせる（→ P.68）
- ・自動的に停止するまでスライドさせます。
 - ・停止すると“ピッピッ”とブザーが鳴ります。



▶ Fタイプでシートから車いすに移乗するときは

- ① 車いすを車いす収納装置から取り出す（→ P.133）
- ② 車いすをシートに近付けて止め、ブレーキを両輪ともかける
- ③ シートから車いすに移乗する（→ P.82）
- ④ 車いすのブレーキを両輪とも解除し、⑥～⑬の方法で車外に降車およびスイングアームリフトを車内に格納する

- 14 バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする（→ P.58）



□ 知識

■ 後退防止用ストッパーについて

スイングアームリフトが車内に格納された状態で、バックドア側から車内に乗り降りするときは、後退防止用ストッパーを前側に倒すと容易に乗り降りできます。（→ P.76）

ただし、後退防止用ストッパーが前側に倒れたままだと、操作スイッチを押してもスイングアームリフトは作動しません。通常は必ず後退防止用ストッパーを起こした状態にし、解除レバーがロック位置にあることを確認してください。

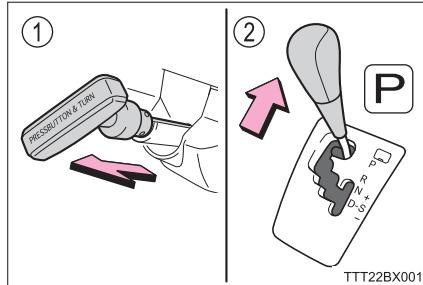
リフトメインスイッチ

リフトメインスイッチ ON のしかた

スイングアームリフトおよび車いす固定装置を使用する前に、リフトメインスイッチを ON にします。

- ① 車両が安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車する

- ① パーキングブレーキをかける
② シフトレバーを P の位置にする



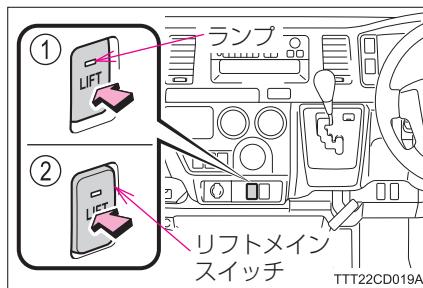
TTT22BX001

- ② リフトメインスイッチを押し、ON 状態にする

このときランプは点灯せず、リフトメインスイッチは ON になっていません。

- ① ON 状態

- ② OFF 状態



TTT22CD019A

- ③ スイングアームリフトの作動範囲内に人やものがないことを確認する

- ④ バックドアを全開にする

リフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチが ON になります。

リフトメインスイッチ OFF のしかた

スイングアームリフトおよび車いす固定装置使用後は、必ずリフトメインスイッチを OFF にしてください。

- ① バックドアを閉める

リフトメインスイッチのランプが消灯し、OFF になります。

- ② リフトメインスイッチを押し、OFF 状態にする

 **知識****■リフトメインスイッチについて**

バックドアを開けないと、リフトメインスイッチは ON になりません。

■シフトレバーについて

スイングアームリフトを使用するときは、必ずシフトレバーを P の位置にしてください。

- シフトレバーが P 以外の位置のとき、操作スイッチの「下」を押しても“ピー”とブザーが鳴り、スイングアームリフトは作動しません。
- 次の状態でバックドアが開いているとシフトインターロックが作動し、シフトレバーを P の位置から動かせません。

- ・ スイングアームリフトが完全に格納されていない（“ピッピッ”とブザーが鳴るまでスイングアームリフトを車内にスライドさせていない）状態のとき
- ・ 後退防止用ストッパーが前側に倒れた状態（→ P.76）のとき

バックドアを閉める前にスイングアームリフトを完全に格納し（→ P.69）、後退防止用ストッパーを起こした位置で確実にロックさせてください。

バックドアを閉めてもシフトレバーが P の位置から動かないときは、シフトロックを解除し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→標準車取扱書の「シフトレバーがシフトできないときは」）

 知識

■ ブザーについて

動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

► スイングアームリフト

ブザー	動作・状況
ピーッ	操作スイッチの「上」または「下」を押してスイングアームリフトが作動を開始するとき
ピーピー…	スイングアームリフト作動中
ピッピッ	スイングアームリフトが車外に完全に下降したとき
	スイングアームリフトが車内に完全に格納したとき
警告時	シフトレバーがP以外の位置で、操作スイッチの「下」を押したとき
	バックドアが閉まった状態で、操作スイッチの「下」を押したとき
	スイングアームリフトの車内スライド時、光電センサーのセンサー光の感知範囲内に人やものがあることを感知したとき（車いす仕様車“Fタイプ”）
	スイングアームリフトがスライド途中で、操作スイッチの「上」または「下」から指を離したとき※4
	スイングアームリフトが完全に格納されていないとき
	後退防止用ストッパーが前側に倒れた状態で、バックドアを閉めたとき

※1：スイッチを押しているあいだ、鳴り続けます。

※2：車いす固定装置の“ピッピッ…”音より、間隔が少し短めのブザーが鳴ります。

※3：車内スライド完了または感知範囲内から人やもののがなくなるとブザーが鳴りやみます。

※4：操作スイッチを押すまで鳴り続けます。

※5：スイングアームリフト作動中の“ピーピー…”音より、間隔が少し長めのブザーが鳴ります。

 **知識**

▶ スイングアームリフト／車いす固定装置共通

ブザー		動作・状況
警告時	ピ—...※ 6 (約3分間)	複数の装置のスイッチを同時に押したとき（作動停止）

※ 6：スイッチを押しているあいだ、鳴り続けます。

▶ 車いす固定装置（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”）

ブザー		動作・状況
ピッ...※ 7	スイングアームリフト上の固定装置スイッチの「ロック」側を押し、車いすを固定するとき 車内の固定装置スイッチの「ロック」側を押し続け、車いすを固定するとき	
警告時	ピ— (約3分間)	リフトメインスイッチが OFF またはバックドアが閉まった状態で、固定装置スイッチの「ロック」側を押したとき※ 8, 9, 10
		スイングアームリフト上の固定装置スイッチの「ロック」側を押しても車いすの固定が完了していないとき※ 9
	ピーッ ※ 11 ピ—...	車内の固定装置スイッチの「ロック」または「解除」側を 5 秒以上押続けたとき※ 12

※ 7：車いす固定装置の作動状況により、吹鳴回数がかわります。

※ 8：リフトメインスイッチ ON 状態かつバックドアが開いた状態にすると、ブザーが鳴りやみます。

※ 9：スイングアームリフト上の場合、固定装置スイッチの「解除」側を押すと、ブザーが鳴りやみます。

※ 10：車内の場合、固定装置スイッチの「ロック」側から指を離すと、ブザーが鳴りやみます。

※ 11：最初にスイングアームリフト作動開始の“ピーッ”音より、少し長めのブザーが鳴り、その後ブザーが鳴り続けます。

※ 12：スイッチから指を離すと、ブザーが鳴りやみます。

 **知識**

▶ 車いす固定装置(車いす仕様車“B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”)

ブザー		動作・状況
ピッ…ピッ…※13, 14		車いす固定装置のフックを車いす固定装置から取り出し、かつ車いすの固定が完了していないとき
		車いすの固定を解除後、車いす固定装置の右うしろのフックが床面固定部に完全に格納されていないとき
警告時	ピー (約3分間)	リフトメインスイッチが OFF またはバックドアが閉まった状態で、固定装置スイッチの「ロック」側を押したとき※15, 16, 17
		固定装置スイッチの「ロック」側を押しても車いすの固定が完了していないとき※15, 17

※ 13：車いすの固定が完了、または車いす固定装置の右うしろのフックを床面固定部に完全に格納すると、ブザーが鳴りやみます。

※ 14：ブザーが鳴り始めてから 30 秒以上経過すると、“ピッピッ…” というブザーにかわります。

※ 15：車いす仕様車“D タイプ”的車内右前部(緑色ラベル)および車内左前部(橙色ラベル)の車いす固定装置(→ P.111)は“ピッ…ピッ…” というブザーが鳴ります。(30 秒以上経過すると “ピッピッ…” というブザーにかわります)

※ 16：リフトメインスイッチ ON 状態かつバックドアが開いた状態にすると、ブザーが鳴りやみます。

※ 17：固定装置スイッチの「解除」側を押すと、ブザーが鳴りやみます。

 **知識****■ 停車後のブザーについて**

停車後、シフトレバーを P の位置にしたとき、まれに “ピー” とブザーが鳴ることがあります。ブザーが鳴ったときは次のことを行ってください。

- ① 安全で平坦な場所に移動し、エンジンをかけたまま停車する
- ② パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする
- ③ リフトメインスイッチを ON 状態にし (→ P.58)、バックドアを全開にする
- ④ 操作スイッチの「上」を押し続け、“ピッピッ” とブザーが鳴ったことを確認する (→ P.69)
- ⑤ バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする (→ P.58)

ブザーがひんぱんに鳴るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠️ 警告

■ ウエルキャブ 車いす仕様車の操作をするときは

操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方および車内に乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。

- 手足を挟まれたり、車いすからの転落など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足が車内の装置やシートなどに挟まれないように注意してください。
- 車内に乗車の方の手足を車いすで挟まないように注意してください。

■ スイングアームリフトを操作する前に

- 安全で平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P の位置にしてください。 (→ P.23)
交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスイングアームリフトを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。
- エンジンをかけた状態で使用してください。
エンジン停止状態ではバッテリー上がりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあります。
- 乗降するときはヘッドライトを点灯および非常点滅灯を点滅させ、周囲へ注意をうながしてください。

■ スイングアームリフトを操作するときは

- 急な坂や階段・段差および凹凸のはげしい場所では絶対に使用しないでください。 (→ P.25)
車いす乗車の方がスイングアームリフトから転落したり、スイングアームリフトが段差からはずれて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 悪天候時、スイングアームリフトを使用するときは、スイングアームリフトがゆれたり、プラットホームや後退防止用ストッパーがすべりやすくなりますのでご注意ください。 (→ P.26)
風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。
- 強風時、バックドアが閉まることがあります。 (→ P.26)
バックドアが頭にあたるおそれがありますので、注意してください。

⚠ 警告

■スイングアームリフトおよび車いす固定装置を使用しないときは

必ずリフトメインスイッチを OFF 状態にしてください。

リフトメインスイッチを ON 状態にしていると、誤って次の操作をされた場合、装置の不意な作動により、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

- 操作スイッチが押された場合、スイングアームリフトが不意に動き出し、思わぬ事故の原因になって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 固定装置スイッチの「解除」側が押された場合、車いすの固定が解除されます。そのまま走行すると車いす乗車の方が不安定になり、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■故障・損傷を防ぐために

- 急な坂や階段・段差および凹凸のはげしい場所では、絶対にスイングアームリフトを使用しないでください。
 - ・ 急な坂道、階段などで使用すると、スイングアームリフトの変形などの原因になります。
 - ・ 凹凸のはげしい場所で使用すると、スイングアームリフトが作動しないことがあります。
- 砂利道などで使用すると、スイングアームリフトおよび後退防止用ストッパーが傷付くおそれがありますのでご注意ください。
- バックドアを閉めるときは、スイングアームリフトが確実に格納されていることを確認してください。
バックドアおよびスイングアームリフトが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

スイングアームリフトを使用して車内外への乗降・固定をするときは、エンジンをかけておいてください。

エンジンを停止した状態で操作すると、バッテリーあがりの原因になります。

スイングアームリフトのスライド・昇降のしかた

スイングアームリフト上に車いすを乗り入れる前に、必ずスイングアームリフトを車外スライド・下降および上昇・車内スライドさせ、作動中に異常な振動・音などがないことを確認してください。（→ P.24）

異常が認められた場合は、ただちにスイングアームリフトの使用を停止し、トヨタ販売店にご連絡ください。

スイングアームリフトの作動条件

スイングアームリフトは、次の作動条件をすべて満たす場合に作動します。

- シフトレバー「P の位置」
- リフトメインスイッチ「ON 状態」（→ P.58）
- バックドア「開」
- 後退防止用ストッパー「起立」
- 車いす固定装置「作動途中ではない」
- 光電センサー「感知範囲内に人やものがない」（車いす仕様車“F タイプ”的スイングアームリフト車内スライド時のみ→ P.68）

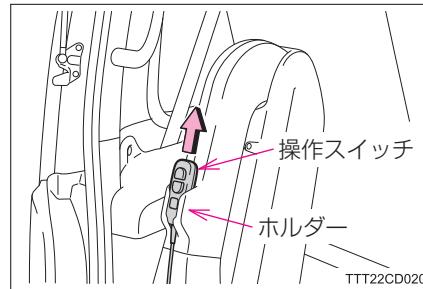
スイングアームリフトをスライド・昇降させる前に (車いす仕様車“A タイプ／AS タイプ”)

次のことを確認してください。

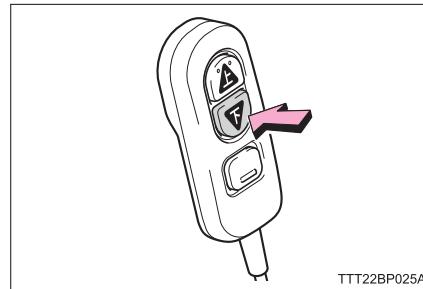
- 大型車いす用ベルトで車いすを固定していないこと
 - 大型車いす用ベルトが床面に放置されていないこと
- 大型車いす用ベルトは次のいずれかの状態にしてください。
- ・ フックを仮置き位置に引っかける（→ P.95）
 - ・ 長期間使用しないときは、床面から取りはずし、車いす収納装置前部の小物入れに収納する（→ P.85, 90）

車外スライド・下降のしかた

- ① 操作スイッチをホルダーから取り出す

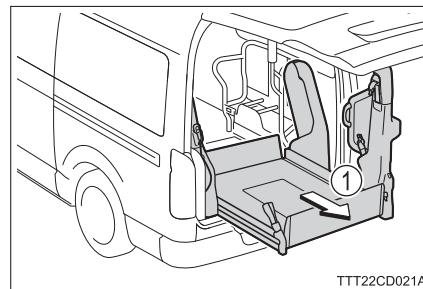


- ② スイングアームリフト作動範囲
周辺の安全を確認後、操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトを車外スライド・下降させる



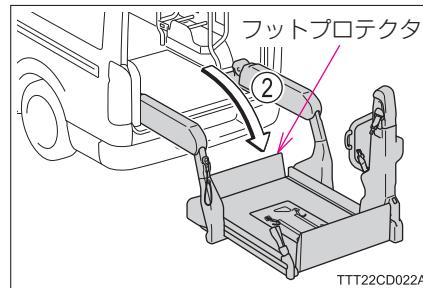
- ① “ピーッ”とブザーが鳴り、スイングアームリフトは車内から車外まで移動（スライド）して下降します。

“ピーピー”とブザーが鳴り、スイングアームリフトの作動を知らせます。



- ② スイングアームリフトが自動的に停止する位置まで下降させると、“ピッピッ”とブザーが鳴ります。

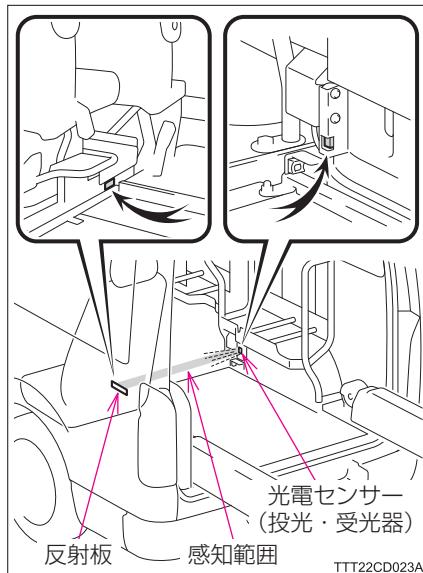
ブザーが鳴ったらスイッチから指を離します。



- ③ 操作スイッチをホルダーにもどす

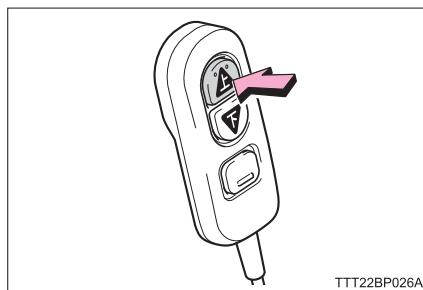
上昇・車内スライドのしかた

- 1 車いす仕様車“Fタイプ”にお乗りの方は、光電センサーの感知範囲内に人やものがないことを確認する



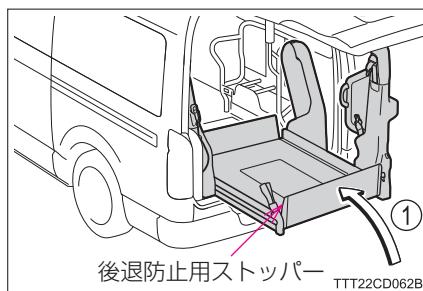
- 2 操作スイッチをホルダーから取り出す (→ P.67)

- 3 スイングアームリフト作動範囲周辺の安全を確認後、操作スイッチの「上」を押し続け、スイングアームリフトを上昇・車内スライドさせる



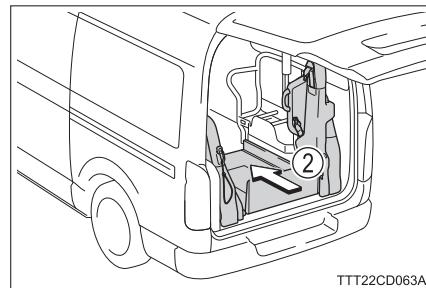
- ① “ピーッ”とブザーが鳴り、スイングアームリフトは下降位置から上昇し、車内へ移動（スライド）して格納されます。

- ・後退防止用ストッパーがうしろ側に倒れている場合は、自動で起き上がります。(→ P.74)
- ・“ピーピー”とブザーが鳴り、スイングアームリフトの作動を知らせます。



- ② スイングアームリフトが自動的に停止する位置まで車内スライドさせると、“ピッピッ”とブザーが鳴ります。

ブザーが鳴ったらスイッチから指を離します。



4 操作スイッチをホルダーにもどす

□ 知識

■ スイングアームリフトの作動について

操作スイッチから指を離すと、スイングアームリフトはその位置で停止します。

■ スイングアームリフトを格納するときは

必ずスイングアームリフトが自動的に停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで操作スイッチの「上」を押し続け、車内に完全に格納してください。

■ スイングアームリフトについて

スイングアームリフトおよび車内のレール、スイングアームリフトが格納される部分およびスイングアームリフト裏面をときどき点検し、泥や小石、砂などの異物がつまっていないことを確認してください。異物がつまると、スイングアームリフトが作動しにくくなったり、故障の原因になります。スイングアームリフトが作動しにくくなったときは、スイングアームリフトの清掃をしてください。
(→ P.209)

□ 知識

■光電センサーについて（車いす仕様車“Fタイプ”）

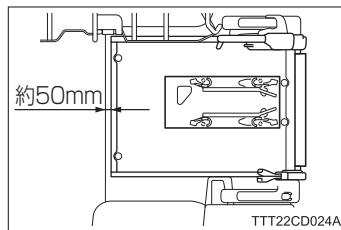
スイングアームリフトの車内スライド時、センサー光の感知範囲内に人やものがあることを感知すると、“ピッピッ…”とブザーが鳴り（→P.60）、操作スイッチの「上」を押してもスイングアームリフトは車内スライドしません。

- スイングアームリフト車内スライド中にセンサー光が遮断されると、スイングアームリフトはその位置で停止します。センサー光の感知範囲内に人やものがないことを確認し、再度操作スイッチの「上」を押し続けると、スイングアームリフトは作動します。

反射物など、センサー光に影響を与えるおそれがあるものがセンサー光の感知範囲内にある場合は、反射物などもセンサー光の感知範囲外に移動させてください。

- 光電センサーによるスイングアームリフトの車内スライド停止中、操作スイッチの「上」を押し直すと、スイングアームリフトは車内スライド方向に約0.5秒作動し、再び停止します。

- スイングアームリフトの格納完了位置～格納50mm手前は、センサー光を遮断してもスイングアームリフトは停止しません。



- 次の場合、センサー光の感知範囲内に人やものがあっても、スイングアームリフトは停止しません。

- ・操作スイッチの「下」を押した場合
- ・操作スイッチの「上」を押し、スイングアームリフトが上昇作動する場合

- 光電センサーおよび反射板をときどき点検し、汚れていないこと・ぬれていなことを確認してください。汚れていたりぬれていると光電センサーが異物を感知した状態になり、スイングアームリフトが車内にスライドしなくなったり、不意に作動が停止するおそれがあります。スイングアームリフトが車内にスライドしなくなったときは、光電センサーおよび反射板の清掃をしてください。（→P.212）



警告

■スイングアームリフトを操作するときは

- スイングアームリフトに車いすを乗り入れる前に、必ずスイングアームリフトの作動確認を実施し、スイングアームリフトに異常が認められた場合はそのまま使用せず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。
異常なままスイングアームリフトを使用すると、スイングアームリフトの不意な作動により、車いす乗車の方がスイングアームリフトから転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スイングアームリフトの操作は必ず介助の方が行ってください。
車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすからの転落など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スイングアームリフトを操作するときは、車両から少し離れた斜め後方の安全な場所で操作してください。 (→ P.25)
近付きすぎたり真うしろで操作するとスイングアームリフトが手足にあたったり、上昇操作時に車高が下がるためバックドアが頭にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 作動範囲内に人やものがないことを確認し、作動範囲内で操作しないでください。 (→ P.25)
 - ・スイングアームリフトに手足を挟まれたり、ものが損傷するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・スイングアームリフトが車内にスライドしているとき、シートをご利用の方の足がシートの下にないことを確認してください。
- 車いす乗車の方に合図してから操作をしてください。
急に操作すると、スイングアームリフトの不意な作動により、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リフトアームに手をかけないでください。 (→ P.26)
リフトアームに手を挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いす乗車の方の手足がスイングアームリフト内に収まっていることを確認しながら行ってください。
手足が出ていると車両とスイングアームリフトのあいだに挟まれるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
スイングアームリフト上昇時、車いす乗車の方がバンパーやリフトアームで手や足を挟まないよう、特に注意してください。
- バックドアなどに頭をぶつけないように注意してください。
- シートベルト支柱とリフトアームで手や足を挟まないように注意してください。
- スイングアームリフト作動によるゆれで転落しないように十分注意してください。

⚠️ 警告

- スイングアームリフト作動中に、スイングアームリフトに乗り込んだり、飛び降りたりしないでください。
転倒したりスイングアームリフトに挟まれるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。スイングアームリフトへの乗り降りは、必ずスイングアームリフトが完全に停止した状態で行ってください。
- スイングアームリフトを昇降させるときは、フットプロテクタ（→ P.67）にふれないでください。
スイングアームリフトが故障したり、スイングアームリフトと車両に足を挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ スイングアームリフトを操作するときは（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”）

大型車いす用ベルトで大型車いすを固定したままスイングアームリフトを車外にスライドさせないでください。（→ P.27）

大型車いすは床面に取り付けた大型車いす用ベルトとスイングアーム上の車いす固定装置で固定します。スイングアームリフトの作動により無理な力が加わると、思わぬ事故の原因になって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ スイングアームリフトを操作するときは（車いす仕様車 “F タイプ”）

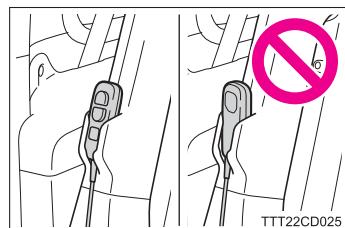
光電センサーの感知範囲内に人やものがある状態で、何度も操作スイッチの「上」を押さないでください。

光電センサーによるスイングアームリフトの車内スライド停止中でも、操作スイッチの「上」を押すとスイングアームリフトは車内スライド方向に約 0.5 秒作動します。スイングアームリフトに足などを挟まれたり、ものが損傷するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 操作スイッチを収納するときは

操作スイッチを使用しないときは、ホルダーに正しい方向で収納してください。
(→ P.67)

ホルダー以外の場所に収納したり正しい方向で収納しないと、スイングアームリフトが思わぬ動きをして重大な事故につながるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ 故障・破損・損傷を防ぐために

- 断続的に操作スイッチを押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。(断続的にスイッチを押してもスイングアームリフトは作動しません)
- スイングアームリフトを格納するときは、スイングアームリフトが上昇し、車内へ移動して格納されて自動停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで操作スイッチの「上」を押し続けてください。(→ P.69)
“ピッピッ”とブザーが鳴る前に操作スイッチから指を離すと、スイングアームリフトが完全に格納されていないため、バックドアを閉めたとき、スイングアームリフトや車両を損傷するおそれがあります。
- 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” にお乗りの方は、スイングアームリフトをスライド・昇降させる前に、必ず大型車いす用ベルトのフックを仮置き位置に引っかけるか、床面から取りはずして車いす収納装置前部の小物入れに収納してください。(→ P.85, 90, 95)
大型車いす用ベルトがスイングアームリフト格納部に入り込んだ状態でスイングアームリフトを作動させると、ベルトおよびスイングアームリフトが損傷したり、スイングアームリフトの故障の原因になります。

後退防止用ストッパー

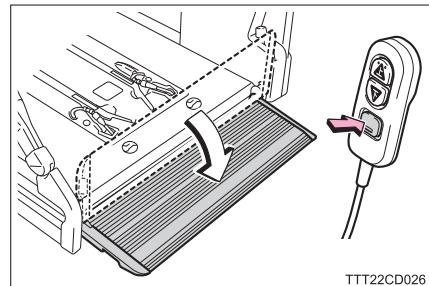
スイングアームリフトが自動的に停止する位置まで下降させ、“ピッピッ”とブザーが鳴った場合（→P.67）、スイッチ操作で後退防止用ストッパーをうしろ側に倒すことができます。

スイッチ操作で後退防止用ストッパーをうしろ側に倒すときは

車いすをスイングアームリフトに乗り入れているときは、操作する前に必ず車いすのブレーキが両輪ともかけられていることを確認します。

操作スイッチの倒しボタンを押し続ける

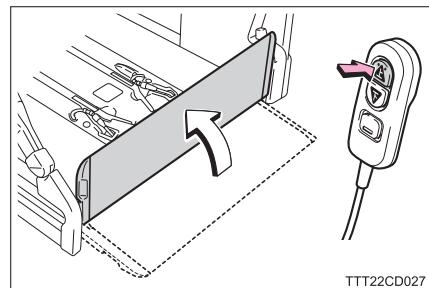
自動的にうしろ側に倒れて停止したら、スイッチから指を離します。



スイッチ操作で後退防止用ストッパーを前側に起こすときは

操作スイッチの「上」を押し続ける

後退防止用ストッパーが自動的に前側に起き上がりロック状態になると、スイングアームリフトが上昇し始めます。



手動操作のしかた

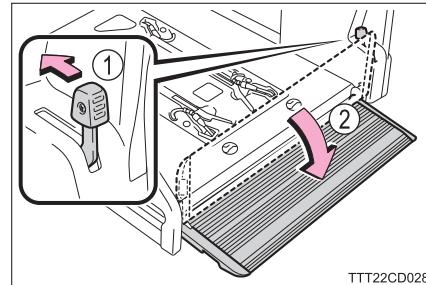
■ 手動で後退防止用ストッパーをうしろ側に倒すときは

スイングアームリフトが自動的に停止する位置まで車内スライドさせ、“ピッピッ”とブザーが鳴った場合（→P.69）以外、うしろ側に倒すことができます。

操作する前に必ず次のことを確認します。

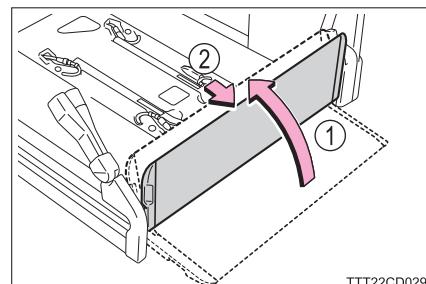
- 車いすのブレーキが両輪ともかけられていること（車いすがスイングアームリフト乗り入れ状態の場合）
- スイングアームリフトが接地していること

- ① 解除レバーを前側に押してロックを解除する
- ② 後退防止用ストッパーを持って、うしろ側に倒す



■ 手動で後退防止用ストッパーを前側に起こすときは

- ① 後退防止用ストッパーを通常ロック位置よりも前側に大きく倒す
- ② ゆっくりとうしろ側にもどす
 - ・解除レバーがロック状態になり、後退防止用ストッパーがロックされます。
 - ・スイングアームリフトを操作する前に後退防止用ストッパーを手で前後左右にゆすり、後退防止用ストッパーが確実にロックされていることを確認します。

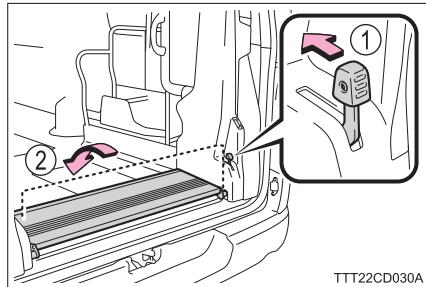


■ 手動で後退防止用ストッパーを前側に倒すときは

スイングアームリフトが自動的に停止する位置まで車内スライドさせ、“ピッピッ”とブザーが鳴った場合（→P.69）、手動で前側のみ倒すことができます。（うしろ側に倒すことはできません）

●スイングアームリフトが車内に格納された状態で、バックドア側から車内に乗り降りするときは、後退防止用ストッパーを前側に倒すと乗り降りがしやすくなります。

- ① 解除レバーを前側に押してロックを解除する
- ② 後退防止用ストッパーを持って、前側に倒す



起こすときは、後退防止用ストッパーを持って、ゆっくりとうしろ側にもどします。

- 解除レバーがロック状態になり、後退防止用ストッパーがロックされます。
- スイングアームリフトを操作する前に後退防止用ストッパーを手で前後左右にゆすり、後退防止用ストッパーが確実にロックされていることを確認します。

□ 知識

■ 作動条件について

- スイングアームリフト下降時、自動的にスイングアームリフトが停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで操作スイッチの「下」を押し続けてください（→P.67）。“ピッピッ”とブザーが鳴る前に操作スイッチから指を離すと、倒しボタンを押しても後退防止用ストッパーは作動しません。
- スイングアームリフトが車内に格納されているときは、後退防止用ストッパーをうしろ側に倒すことはできません。
- 後退防止用ストッパーを前側に倒したときは、操作スイッチを押してもスイングアームリフトは作動しません。通常は必ず後退防止用ストッパーを起こした状態にしてください。
- 解除レバーがロック位置にないとスイングアームリフトは作動しません。後退防止用ストッパーを手動で操作したときは、必ず後退防止用ストッパーを起こした状態にし、解除レバーがロック位置にあることを確認してください。

⚠️ 警告

■スイングアームリフト上に車いすが乗降するときは

後退防止用ストッパーを必ず接地させてください。

後退防止用ストッパーが接地していないと、車いすが転倒や転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■後退防止用ストッパーを倒すときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと後退防止用ストッパーが倒れたとき、足を挟まれかがをしたり、車いすがスイングアームリフトから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 必ず車いすのブレーキを両輪ともかけた状態で操作する
- うしろ側に倒すときは、足元に注意する
- 倒しボタンおよび解除レバーはスイングアームリフトが確実に接地していることを確認してから操作する
- 凹凸の激しい場所や傾斜地、階段などでは絶対に操作しない

■後退防止用ストッパーを手動操作するときは

後退防止用ストッパーの接地面付近に注意してください。

後退防止用ストッパーと地面のあいだで手を挟むなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■後退防止用ストッパーを手動操作したときは

● スイングアームリフトを操作する前に、後退防止用ストッパーを手で前後左右にゆすり、後退防止用ストッパーが確実にロックされていることを確認してください。

車いす乗車の方が転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 後退防止用ストッパーを前側に倒したときは、倒した後退防止用ストッパーの上にのらないでください。

後退防止用ストッパーが破損したり、すべて転倒や転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■車両走行時および車内を移動するときは

車両走行時や車いす乗車の方および介助の方が車内を移動するときは、必ず後退防止用ストッパーを起こした状態にしてください。

転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

スイングアームリフト・車内への乗り入れ

車いすの乗り入れ位置について

車いすを次の位置に停止し、車いすのブレーキを両輪ともかけます。

▶ 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”

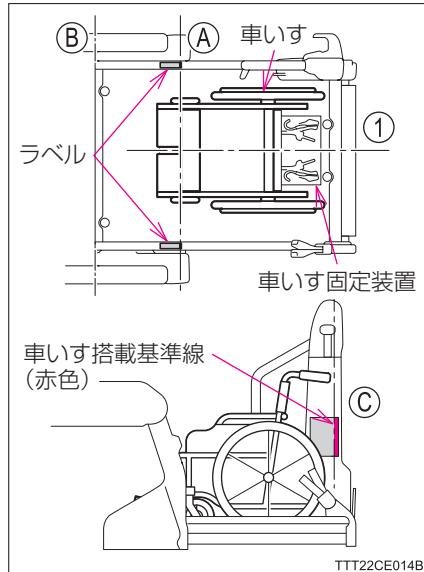
- ① 左右位置：車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：次の目安を参考に、車いすの前後位置を調整する
 - 〈車いす前方〉
 - Ⓐ 車いす固定ベルトのフックをかける位置をプラットホーム上のラベルよりも前側にする
 - Ⓑ 車いす乗車の方の足や車いすの前端がプラットホームから出ていないことを確認する
 - 〈車いす後方〉
 - Ⓒ バックドアを閉めときは、車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも前側になっていることを確認する

車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になってしまふときは、バックドアを閉める際、車いすにあたらないことを確認しながらゆっくり閉めてください。

上記Ⓒで車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりもうしろ側になる車いすを「大型車いす」と呼びます。

この場合は、スイングアームリフト上の車いす固定ベルト（テンションゴム付き）・車いす固定装置で車いすを固定しても、車両を走行させることができません。（スイングアームリフト昇降・スライド時の車いす仮固定およびスイングアームリフトを昇降・スライドさせることはできます）

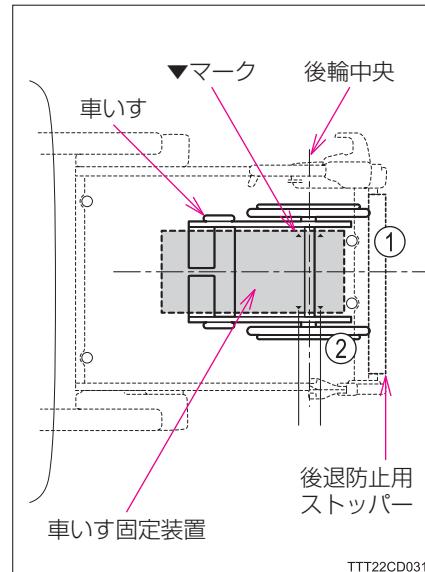
スイングアームリフトで車内に乗り入れ後、いったん車いすの固定を解除し、大型車いす用ベルトをご使用いただくか（→ P.90）、車内まで乗り入れ・固定してください。（→ P.97）



TTT22CE014B

▶ 車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”

- ① 車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 車いすの後輪中央が床面▼▼マーク間になる位置を目安に停止させる
車いすの後輪が後退防止用ストッパーにあたる場合は、前側の▼マークを目安にして、あたらない位置まで前方に移動させます。



▶ 車いすの固定およびシートベルトの着用について（全車）

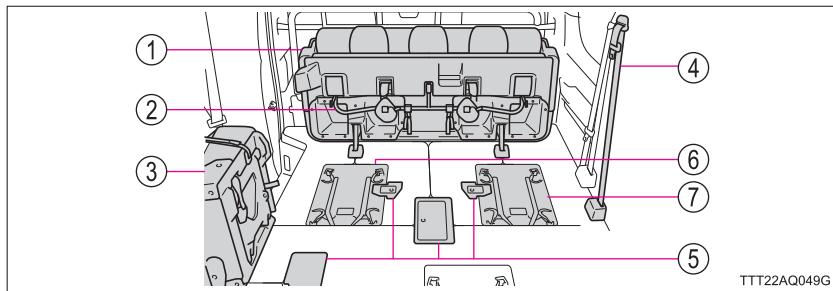
- ① 停止位置で車いすのブレーキを両輪ともかける
- ② 車いすを固定する
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.86)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.109)
- ③ シートベルトを着用する
(→ P.119)

次の場合、スイングアームリフト上でシートベルトを着用する必要はありません。

- ・ 車内（スイングアームリフト上以外）に車いすを乗り入れ・固定する場合
- ・ 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” で、スイングアームリフト上に大型車いすを乗り入れ・固定する場合

車いすを3脚または4脚乗り入れる場合（車いす仕様車“Dタイプ”）

車いすを3脚または4脚乗り入れるときは、次の状態にします。



- ① 3人掛けタンブルシート：格納
- ② シート脚部：折りたたむ
- ③ 1人掛けスペースアップシート：格納（→ P.158）
- ④ 3人掛けタンブルシート中央席用3点式シートベルト：分離（→ P.173）
- ⑤ 床面ロック部カバー／床面カバー：閉める
- ⑥ 左前側固定位置
- ⑦ 右前側固定位置

■ 左前側に乗り入れる場合

- 1 3人掛けタンブルシートを格納し、床面ロック部カバーを閉める（→ P.144, 145）
- 2 1人掛けスペースアップシートを格納し、床面ロック部カバーを閉める（→ P.158, 159）

車いす乗り入れ・固定後は、シートをもとにもどして使用することができます。

■ 右前側に乗り入れる場合

3人掛けタンブルシートを格納し、床面ロック部カバーを閉める（→ P.144, 145）

■ 車いすを乗り入れるときは

- シート格納後、床面ロック部カバーが閉められていること、およびシート脚部が格納されていることを確認する
- 車いす乗り入れ時、シート脚部に車いす乗車の方の足があたらないように注意する

車いすから 1 人掛けシートに移乗する場合（車いす仕様車 “F タイプ”）

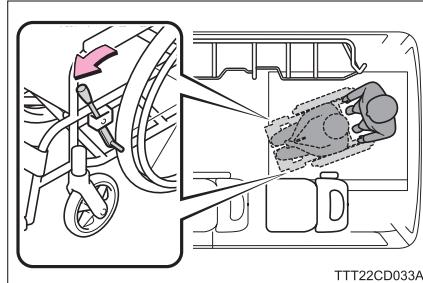
車いすをご利用の方が 2 名、車いすから 1 人掛けシートへ移乗することで、車いすをご利用の方が最大 4 名乗車できます。

乗車時は車いすから 1 人掛けシートへ移乗する方が先に乗車し、車いすを車いす収納装置に収納後、車いすのまま乗車される方が乗車します。

■ 車いすから 1 人掛けシートに移乗するときは

1 移乗する 1 人掛けシートのアームレストを上げる（→ P.141）

2 移乗する 1 人掛けシートに車いすを近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける
車いすは 1 人掛けシートに対し、少し斜めに向けます。

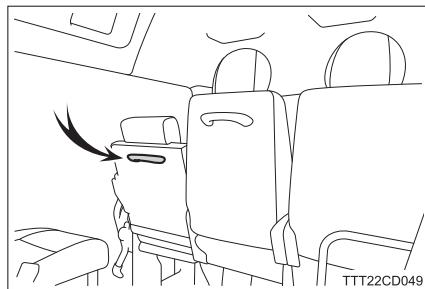


3 車いすから 1 人掛けシートに移乗する

- つかまり立ちが可能な方が移乗するときは、シートバックグリップを持って移乗します。
- 移乗中は介助の方が手を添えてください。

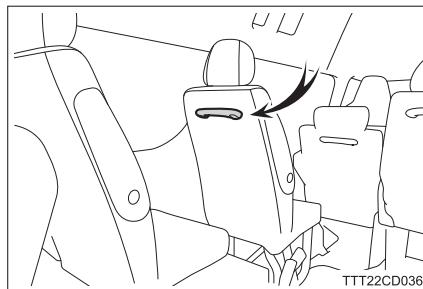


▶ 前側 1 人掛けシートへの移乗時



クッションはね上げ式シートのシートバックグリップを使用する

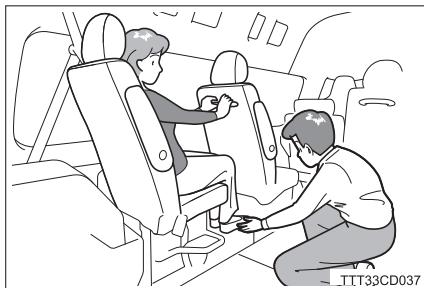
▶ うしろ側 1 人掛けシートへの移乗時



前側 1 人掛けシートのシートバックグリップを使用する

- 4 1人掛けシートに腰かけ、足を足置きにのせ、車両進行方向を向いて座る

介助の方が移乗された方の足を持ち、足置きにのせてください。

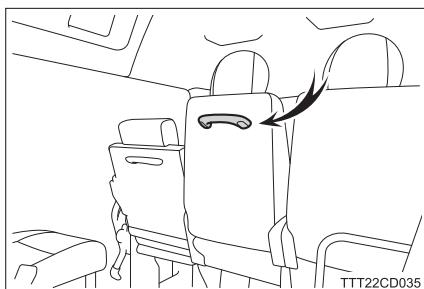


- 5 車いすを折りたたみ、車いす収納装置に収納する (→ P.131)

■ 1人掛けシートから車いすに移乗するときは

「■車いすから1人掛けシートに移乗するときは」の逆の手順で行います。

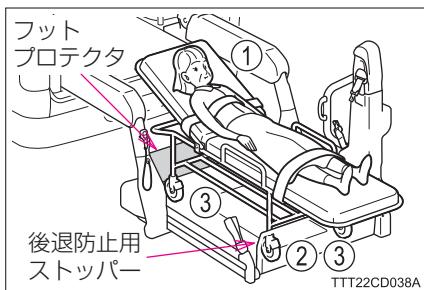
前側1人掛けシートから車いすに移乗するときは、2人掛けリクライニングシートのシートバックグリップを使用してください。



参考：ストレッチャーの乗り入れ位置について

ストレッチャーを次の位置に停止し、キャスターを4輪ともロックします。ストレッチャーがバンパーやフットプロテクタとあたらないことを確認してください。

- ① 頭部側を前にして乗り入れ、頭部側を起こす
- ② 後退防止用ストッパーにキャスターがあたる位置で停止
- ③ キャスターを4輪ともロックする



▲警告

■車いすのスイングアームリフトへの乗り入れ・昇降操作をするときは

- 車いすをスイングアームリフトに乗り入れたときは、必ず停止位置で停止させ、ブレーキを両輪ともかけてください。
 - ・スイングアームリフト格納時にスイングアームリフトと車両のあいだで足を挟まれたり、車いすが転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”にお乗りの方は、P.78の範囲内に車いすを止めてください。(大型車いすにお乗りの方は、車いす乗車の方の足や車いすの前端がプラットホームから出ない位置まで後退させてください)
 - ・車いす仕様車“Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”にお乗りの方は、▼マークよりも前側で車いすを止めないでください。
 - ・フットプロテクタ(スイングアームリフト下降操作時に自動的に起きあがります)で足を挟んだり、車いすが転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ストレッチャーは必ず頭部側を起こし、頭部側から乗り入れてください。
 - ・フルフラット状態のままスイングアームリフトに乗り入れ・昇降させると、ストレッチャーがバンパーにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・頭部側から乗り入れないとバンパーなどにストレッチャーがあたり、乗り入れることができません。
- 風の強い場所や風雨の強い日、また降雨時や降雪時など悪天候のときは、プラットホームおよび後退防止用ストッパーがすべりやすいので注意してください。
- プラットホームおよび後退防止用ストッパー表面がぬれていますの状態で車いすをスイングアームリフトに乗り入れないでください。
プラットホームおよび後退防止用ストッパー表面がぬれていますとすべりやすくなります。プラットホームおよび後退防止用ストッパー表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。
- 車いすをスイングアームリフトにいきおいよく乗り込ませないでください。車いすがスイングアームリフトから転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スイングアームリフトを昇降する前に、必ず車いすをスイングアームリフト上で車いす固定装置を使用して確実に固定してください。
スイングアームリフトの不意な作動により、車いす乗車の方が転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- 車いすでの車内の移動は必ず介助の方が行い、車いす乗車の方および車内に乗車の方の安全に十分注意してください。
 - ・ 車いす乗車の方の手足が車内の装置やシートなどに挟まれないように注意してください。
 - ・ 車内に乗車の方の手足を車いすで挟まないように注意してください。
- 車いすを車内に乗り入れるときは、シートの格納状態および床面のカバーが閉められていることを確認してください。
 - ・ シートが確実に格納されていないと、シートが倒れて車いす乗車の方にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シート格納後はシートを前後左右にゆすり、確実に格納されていることを確認してください。
 - ・ 床面のカバーを開けたままだと車内を移動するとき、つまずいてけがをするおそれがあります。

■ 車いすから 1 人掛けシートに移乗するときは（車いす仕様車 “F タイプ”）

- 移乗する前に必ず 1 人掛けシートのアームレストを上げてください。
アームレストを下げたままだと、移乗するときに衣服がアームレストに引っかかって転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つかまり立ちが可能な方がシートバックグリップを持って車いすから 1 人掛けシートに移乗する場合でも、必ず介助の方が手を添えてください。
移乗するときにつまずいて転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ ストレッチャーのスイングアームリフトへの乗り入れ・昇降操作をするときは

ストレッチャーは必ず頭部側を起こし、頭部側から乗り入れてください。

- フルフラット状態のままスイングアームリフトに乗り入れ・昇降させると、ストレッチャーがバンパーにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 頭部側から乗り入れないとバンパーなどにストレッチャーがあたり、乗り入れることができません。

⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

車いすをスイングアームリフトにいきおいよく乗り込ませないでください。
車いすがフットプロテクタやバンパーにあたり、破損するおそれがあります。

車いす固定装置（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”）

車いすの固定および解除は、「リフトメインスイッチ ON 状態」かつ「バックドアが開いた状態」で行います。（→ P.58）

- 上記の状態になつてないと、車いす固定装置は作動しません。

- ・ スイングアームリフト上の固定装置スイッチの「ロック」側を押すと “ピー……” とブザー（連続音）が約 3 分間鳴り続けます。
- ・ 車内の固定装置スイッチの「ロック」側を押すと、スイッチを押しているあいだ “ピー……” とブザー（連続音）が鳴り続けます。
- ・ 「リフトメインスイッチ ON 状態」かつ「バックドアが開いた状態」にしたあとで、固定装置スイッチを再度操作すると、固定・解除することができます。

- 安全のため、スイングアームリフト作動中および走行中は、固定装置の固定・解除の変更をしないでください。

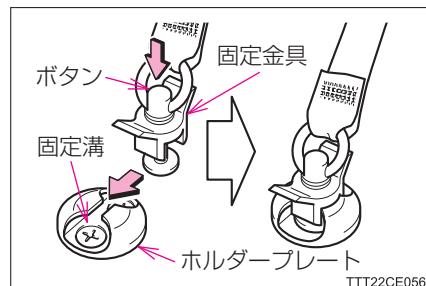
車いす固定ベルトの脱着について

車いすの前部を固定する車いす固定ベルトは、車内の床面またはスイングアームリフト上で脱着することができます。

■ 取り付け方

ベルトの固定金具をホルダープレートに取り付ける

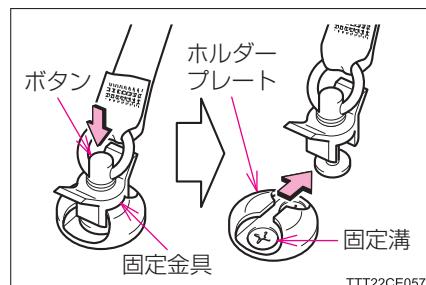
- ・ 金具両端を持ち、ボタンを押しながら固定溝にスライドさせます。
- ・ 固定金具を前後左右にゆすり、ホルダープレートからはずれないことを確認します。



■ 取りはずし方

ベルトの固定金具をホルダープレートから取りはずす

固定金具のボタンを押しながら金具両端を引き上げ、固定溝からスライドさせてはずします。

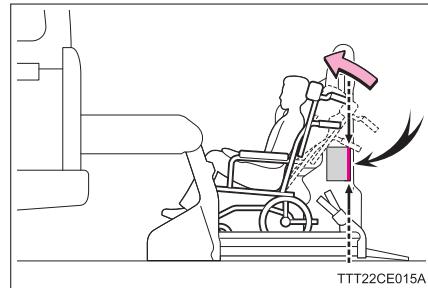


スイングアームリフト上の車いすの固定のしかた

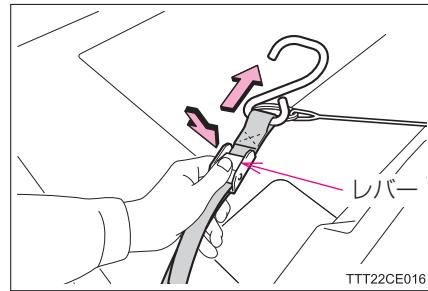
スイングアームリフトを完全に下降させた状態で操作します。(→ P.67)

- 1 車いすを停止位置で止め、車いすのブレーキを両輪ともかける
(→ P.78)

大型車いすの場合、チルト／リクライニング角度を調整し、車いすの後端を車いす搭載基準線（赤色）よりも前側にすればスイングアームリフト上で車いすを固定し、車両を走行させることができます。

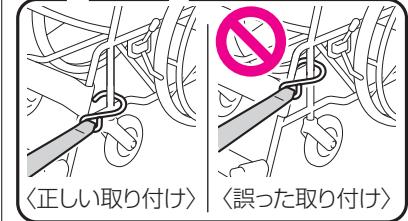
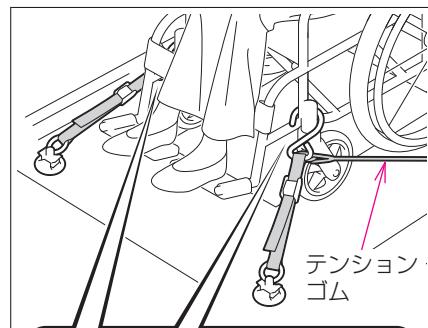


- 2 車いす固定ベルト（テンションゴム付き）のバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめる

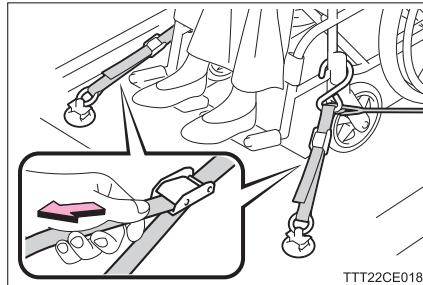


- 3 車いす固定ベルトにねじれがない状態で、車いすの前部フレームのいちばん下の接合部にフックを引っかける

テンションゴムが車いすの車輪にあたるときは、車いす固定ベルトをゆるめ、車いすの左右位置を調整してください。

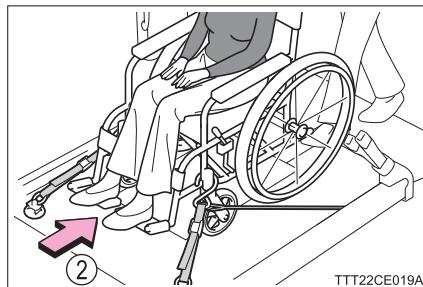


- 4 調整側ベルトを引っ張り、車いす固定ベルトのたるみをなくす



- 5 車いすを動かし、さらに車いす固定ベルトのたるみをなくす

- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② 車いすをしっかりとうしろに引く
- ③ 車いすのブレーキを両輪ともかける



車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になったり、車いす固定ベルトのフックをかける位置がプラットホーム上のラベルよりも後側になったときは、次の操作をしてください。

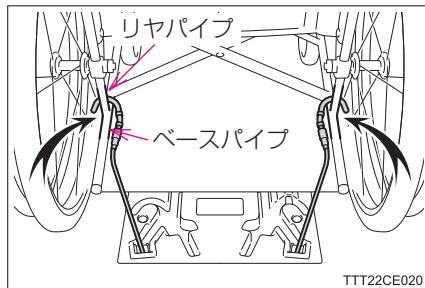
- ① ②の方法で車いす固定ベルトをゆるめ、車いすの前部フレームから車いす固定ベルトのフックを取りはずす
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ ①で停止した位置よりも少し前方まで車いすを動かす
- ④ 車いすのブレーキを両輪ともかける
- ⑤ ③以降の方法で車いす前部を固定する

この操作をしても車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になってしまふときは、バックドアを閉める際、車いすにあたらないことを確認しながらゆっくり閉めてください。

バックドアが車いすにあたってしまうときは、「スイングアームリフト上での大型車いすの固定のしかた」(→ P.90) の方法で車いすを固定してください。

6 車いす固定装置のフックを床面固定部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける

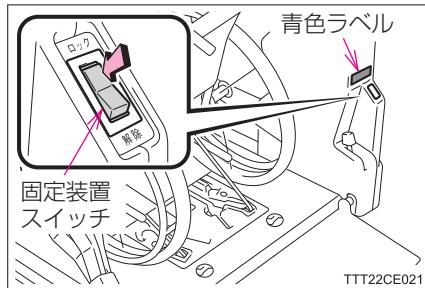
- ・リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。
- ・ワイヤーにたるみが出ないようにします。



TTT22CE020

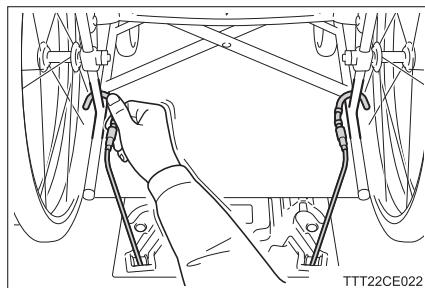
7 固定装置スイッチの「ロック」側を押し、車いす後部を固定する

- ・固定装置スイッチの「ロック」側を押すと“ピッ…”とブザーが鳴ります。 (→ P.61)
- ・固定装置スイッチの「ロック」側を押したときに“ピー…”とブザー(連続音)が鳴ったときは、車いすの固定が完了していません。リフトメインスイッチがON状態になっていること、およびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、[6]からの操作をやり直してください。



TTT22CE021

8 フックを前後左右にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、車いすが確実に固定されていることを確認する



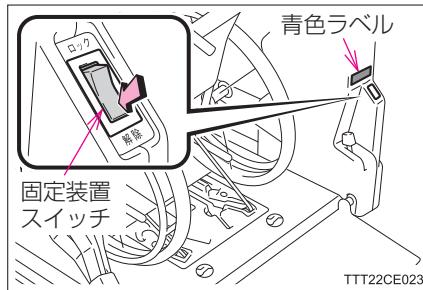
TTT22CE022

車いすの固定が不十分なときは、リフトメインスイッチがON状態になっていること、およびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、[6]からの操作をやり直してください。

スイングアームリフト上の車いすの固定解除のしかた

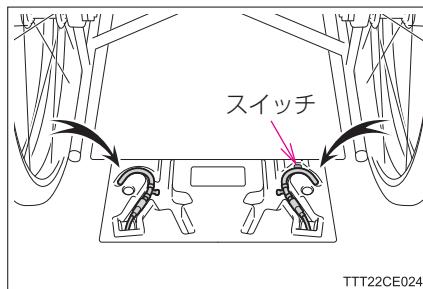
スイングアームリフトを完全に下降させた状態で操作します。(→ P.67)

- 1 固定装置スイッチの「解除」側を押し、車いす後部の固定を解除する

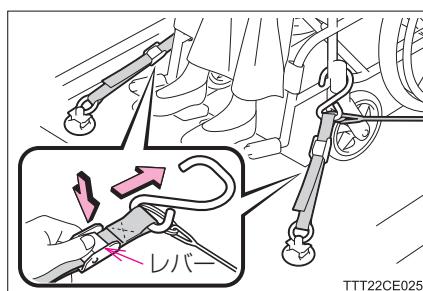


- 2 車いす固定装置のフックを車いすの後部フレームからはずす

- はずしたフックは床面固定部に挿し込みます。
- 右うしろのフックは必ず“カチッ”と音がするまでスイッチに挿し込んで確実に格納します。



- 3 車いす固定ベルトのバックルのレバーを押しながらベルトをゆるめる



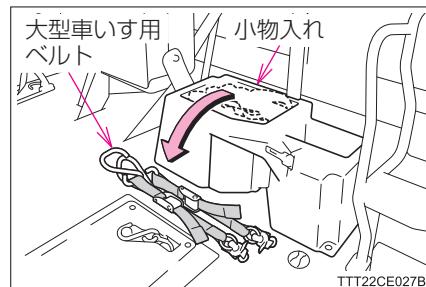
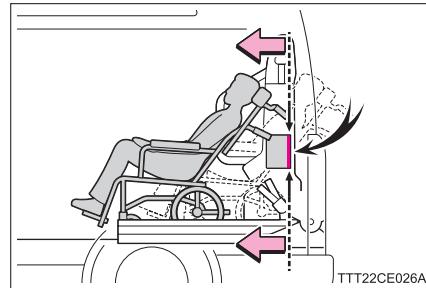
- 4 車いす固定ベルトのフックを車いすの前部フレームからはずす

スイングアームリフト上での大型車いすの固定のしかた

車いすをスイングアームリフト上に乗り入れた際、車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりもうしろ側になってしまう場合は、次のように車いすを固定します。

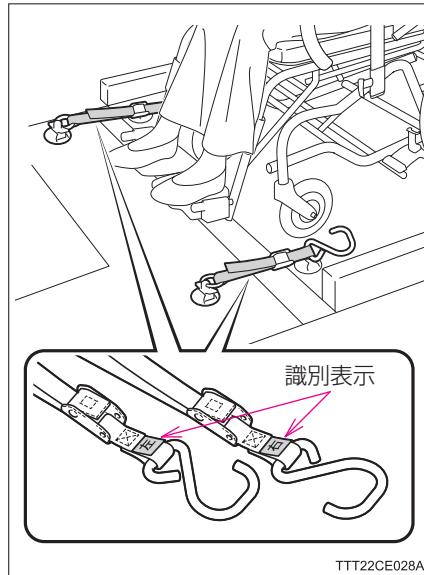
- 1 スイングアームリフトを上昇・車内スライド完了させる（→ P.68）
- 2 車いすの固定を解除する（→ P.89）
- 3 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- 4 車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも前側になる位置まで車いすを動かす
 - ・車いすを動かすときにスイングアーム上の車いす固定ベルト（テンションゴム付き）にあたるときは、車いす固定ベルトをスイングアーム上から取りはずします。（→ P.85）
 - ・車いすを動かしたあと、車いす固定ベルトをスイングアーム上に取り付けます。（→ P.85）
- 5 車いすのブレーキを両輪ともかける
- 6 車いす収納装置前側の小物入れから大型車いす用ベルトを取り出す

大型車いす用ベルトが車両に取り付けてあるときは、[6]と[7]の操作は不要です。[8]の操作をします）



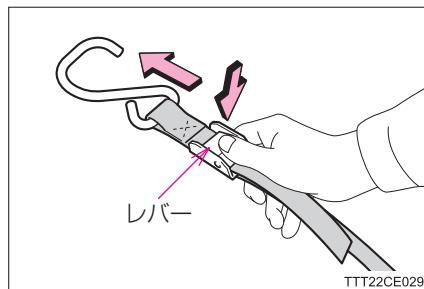
7 大型車いす用ベルトの固定金具をホルダープレートに取り付ける（→ P.85）

ベルトの識別表示を参考に、左右を正しく取り付けます。

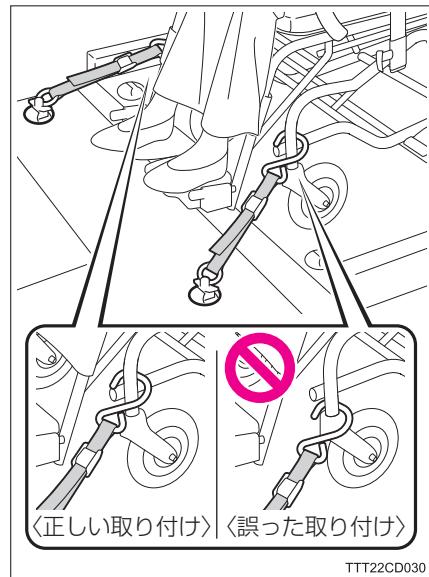


8 大型車いす用ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめる

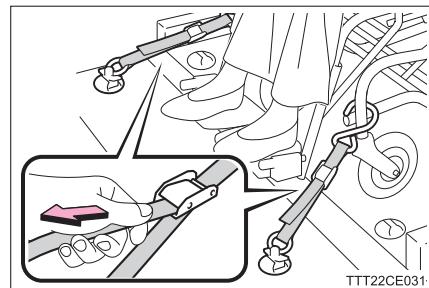
大型車いす用ベルトが車両に取り付けてあるときは、フックを仮置き位置（→ P.95）からはずします。



- 9 大型車いす用ベルトにねじりがない状態で、車いすの前部フレームのいちばん下の接合部にフックを引っかける

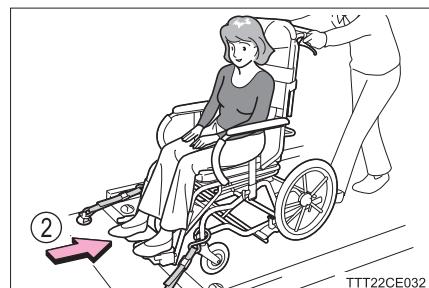


- 10 調整側ベルトを引っ張り、大型車いす用ベルトのたるみをなくす



- 11 車いすを動かし、さらに大型車いす用ベルトのたるみをなくす

- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② 車いすをしっかりとうしろに引く
- ③ 車いすのブレーキを両輪ともかける

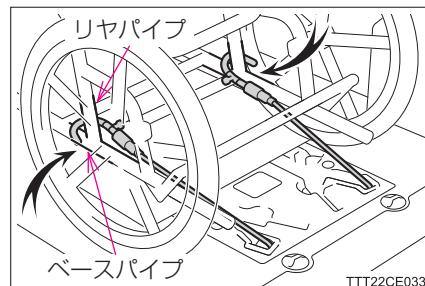


車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になったときは、次の操作をしてください。

- ① **8**の方法で大型車いす用ベルトをゆるめ、車いすの前部フレームから大型車いす用ベルトのフックを取りはずす
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ **4**で停止した位置よりも少し前方まで車いすを動かす
- ④ 車いすのブレーキを両輪ともかける
- ⑤ **9**以降の方法で車いす前部を固定する

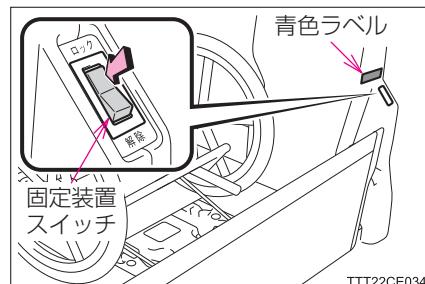
この操作をしても車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になってしまふときは、バックドアを閉める際、車いすにあたらないことを確認しながらゆっくり閉めてください。

- 12** 車いす固定装置のフックを床面固定部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける
- ・ リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。
 - ・ ワイヤーにたるみが出ないようにします。

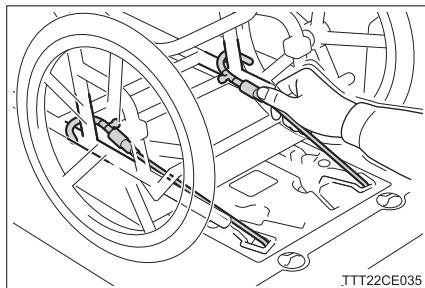


- 13** 固定装置スイッチの「ロック」側を押し、車いす後部を固定する

- ・ 固定装置スイッチの「ロック」側を押すと“ピッ…”とブザーが鳴ります。（→ P.61）
- ・ 固定装置スイッチの「ロック」側を押したときに“ピー…”とブザー（連続音）が鳴ったときは、車いすの固定が完了していません。リフトメインスイッチがON状態になっていること、およびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、**12**からの操作をやり直してください。



- 14 フックを前後左右にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、車いすが確実に固定されていることを確認する

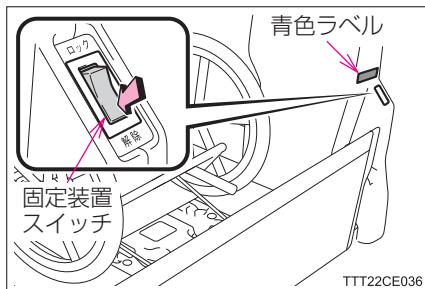


車いすの固定が不十分なときは、リフトメインスイッチがON状態になっていること、およびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、12からの操作をやり直してください。

スイングアームリフト上の大型車いすの固定解除のしかた

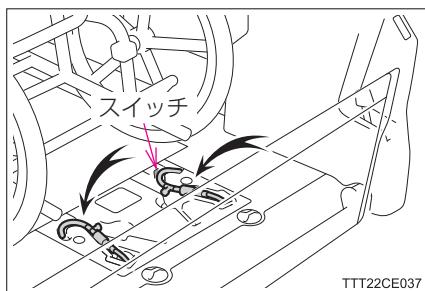
スイングアームリフトが車内に格納された状態で操作します。

- 1 固定装置スイッチの「解除」側を押し、車いす後部の固定を解除する

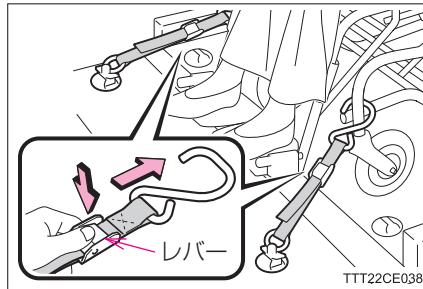


- 2 車いす固定装置のフックを車いすの後部フレームからはずす

- ・はずしたフックは床面固定部に挿し込みます。
- ・右うしろのフックは必ず“カチッ”と音がするまでスイッチに挿し込んで確実に格納します。



- ③ 大型車いす用ベルトのバックルのレバーを押しながらベルトをゆるめる



- ④ 大型車いす用ベルトのフックを車いすの前部フレームからはずす

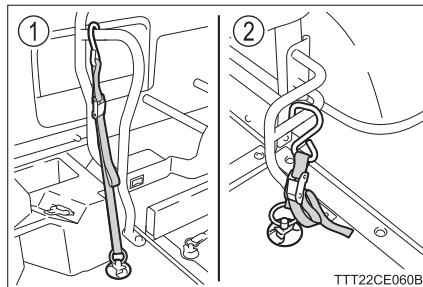
- ⑤ 大型車いす用ベルトのフックを仮置き位置に引っかける

① 右側ベルト

車いす収納装置のパイプにフックを引っかけ、調整側ベルトを引っ張ります。

② 左側ベルト

1人掛けリクライニングシート下部の保護バーにフックを引っかけ、調整側ベルトを引っ張ります。



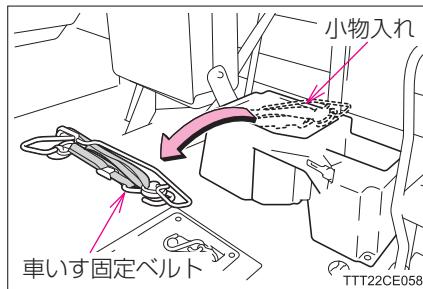
大型車いす用ベルトをしばらく使用しないときは、大型車いす用ベルトを床面から取りはずし、車いす収納装置前側の小物入れに収納します。 (→ P.85, 90)

車内での車いすの固定のしかた

■ 車いすを車内に乗り入れる前に（車いす仕様車 “AS タイプ”）

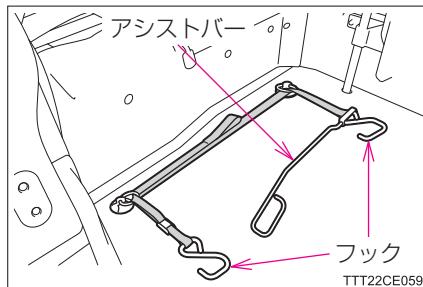
① 2人掛けスペースアップシートを格納する（→ P.165）

② 車いす収納装置前側の小物入れから車いす固定ベルトを取り出す

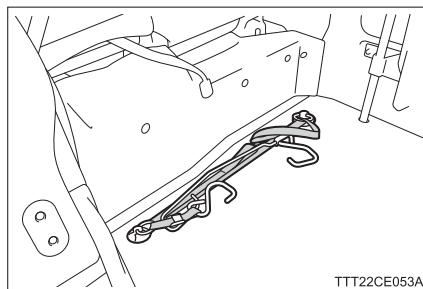


③ 車いす固定ベルトの固定金具をホルダープレートに取り付ける（→ P.85）

アシストバー付きのフックが車両右側になるように取り付けます。



④ 車いす固定ベルト、フックおよびアシストバーを前側に寄せる



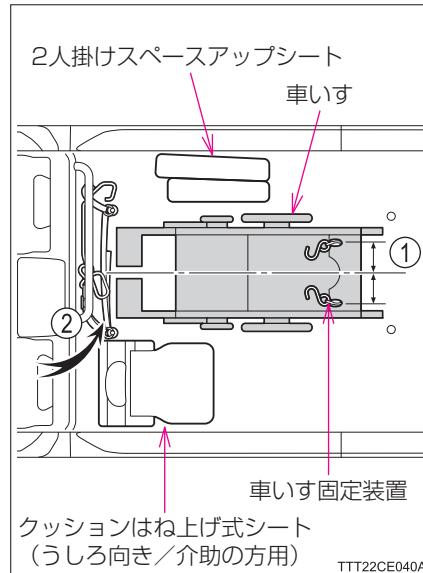
■車いすを車内に乗り入れ・固定するときは

- 1 スイングアームリフトを上昇・車内スライド完了させる (→ P.68)
- 2 車いすの固定を解除する (→ P.89)
- 3 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- 4 車いすを停止位置で止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

- ・車いすを動かすときにスイングアーム上の車いす固定ベルト（テンションゴム付き）にあたるときは、車いす固定ベルトをスイングアーム上から取りはずします。 (→ P.85)
- ・車いすを動かしたあと、車いす固定ベルトをスイングアーム上に取り付けます。 (→ P.85)

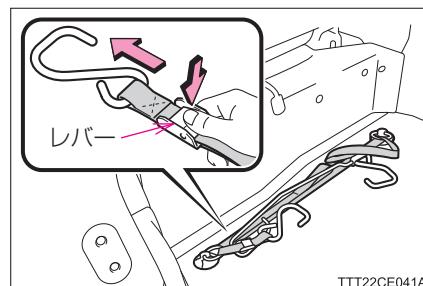
- ① 左右位置：車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：車いす乗車の方のつま先ができるだけ車両前方になる位置まで乗り入れる

- 5 クッションはね上げ式シート（うしろ向き／介助の方用）のクッションをはね上げる (→ P.154)
- 6 スライドドアを全開にし、介助の方だけ車外に出る
- 7 車いす固定ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめる



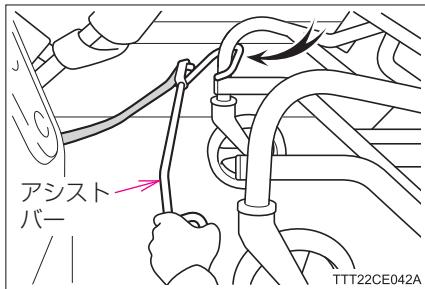
2

車いすの車内外への乗り降り（車いす仕様車）



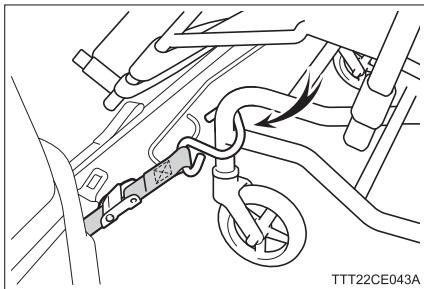
- 8 車いす固定ベルトにねじれがない状態で、車いすの前部フレームのいちばん下の接合部に車いす固定ベルトのフックを引っかける

► 右前側



アシストバーを持ち、車いすにフックを引っかける

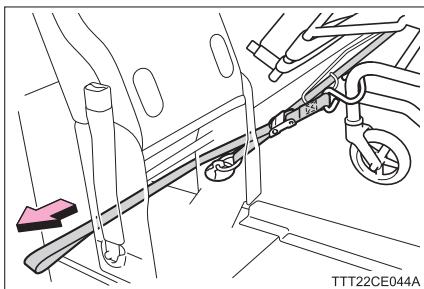
► 左前側



フックを持ち、車いすにフックを引っかける

- 9 調整側ベルトを引っ張り、車いす固定ベルトのたるみをなくす

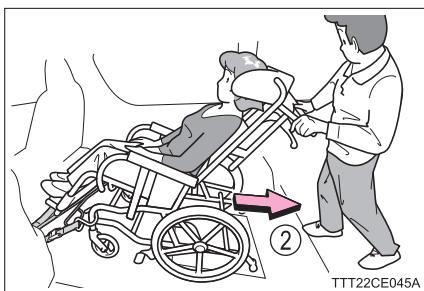
調整側ベルトは車内にもどします。
(車外に出たままにしないでください)



- 10 介助の方が乗車する

- 11 車いすを動かし、さらに車いす固定ベルトのたるみをなくす

- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② 車いすをしっかりとうしろに引く
- ③ 車いすのブレーキを両輪ともかける

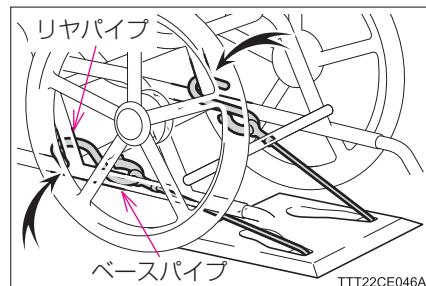


車いすが後方に動きすぎてしまったときは、次の操作をしてください。

- ① **7**の方法で車いす固定ベルトをゆるめ、車いすの前部フレームから車いす固定ベルトのフックを取りはずす
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ **4**の位置まで車いすを動かす
- ④ 車いすのブレーキを両輪ともかける
- ⑤ **8**以降の方法で車いす前部を固定する

- 12** 車いす固定装置のフックを床面固定部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける

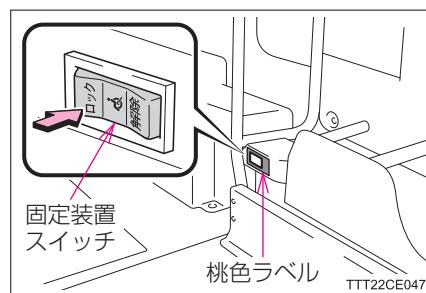
- ・ リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。
- ・ ワイヤーにたるみが出ないようにします。



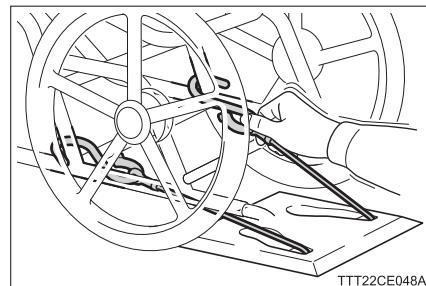
- 13** 車いすが十分に引き込まれるまで固定装置スイッチの「ロック」側を押し続け、車いす後部を固定する

固定装置スイッチの「ロック」側を押しているあいだ、"ピッ…"とブザーが鳴ります。 (→ P.61)

スイッチを押し続ける目安：1秒以上



- 14** フックを前後左右にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、車いすが確実に固定されていることを確認する

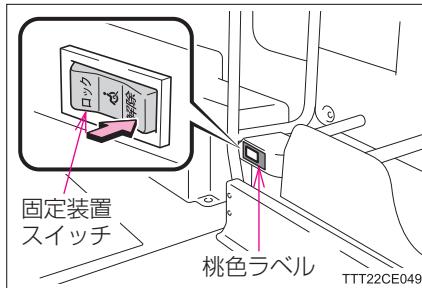


車いすの固定が不十分なときは、リフトメインスイッチがON状態になっていること、およびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、**12**からの操作をやり直してください。

車内での車いすの固定解除のしかた

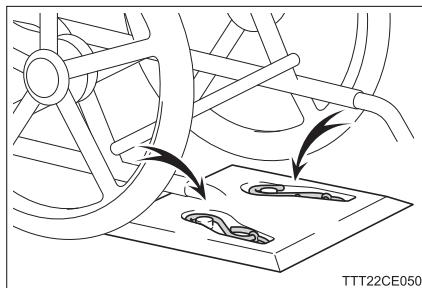
- 1 ベルトまたはワイヤーが完全にゆるむまで固定装置スイッチの「解除」側を押し続け、車いす後部の固定を解除する

スイッチを押し続ける目安：1秒以上



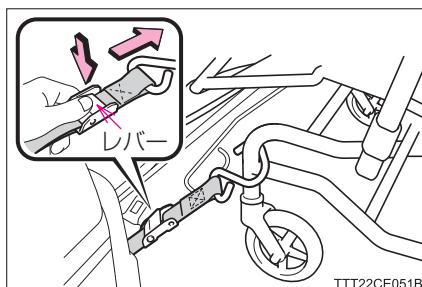
- 2 車いす固定装置のフックを車いすの後部フレームからはずす

ワイヤーがねじれていなことを確認し、はずしたフックは床面固定部に挿し込みます。(ワイヤーがねじれているとフックが床面固定部からはずれます)



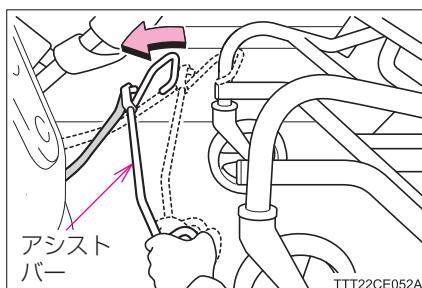
- 3 スライドドアを全開にし、介助の方だけ車外に出る

- 4 車いす固定ベルトのバックルのレバーを押しながらベルトをゆるめる



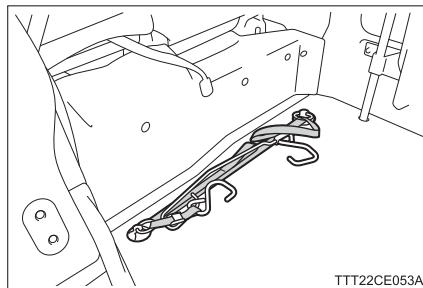
- 5 車いす固定ベルトのフックを車いすの前部フレームからはずす

右前側のフックはアシストバーを持つてはずします。



6 車いす固定ベルトおよびアシストバーを前側に寄せる

車いす仕様車“AS タイプ”で車いす降車後、2人掛けスペースアップシートを使用するときは、車いす固定ベルトを床面から取りはずし、車いす収納装置前側の小物入れに収納します。
(→ P.85, 96)



車いす固定後、スイングアームリフトを使用しないときは

バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする (→ P.58)

□ 知識

■ 車いす固定装置の作動について

- スイングアームリフト上で車いすを固定するときは、スイングアームリフト上昇前に行ってください。スイングアームリフト上昇中は、固定装置スイッチを押さないでください。
- スイングアームリフト上および車内の固定装置スイッチを同時に押さないでください。

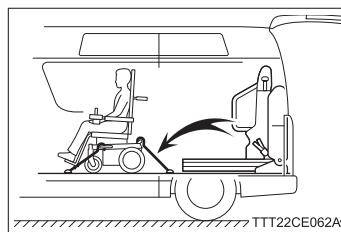
■ スイングアームリフト上で車いすを固定して走行するときは

車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも前側になっていることを確認してください。車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になっていると、バックドアを閉められません。

■ 大型車いす用ベルトについて

スイングアームリフト上で大型車いすを固定する際の前側ベルト、または車内で電動車いすを固定する際のうしろ側ベルトとしても使用できます。

スイングアームリフト上で電動車いすのうしろ側を固定するときは、架装オプションの「電動・特殊車いす用固定ベルト」を使用してください。



2

車いすの車内外への乗り降り（車いす仕様車）

■ ベルトおよびワイヤーについて

- 車いす乗り入れ前にベルトおよびワイヤーの点検をし、ベルトおよびワイヤーにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- 車いす固定装置のワイヤーが汚れるとワイヤーのもどりが悪くなることがあります。ワイヤーのもどりが悪くなったときは、ワイヤーの清掃をしてください。（→ P.215）

⚠️ 警告

■車いすの停止位置について

- 車いすは停止位置で止めてください。

停止位置以外の位置で車いすを固定すると、固定力が不十分になるため、車いすが不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スイングアームリフト上で車いすを固定するときは、車いす固定装置の前側フックをかける位置をプラットホーム上のラベルよりも前側にしてください。(→ P.78)

- スイングアームリフト上で車いすを停止したときは、車いす乗車の方の足や車いすの前端がプラットホームから出でていないことを確認してください。車いす乗車の方の足や車いすの前端がプラットホームから出た状態でスイングアームリフトを上昇させると、車両とスイングアームリフトのあいだで挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■車いすを固定するときは

- 車いすの固定は必ず介助の方が行ってください。

手足を挟まれたり、車いすからの転落など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- フックを扱うときは、フックをしっかりと持ってください。

車いす固定装置ワイヤーは自動巻き取り式のため、しっかりと持たないとフックおよびワイヤーが手などにあたり、けがをするおそれがあります。

- 車いす固定装置のフックを車いすのフレームに脱着するときは、フックとフレームとのあいだで指などを挟まないよう注意してください。

■車いすを固定したときは

必ずフックを前後左右にゆすり、ベルトおよびワイヤーにたるみがなく確実に固定されていることを確認してください。

確実に固定されていないと車いすが転倒したり、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 固定を確認しているときに、車いすとフックとのあいだで手を挟まないよう注意してください。

- ベルトおよびワイヤーにねじれがないことを確認してください。ベルトおよびワイヤーがねじれていると十分に固定できない場合があります。

- 固定がゆるいときは、リフトメインスイッチが ON 状態になっていることおよびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、固定操作をやり直してください。

- 固定装置スイッチを押しても車いす固定装置が作動しないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠️ 警告

■スイングアームリフト上で車いすを固定したときは（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”）

車いすの後端が車いす搭載基準線（赤色）よりも後側になってしまうときは、バックドアを閉める際、車いすにあたらないことを確認しながらゆっくり閉めてください。（→ P.28）

バックドアが車いす乗車の方の頭にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、車いすおよびバックドアが破損するおそれもあります。

■車いすを固定しないときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと乗員がつまずいたり、車いすにフックが引っかかり、車いす乗車の方が転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 後側の車いす固定装置のフックを車いすからはずしたときは、必ずフックを床面固定部に格納する（→ P.89, 94, 100）
- 大型車いす用ベルトのフックを車いすからはずしたときは、必ず大型車いす用ベルトのフックを仮置き位置に引っかけるか、床面から取りはずして車いす収納装置前部の小物入れに収納する（→ P.85, 90, 95）
- 車内の前側の車いす固定ベルトのフックを車いすからはずしたときは、必ず車いす固定ベルトおよびアシストバーを前側に寄せる（→ P.101）

■スイングアームリフトを操作するときは

→ P.27

■ベルトおよびワイヤーについて

車いす固定装置使用中、ベルトおよびワイヤーが傷付いたりほつれたりした場合は、すぐにトヨタ販売店でベルトおよびワイヤーの交換を行ってください。そのまま使い続けると、走行中に車いすの固定がはずれ、車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 故障・破損などを防ぐために

- フックを床面固定部に格納したまま固定装置スイッチの「ロック」側を押さないでください。
車いす固定装置が故障するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすに引っかけるときは、フックのワイヤーにねじれがないこと、およびフックのワイヤーが車いすのフレームの縁などにあたっていないことを確認してください。
ワイヤーが損傷するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすに引っかけた状態で、固定装置スイッチの「ロック」「解除」の切りかえをくり返し行わないでください。
車いす固定装置の故障の原因になります。
- 電動車いすを固定したとき、電動車いすの動力を使用して固定状態の確認をしないでください。
車いす固定装置が破損するおそれがあります。
- 車いすを固定したまま長時間放置しないでください。
車輪やフレームなどが変形するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすからはずしたときは、必ずフックを床面固定部に格納してください。
フックを放置したままにしておくと、車いす固定装置やその周辺機器を破損するおそれがあります。
- スイングアーム上で車いすを固定したときは、テンションゴムが車いすの車輪にあたっていないことを確認してください。
摩擦によりテンションゴムの交換サイクルが短くなります。(テンションゴムは消耗部品です)
- 大型車いす用ベルトのフックを車いすからはずしたときは、必ず大型車いす用ベルトのフックを仮置き位置に引っかけるか、床面から取りはずして車いす収納装置前部の小物入れに収納してください。(→ P.85, 90, 95)
スイングアームリフト作動時、大型車いす用ベルトがスイングアームリフトに巻き込まれて破損したり、スイングアームリフトが故障するおそれがあります。

車いす固定装置（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”）

車いすの固定および解除は、「リフトメインスイッチ ON 状態」かつ「バックドアが開いた状態」で行います。（→ P.58）

● 上記の状態になつてないと、車いす固定装置は作動しません。

- ・ 固定装置スイッチの「ロック」側を押すと “ピー……” とブザー（連続音）が約 3 分間鳴り続けます。
- ・ 「リフトメインスイッチ ON 状態」かつ「バックドアが開いた状態」にしたあとで、固定装置スイッチを再度操作すると、固定・解除することができます。

● 安全のため、スイングアームリフト作動中および走行中は、固定装置の固定・解除の変更をしないでください。

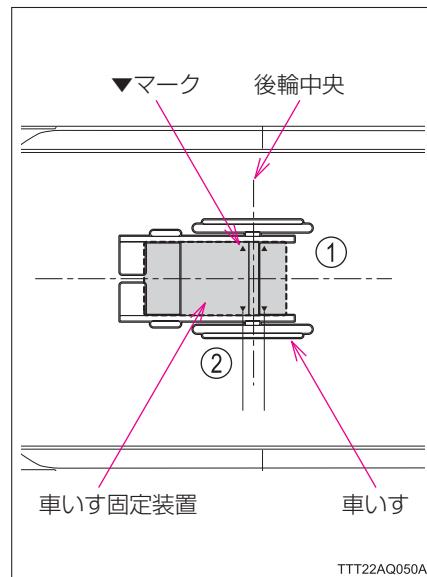
固定のしかた

- ① 車いすを停止位置で止め、車いすのブレーキを両輪ともかける
- ・車いすの停止位置（固定位置）および乗車可能寸法はお車のタイプにより異なります。（→ P.40～42）
 - ・スイングアームリフト上の車いす固定装置を使用するときは、スイングアームリフトを完全に下降させた状態にします。（→ P.67）

▶スイングアームリフト上の停止位置（→ P.79）

▶車内（スイングアームリフト上以外）の停止位置
(車いす仕様車 “B タイプ／D タイプ／F タイプ”)

- ① 車いす固定装置の中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 車いすの後輪中央が床面▼▼マーク間になる位置を目安に停止させる
 - ・車いす乗車の方の手足がシートおよび他の車いす乗車の方などにあたっていないことを確認します。
 - ・あたるときは車いすの後輪中央が床面▼▼マーク間になる位置で、車いすの前後位置を調整します。

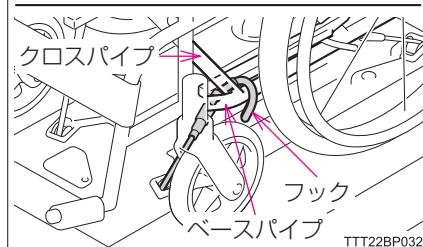
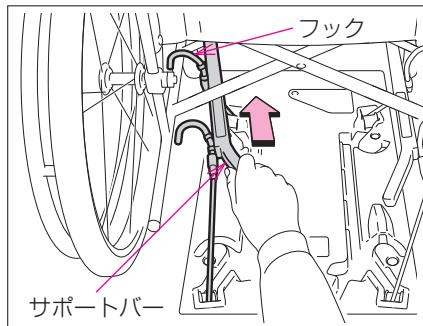


2 車いすに車いす固定装置のフックを引っかける

① サポートバーを持ち、クロスパイプとベースパイプ接合部に前側のフックを引っかける

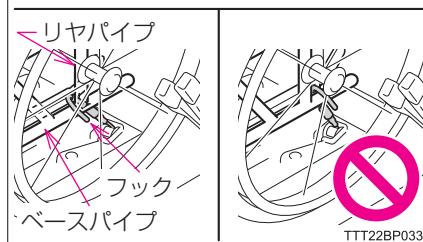
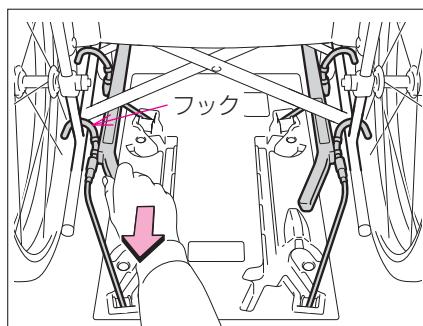
- ・サポートバーを前方に押したまま保持します。
- ・フックを右うしろの床面固定部から取り出すと“ピッ…ピッ…”とブザーが鳴り始めます。

(→ P.62)



② リヤパイプとベースパイプ接合部にうしろ側のフックを引っかける

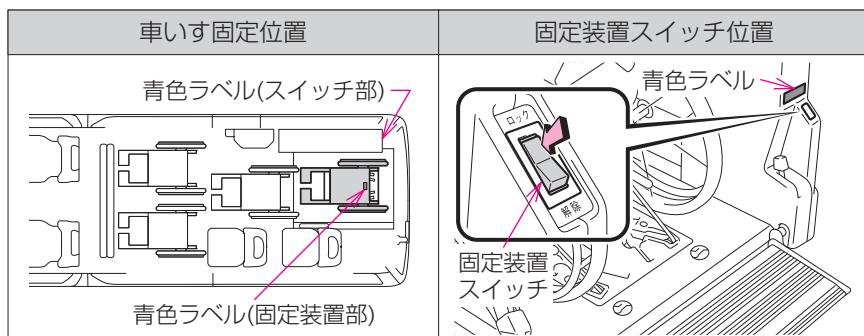
- ・サポートバーをゆっくりと手前に引きます。
- ・サポートバーが車いすにあたってフックがかけられないときは、P.114 の方法でフックをサポートバーから取りはずします。



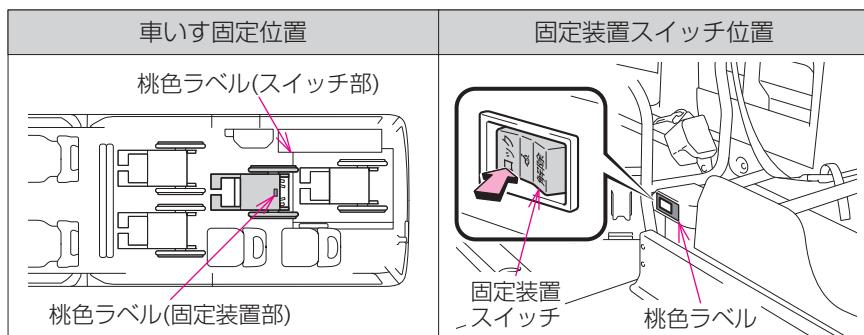
3 車いす固定位置に該当する固定装置スイッチの「ロック」側を押し、車いすを固定する

- ・ブザーが鳴りやんだことを確認します。
- ・スイングアームリフト上（青色ラベル）および車内中央部（桃色ラベル）の車いす固定装置の固定装置スイッチの「ロック」側を押したときに“ピー…”とブザー（連続音）が鳴ったときは、車いすの固定が完了していません。リフトメインスイッチがON状態になっていること、およびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、**2**からの操作をやり直してください。
- ・複数の固定装置スイッチの「ロック」側を同時に押さないでください。

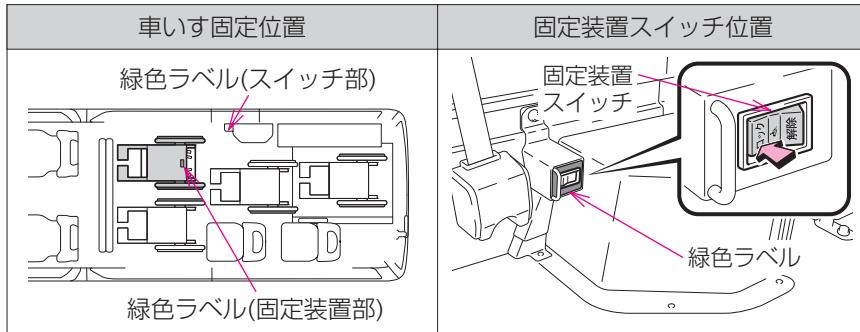
► スイングアームリフト上（青色ラベル）（車いす仕様車“Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”）



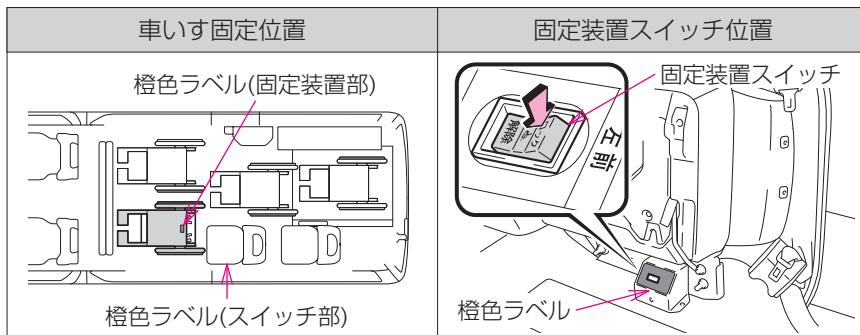
► 車内中央部（桃色ラベル）（車いす仕様車“Bタイプ／Dタイプ／Fタイプ”）



▶ 車内右前部（緑色ラベル）（車いす仕様車 “Dタイプ”）



▶ 車内左前部（橙色ラベル）（車いす仕様車 “Dタイプ”）

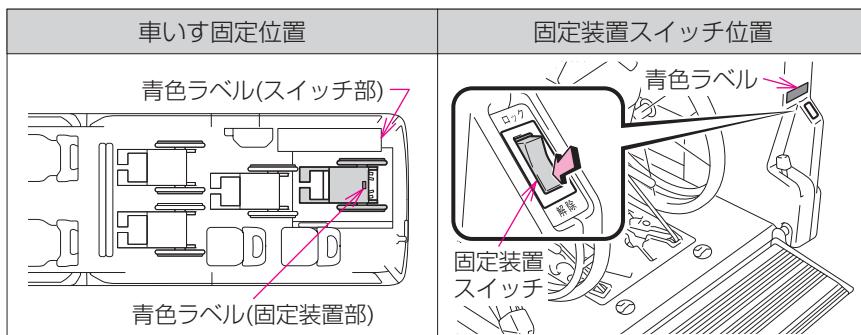


- 4 サポートバーまたはフックを前後左右にゆすり、ワイヤーにたるみがなく確実に固定されていることを確認する

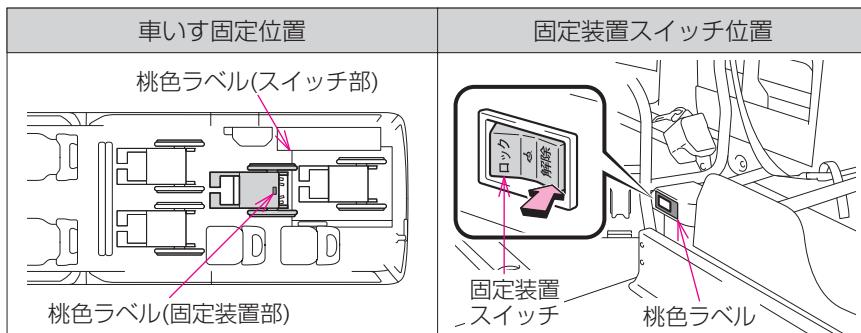
解除のしかた

- 1 固定装置スイッチの「解除」側を押し、車いすの固定を解除する
- 車いすの固定が解除されると“ピッ…ピッ…”とブザーが鳴り始めます。
(→ P.62)
 - 複数の固定装置スイッチの「解除」側を同時に押さないでください。

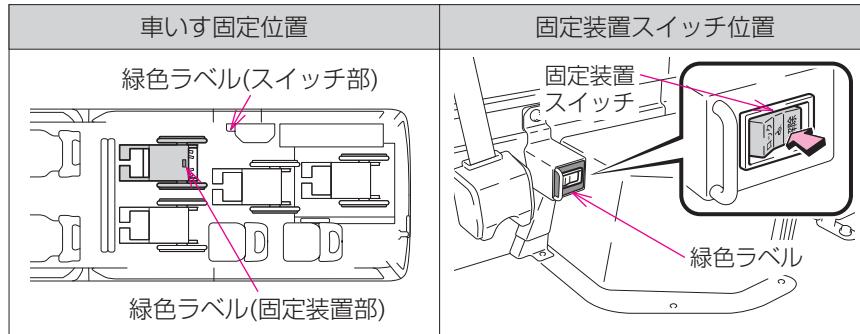
► スイングアームリフト上（青色ラベル）（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”）



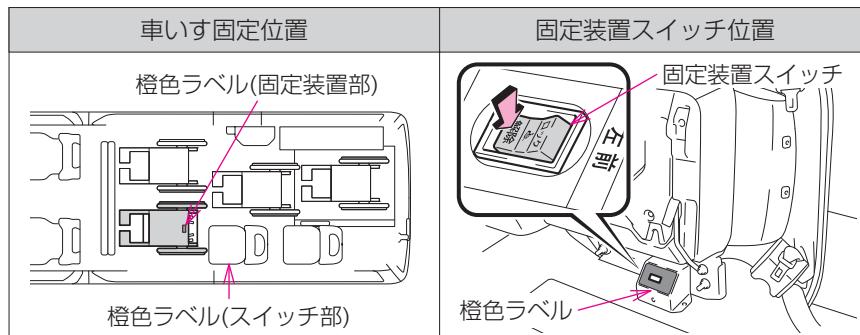
► 車内中央部（桃色ラベル）（車いす仕様車 “B タイプ／D タイプ／F タイプ”）



▶ 車内右前部（緑色ラベル）（車いす仕様車“Dタイプ”）

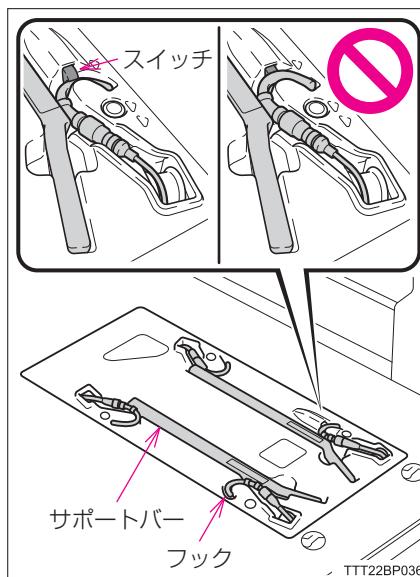


▶ 車内左前部（橙色ラベル）（車いす仕様車“Dタイプ”）



2 サポートバーを持ち、車いすから固定装置のフックをはずす

- ・サポートバーおよびフックを床面固定部に格納します。
- ・右うしろのフックは必ず“カチッ”と音がするまでスイッチに挿し込んで確実に格納し、“ピッ…ピッ…”または“ピッピッ…”というブザーが鳴りやんだことを確認してください。（→ P.62）



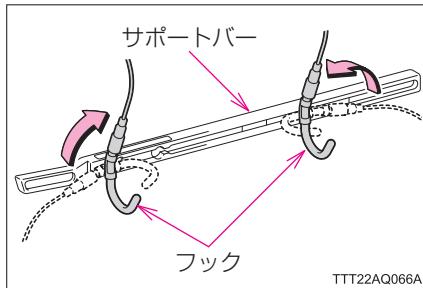
車いす固定後、スイングアームリフトを使用しないときは

バックドアを閉め、リフトメインスイッチを OFF 状態にする (→ P.58)

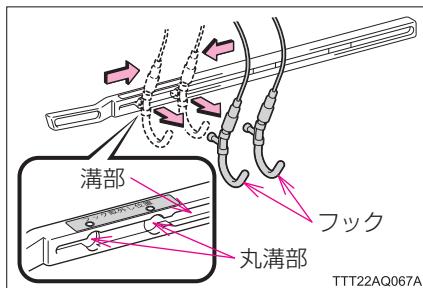
サポートバーが車いすにあたってフックがかけられないときは

フックをサポートバーから取りはずします。

① フックを下向きにする



② フックを溝部にそって「フック取外し位置」表示までスライドさせ、丸溝部からフックを引き抜く



③ 車いすのパイプ接合部を目安にして、フックを引っかける (→ P.109)

- ・ フックのワイヤーにねじれがないことを確認します。
- ・ フックをサポートバーにもどすときは、逆の手順で行います。
- ・ この方法でも固定できない車いす、および電動車いすを固定するときは、架装オプションの「電動・特殊車いす用固定ベルト」を使用してください。
- ・ 電動車いすの固定をする場合は、電動・特殊車いす用固定ベルトのご使用をおすすめします。(電動・特殊車いす用固定ベルトはスイングアームリフト上でのみ使用できます)

知識

■ スイングアームリフト上での車いすの固定について

スイングアームリフト上昇前に行ってください。スイングアームリフト上昇中は、固定装置スイッチを押さないでください。

□ 知識

■ ワイヤーについて

- 車いす乗り入れ前にワイヤーの点検をし、ワイヤーにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- 車いす固定装置のワイヤーが汚るとワイヤーのもどりが悪くなることがあります。ワイヤーのもどりが悪くなったときは、ワイヤーの清掃をしてください。（→ P.216）

■ フックを車いす固定装置から取り出したときのブザーについて

次のときに“ピッ…ピッ…”とブザーを鳴らし、車いすが確実に固定されていないこと、または車いす固定装置のフックが確実に格納されていないことをお知らせします。

- 車いす固定装置のフックを右うしろの床面固定部から取り出し、車いすの固定が完了するまでのあいだ（車いすの固定が完了すると、ブザーが鳴りやみます）
- 車いすの固定を解除後、車いす固定装置のフックが右うしろの床面固定部に完全に格納されるまでのあいだ（フックを右うしろの床面固定部に完全に格納すると、ブザーが鳴りやみます）

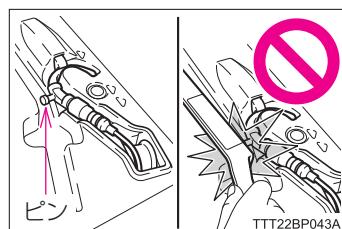
ブザー	フック		固定装置スイッチ	
	格納	取り出し	ロック	解除
吹鳴		●		●
停止		●	●	
	●			●
	●		●	

上記のことをしてもブザーが鳴りやまないときは、固定装置スイッチの「解除」側を押してから車いすの固定をやり直すか、車いす固定装置へのフックの格納をやり直してください。

- “ピッ…ピッ…”とブザーが鳴り始めてから30秒以上経過すると、“ピッピッ…”というブザーにかわります。（→ P.62）

■ フックをサポートバーからはずした状態で床面固定部に格納するときは

フックだけを床面固定部に格納してください。（フックのピンがあたるため、サポートバーは床面固定部に格納できません）



⚠️ 警告

■車いすを固定するときは

- 車いすの固定は必ず介助の方が行ってください。
手足を挟まれたり、車いすからの転落など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすは停止位置で止めてください。
停止位置以外の位置で車いすを固定すると、固定力が不十分になるため、車いすが不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車いすを固定したときは

必ずサポートバーまたはフックを前後左右にゆすり、ワイヤーにたるみがなく確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと車いすが転倒したり、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
固定装置スイッチを押したあと、ブザーが鳴りやまないとき、また固定がゆるいときは、リフトメインスイッチがON状態になっていることおよびバックドアが開いていることを確認後、固定装置スイッチの「解除」側を押し、固定操作をやり直してください。

■車いす固定装置使用後は

車いす固定装置のフックを車いすからはずしたときは、必ずサポートバーおよびフックを床面固定部に格納してください。(→ P.113)
サポートバーおよびフックを放置したままにしておくと、乗員がつまずいたり、車いすにフックが引っかかり、車いす乗車の方が転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ワイヤーについて

車いす固定装置使用中、ワイヤーが傷付いたりほつれたりした場合は、すぐにトヨタ販売店でワイヤーの交換を行ってください。
そのまま使い続けると、走行中に車いすの固定がはずれ、車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■故障・破損などを防ぐために

- フックおよびサポートバーを床面固定部に格納したまま固定装置スイッチの「ロック」側を押さないでください。
車いす固定装置が故障するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすに引っかけるときは、フックのワイヤーにねじれがないこと、およびフックのワイヤーが車いすのフレームの縁などにあたっていないことを確認してください。
ワイヤーが損傷するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすに引っかけた状態で、固定装置スイッチの「ロック」「解除」の切り替えをくり返し行わないでください。
車いす固定装置の故障の原因になります。
- 電動車いすを固定したとき、電動車いすの動力を使用して固定状態の確認をしないでください。
車いす固定装置が破損するおそれがあります。
- 車いすを固定したまま長時間放置しないでください。
車輪やフレームなどが変形するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすからはずしたときは、必ずサポートバーおよびフックを床面固定部に格納してください。
サポートバーおよびフックを放置したままにしておくと、車いす固定装置やその周辺機器を破損するおそれがあります。
- フックをサポートバーから取りはずしたときは、サポートバーを放置しないでください。
サポートバーの破損、紛失のおそれがあります。
- 車いす固定装置の右うしろのフック格納部のスイッチ(→ P.113)に、グリースや潤滑油などを塗布しないでください。
フックの検知不良や故障につながるおそれがあります。

車いす用シートベルト

体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前へ倒れそうなときには、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の方法に従って走行前に必ず着用してください。

シートベルトの着用は介助の方が行ってください。

3 点式シートベルトの着用

1 腰部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

2 腰部ベルトを車いすの左右のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通して、腰部ベルトを装着する

“カチッ”と音がするまでプレートをバックル（ベージュ）に挿し込みます。



2

車いすの車内外への乗り降り（車いす仕様車）

3 肩部ベルトを持って引き出す

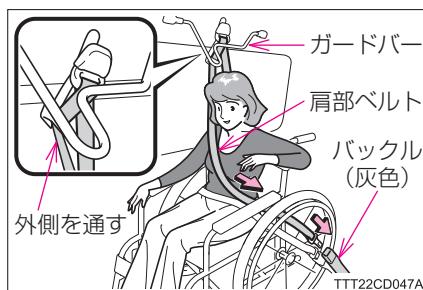
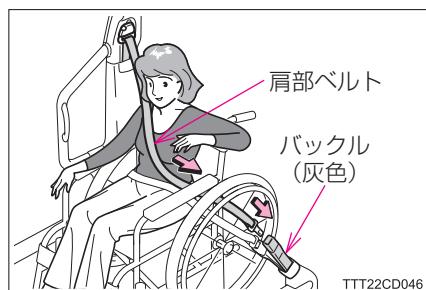
ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

4 肩部ベルトを車いす左側のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通して、肩部ベルトを装着する

“カチッ”と音がするまでプレートをバックル（灰色）に挿し込みます。

▶全車

▶車いす仕様車 “Fタイプ” 車内の肩部ベルト

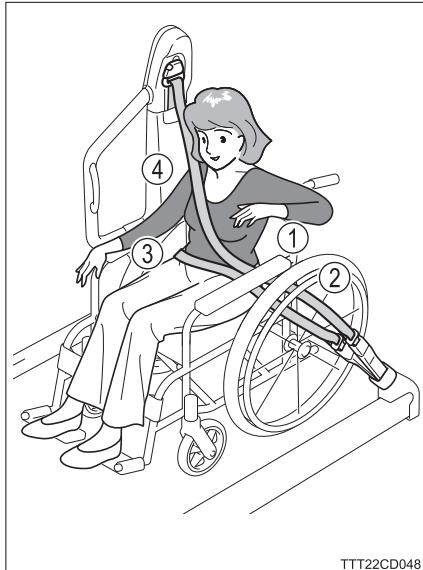


肩部ベルトはガードバーの外側を通して

5 肩部ベルトが肩にかからない場合は、肩部ベルトの高さを変更する
(→ P.124)

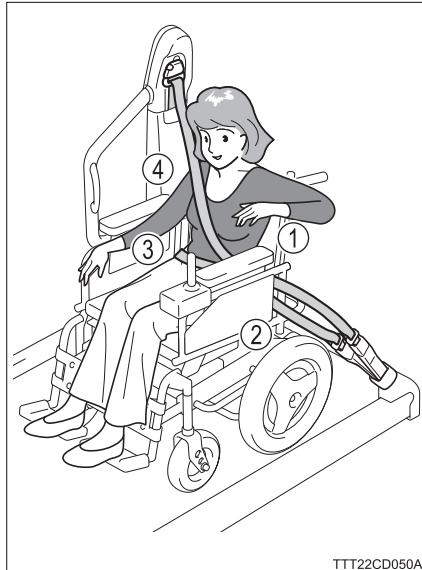
6 シートベルトを調整し、ベルトにねじれがないことを確認し、次のとおりに正しく着用する

▶ 手動車いすでの着用



TTT22CD048

▶ 電動車いすでの着用



TTT22CD050A

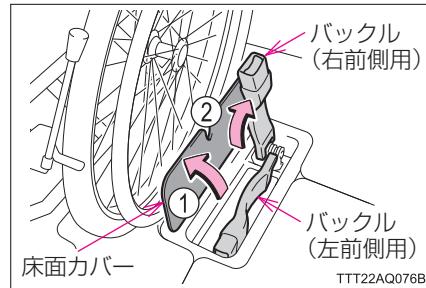
- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 肩部ベルト・腰部ベルトとも、アームレストの下とスパークのあいだを通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれない
ようにしてください。

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 肩部ベルト・腰部ベルトとも、アームレストの下とスカートガードのあいだを通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれない
ようにしてください。

2 点式シートベルトの着用（車いす仕様車“Dタイプ”）

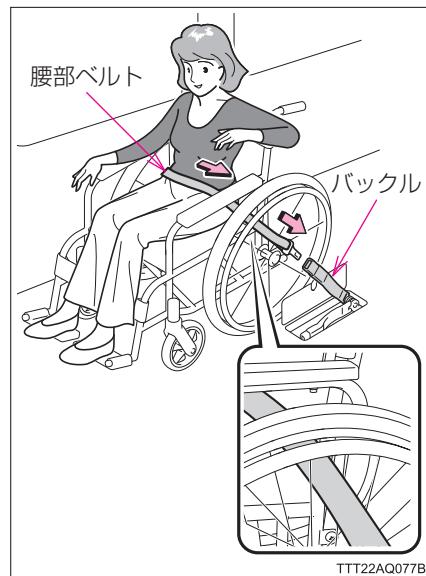
- ① 着用する側のシートベルトのバックルを取り出す

- ① 床面カバーを開ける
② バックルを取り出す



- ② シートベルトを車いすの左右のアームレストの下側および車いすのスロークのあいだを通して、シートベルトを装着する

“力チッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。



- ③ シートベルトを調整し、ベルトにねじりがないことを確認し、次のとおりに正しく着用する

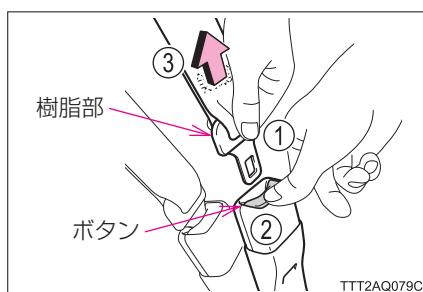
- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② シートベルトはアームレストの下とスパークのあいだを通す
- ③ シートベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる



はずし方

- ① バックルのボタンを押してプレートをはずす

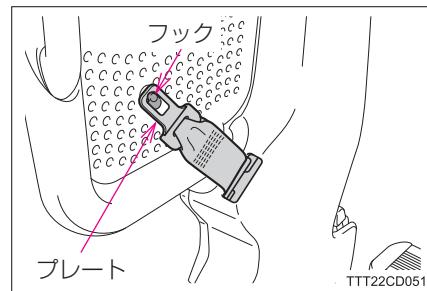
- ① プレートの樹脂部を手で持つ
- ② バックルのボタンを押す
- ③ プレートの樹脂部を手で持ったまま、ベルトを巻き取らせる



2 着用した位置の車いす用シートベルトをもとの位置にもどす

► スイングアームリフト上の腰部ベルト

プレートをフックに引っかける

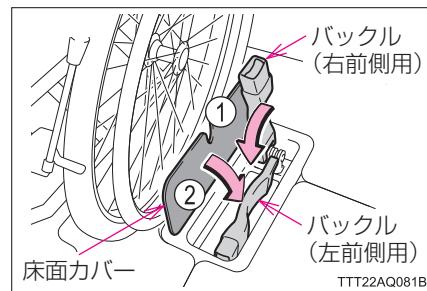


2

車いすの車内外への乗り降り（車いす仕様車）

► 2点式シートベルト（車いす仕様車 “Dタイプ”）

- ① バックルを格納する
- ② 床面カバーを閉める



車いすの車内外への乗り降り（車いす仕様車）

肩部ベルトが肩にかかる場合（3点式シートベルト）

■ アジャスタブルシートベルトアンカー（スイングアームリフト上）

肩部ベルトが肩に十分かかるように、肩部ベルトの高さを調整することができます。

- 肩部ベルトが首にあたったり、肩からはずれて腕にかかってしまうときには、肩部ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにします。
- 調整するときは、肩部ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにします。

① 上げる

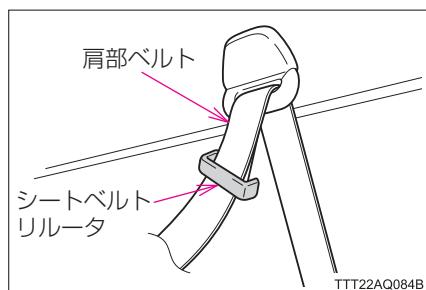
② 下げる

- ・ 下げるときは、ロックボタンを押しながら操作します。
- ・ 調整後、“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。



■ シートベルトリルータ（スイングアームリフト上を除く）

肩部ベルトをシートベルトリルータに通す



□ 知識

■ シートベルトについて

アジャスタブルシートベルトアンカー部を回転させないでください。シートベルトがねじれて引き出せなくなります。

■ シートベルトがロックしたまま引き出せないときは

一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

▲ 警告

■ シートベルトを着用するときは

- シートベルトの着用は必ず介助の方が行い、正しく着用されていることを確認してください。

シートベルトは正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 3点式シートベルトは必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方を着用してください。

- シートベルトを着用するときは、必ず車いすが固定されていることを確認してください。

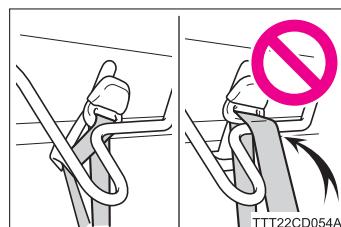
車いすの固定が悪いと車いすが動き出し、車いす乗車の方のシートベルトが正しく着用できなくなり、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは必ずアームレストの下側およびスパークまたはスカートガードのあいだを通してください。

シートベルトがアームレストにかかった状態で着用すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車いす仕様車“Fタイプ”の車内でシートベルトを着用するときは、肩部ベルトは必ずガードバーの外側を通してください。

ガードバーの内側を通して着用すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⚠ 警告

■肩部ベルトの高さを調整したときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 肩部ベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整する
- アジャスタブルシートベルトアンカーで肩部ベルトの高さを調整したときは、アンカーが確実に固定されていることを確認する

■シートベルトを着用しないときは

- プレートをバックルからはずすときは、必ずプレートの樹脂部を手で持ってからバックルのボタンを押してください。
プレートがいきおいよくもどり、顔などにあたりけがをするおそれがあります。
- 2点式シートベルトを着用しないときは、床面カバーを必ず閉めてください。
(車いす仕様車“Dタイプ”)
開けたままだと車内を移動するとき、つまずいてけがをするおそれがあります。

■車内で作業や移動をするときは（車いす仕様車“Fタイプ”）

ガードバーに頭をあてないよう、注意してください。
けがをするおそれがあります。



⚠ 注意

■破損を防ぐために（車いす仕様車“Fタイプ”）

ガードバーを引っ張るなど、無理な力を加えないでください。

ガードバー取り付け部が破損するおそれがあります。



車いす収納装置

車いすを折りたたみ、車いすのブレーキを両輪ともかけた状態で行います。

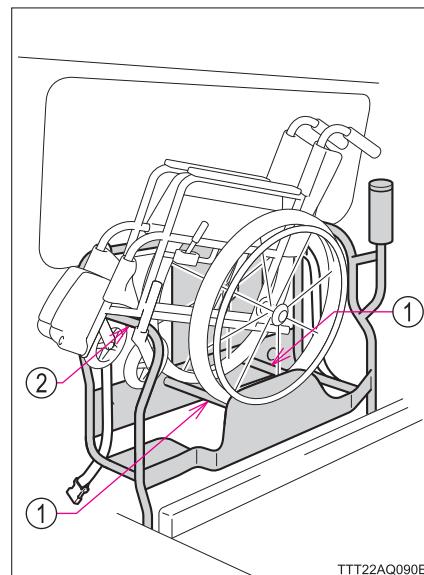
- 車いす仕様車“Cタイプ／Fタイプ”は背もたれ（ハンドル）も折りたたみます。
- トヨタ純正専用車いすを収納する場合は、トヨタ純正専用車いすの取扱書をご確認ください。

車いすの収納・固定のしかた

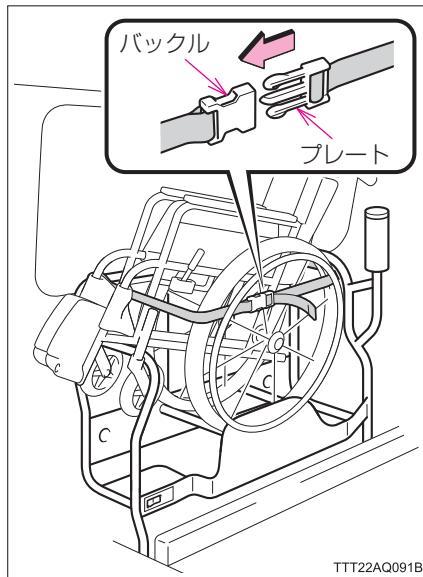
▶車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ／Bタイプ／Dタイプ”

① 車いすを収納位置にセットする

- ① 車いす後輪を2本の下部収納パイプの上にのせる
- ② 車いすのベースパイプを前部収納パイプにのせる



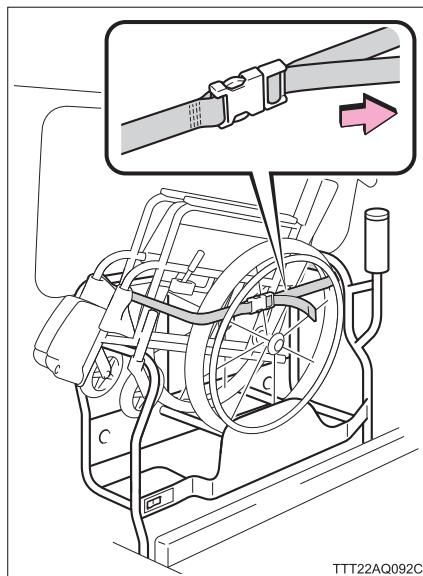
- 2 固定ベルトを車いすの前フレームおよび後輪のハンドリムを通して、プレートをバックルに挿し込む



TTT22AQ091B

- 3 調整側ベルトを引っ張り、車いすを確実に固定する

車いすを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。

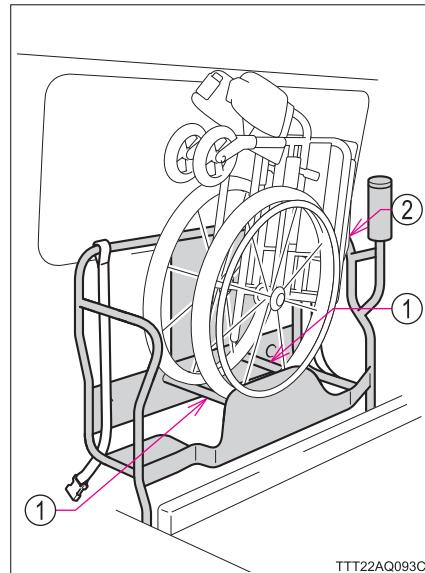


TTT22AQ092C

▶ 車いす仕様車 “C タイプ”

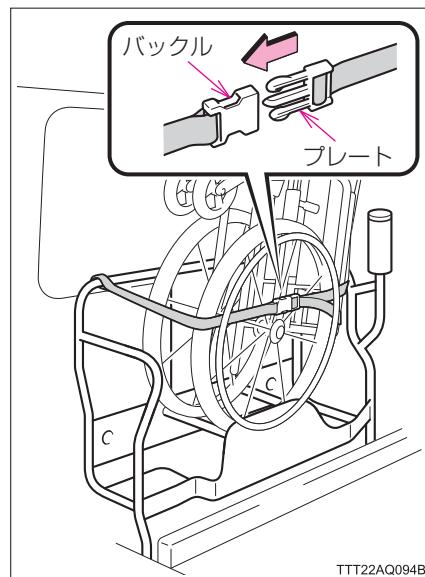
① 車いすを収納位置にセットする

- ① 車いす後輪を 2 本の下部収納パイプの上にのせる
- ② 車いすのアームレストを後部収納パイプにあてる



TTT22AQ093C

② 固定ベルトを車いすの後輪のハンドリムを通して、プレートをバックルに挿し込む

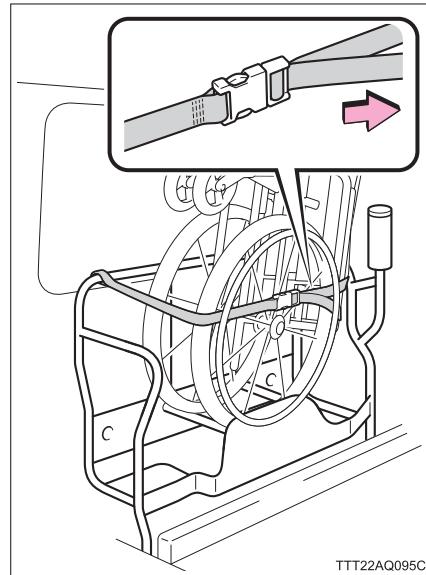


TTT22AQ094B

2

3 調整側ベルトを引っ張り、車いすを確実に固定する

車いすを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。



▶ 車いす仕様車 “F タイプ”

車いすを 2 脚収納できます。

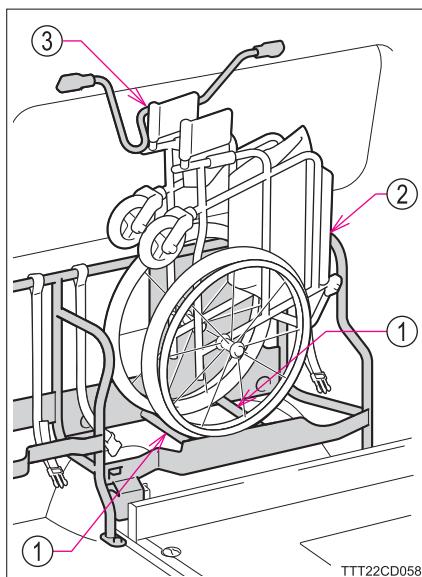
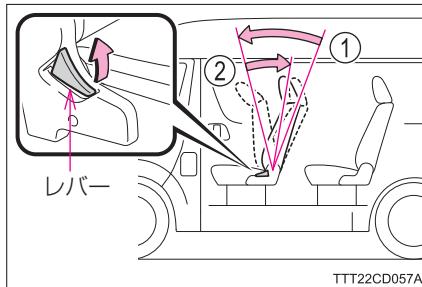
■ 車いすを 2 脚収納するときは

- 1 2 人掛けリクライニングシート
右側席の背もたれを次のように
調整する

- ① リクライニングレバーを引きながら背もたれを車両前側に
いっぱいまで倒す
- ② リクライニングレバーを引かずにそのまま“カチッ”と音
がするまで背もたれを起こす
調整後、背もたれを前後左右にゆ
すり、確実に固定されていること
を確認します。

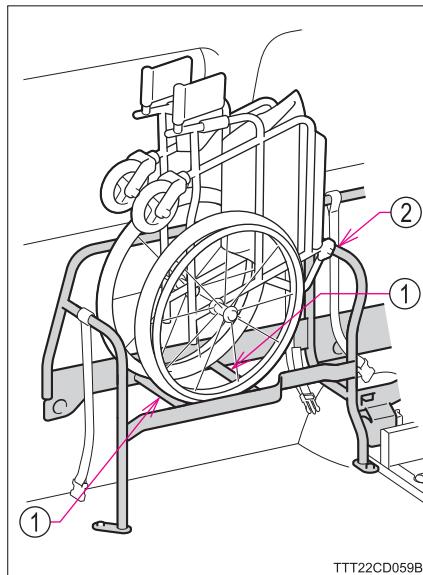
- 2 1 脚目の車いすをうしろ側の収
納位置にセットする

- ① 車いす後輪を 2 本の下部収納
パイプの上にのせる
- ② 車いすのアームレストを後部
収納パイプにあてる
- ③ 車いすのフットレストをガードバーにあてる

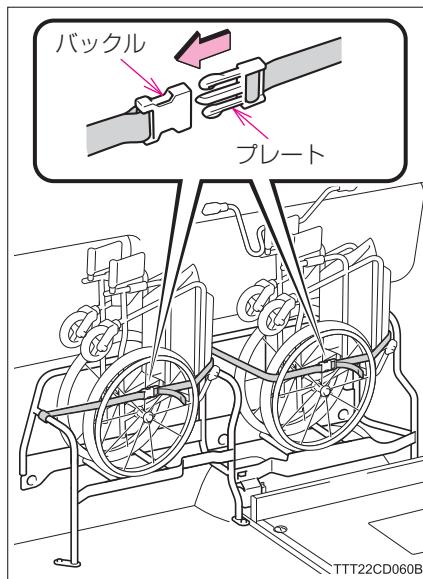


3 2脚目の車いすを前側の収納位置にセットする

- ① 車いす後輪を2本の下部収納パイプの上にのせる
- ② 車いすのアームレストを後部収納パイプにあてる

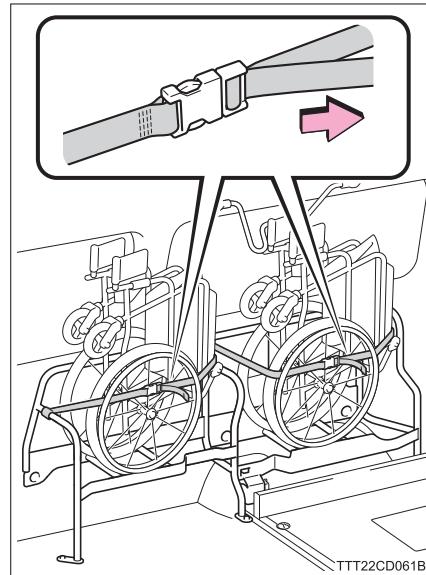


4 固定ベルトを車いすの後輪のハンドリムを通して、プレートをバックルに挿し込む



5 調整側ベルトを引っ張り、車いすを確実に固定する

車いすを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。



■車いすを1脚収納するときは

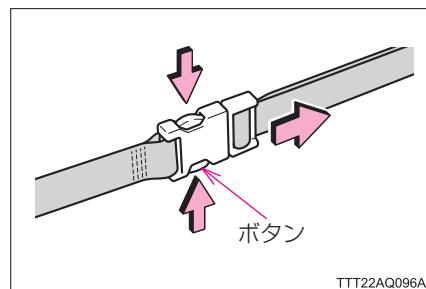
- 前側の車いす収納装置に車いすを収納するときは、「■車いすを2脚収納するときは」の①および③以降の方法で収納・固定します。
- うしろ側の車いす収納装置に車いすを収納するときは、「■車いすを2脚収納するときは」の②および④以降の方法で収納・固定します。

■2人掛けリクライニングシート右側席に着座するときは

2人掛けリクライニングシート右側席の背もたれをうしろ側に倒すときは、車いすにあたらないことを確認しながら行います。

解除のしかた

固定ベルトのバックルのボタンを押してロックを解除し、プレートをはずす



 **知識**

■ 収納可能な手動車いすの目安（車いす折りたたみ時）

収納可能な車いすは下表のサイズのものになります。

部位	全長	全高	折りたたみ幅
車いす仕様車			
Aタイプ／ASタイプ／Bタイプ／Dタイプ	1,100mm以下	900mm以下	
Cタイプ	1,010mm以下		320mm以下
Fタイプ	920～1,010mm	660mm※以下	

* : Cタイプ／Fタイプは車いすの背もたれが折りたためるタイプのみ収納可能です。

 **警告**

■ 車いすを収納・固定したときは

- 固定ベルトを通すとき、車いすのブレーキに引っかけないよう、注意してください。
車いすが確実に固定されず、車いすが倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 調整側ベルトを引っ張るときは、バックルのボタンにふれないでください。
固定ベルトがはずれて車いすが倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車いすを前後左右にゆすり確実に固定されていることを確認してください。
走行中に固定がはずれると車いすが倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車室内・車室外装備

3

3-1. ドア

チャイルドプロテクター	136
バックドアの開閉 (車いす仕様車)	137

3-2. シート・シートベルト

リクライニングシート (車いす仕様車)	138
1人掛けシート (車いす仕様車 "Fタイプ")	141
3人掛けタンブルシート (車いす仕様車 "Dタイプ")	143
右はね上げ式シート (介助の方用) (車いす仕様車 "Bタイプロング")	149
クッションはね上げ式シート (車いす仕様車 "Bタイプ/ Cタイプ/Fタイプ")	151
クッションはね上げ式シート (うしろ向き/介助の方用) (車いす仕様車 "Aタイプ/ ASタイプ")	154
1人掛けスペースアップシート (車いす仕様車 "Bタイプ/ スーパー・ロング/ Dタイプ")	157
2人掛けスペースアップシート (車いす仕様車 "ASタイプ")	164
シートベルト (車いす仕様車)	170

3-3. 手すり

スライドドア乗降口ハンドレール &フロントハンドレール (車いす仕様車 "ASタイプ/ Bタイプ/Cタイプ/ Dタイプ/Fタイプ" / ウェルジョイン)	178
手すり	187
可倒式手すり (車いす仕様車 "Bタイプ/Cタイプ/ Dタイプ/Fタイプ")	190

3-4. 電気品

電動格納式ステップ	194
夜間照明灯 (車いす仕様車)	198
ルームランプ	199

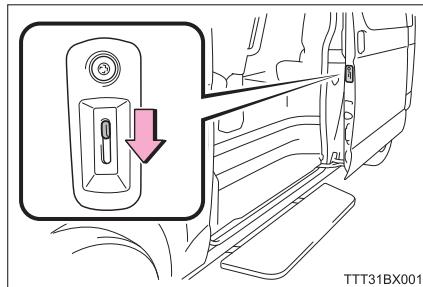
3-5. 室内装備

小物入れ (車いす仕様車)	201
リヤヒーター	203

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。



知識

■ チャイルドプロテクター使用時のスライドドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。

警告

■ 走行中の警告

お子さまをリヤ席にのせるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からスライドドアが開かないようにしてください。

思いもよらずスライドドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ スライドドアイージークローザーについて

チャイルドプロテクターが施錠側のときは、イージークローザー作動中に車内のドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。

骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワースライドドアについて

チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。(パワースライドドア→標準車取扱書の「スライドドア」)

バックドアの開閉（車いす仕様車）

バックドアの開閉作動について、標準車との相違点を記載しています。

バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、バックドアが自動で完全に閉まります。

□ 知識

■ バックドアイージークローザーの作動について

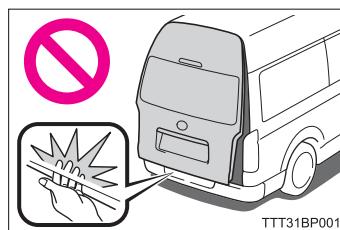
- エンジンスイッチの状態に関係なく、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内または車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。

▲ 警告

■ バックドアイージークローザーについて

イージークローザーが作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないよう注意してください。

骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



△ 注意

■ バックドアイージークローザーについて

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

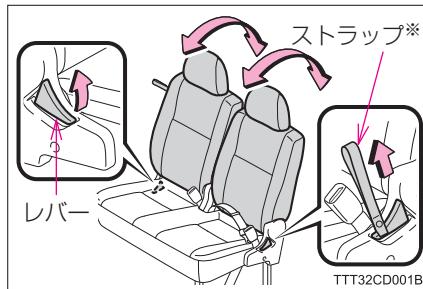
リクライニングシート（車いす仕様車）

リクライニング調整のしかた

レバーまたはストラップ※を引いたまま、背もたれを前後に動かす

- レバーまたはストラップ※を引いた側のシートが調整できます。
- 調節後、背もたれを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。

※：車いす仕様車 “B タイプロング／F タイプ” のみ

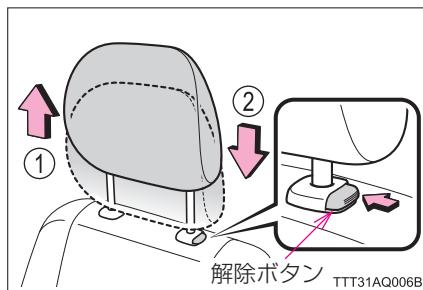


ヘッドレスト調整のしかた

① 上げる

② 下げる

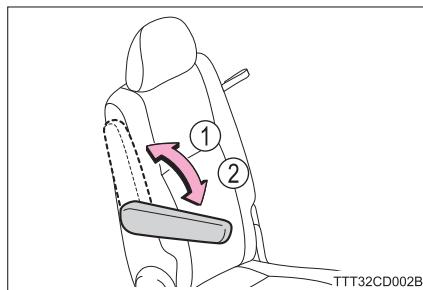
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



アームレスト（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ” の最後列 1 人掛けリクライニングシート）

① 上げる

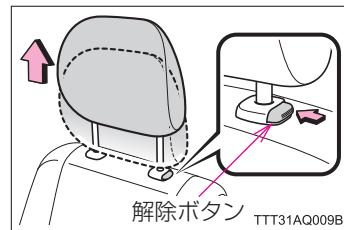
② 下げる



□ 知識

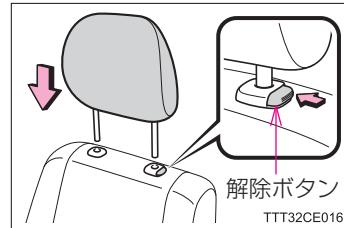
■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押したまま引き抜きます。



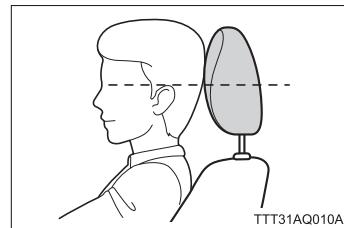
■ ヘッドレストを取り付けるときは

- ① 解除ボタンを押しながらヘッドレスト取り付け穴に合わせて挿し込みます。
- ② 解除ボタンから指を離し、ロック位置まで押し下げます。
- ③ さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



⚠ 警告

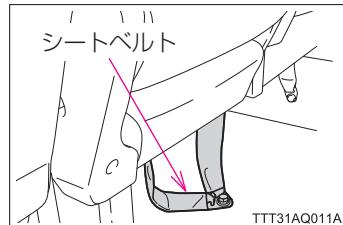
■リクライニング調整について

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。
背もたれに力が加わっていると、レバーまたはストラップ操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■前側の2人掛けリクライニングシートのシートベルトについて（車いす仕様車“Cタイプ”）

うしろ側の2人掛けリクライニングシートにお乗りの方は、前側の2人掛けリクライニングシートのシートベルトについて、次のことをお守りください。

- 前側の2人掛けリクライニングシートのシートベルトを踏まないでください。
前側の2人掛けリクライニングシート乗車の方がシートベルトを着用しているときにシートベルトを踏むと、前側の2人掛けリクライニングシート乗車の方に負荷がかかります。



- 前側の2人掛けリクライニングシートのシートベルトに足を引っかけないよう注意してください。
転倒してけがをするおそれがあります。

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

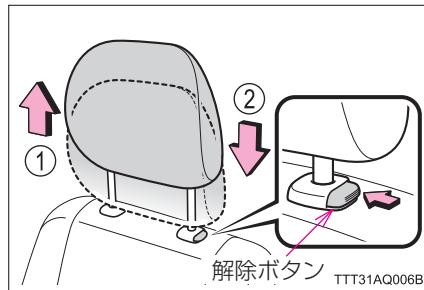
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1人掛けシート（車いす仕様車 “Fタイプ”）

ヘッドレスト調整のしかた

- ① 上げる
- ② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



アームレスト

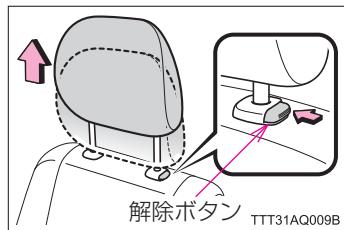
- ① 上げる
- ② 下げる



 **知識**

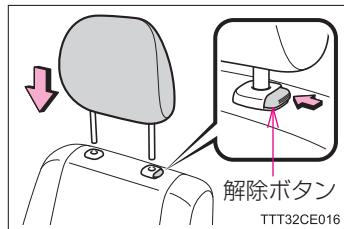
■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押したまま引き抜きます。



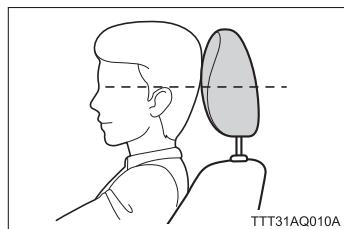
■ ヘッドレストを取り付けるときは

- ① 解除ボタンを押しながらヘッドレスト取り付け穴に合わせて挿し込みます。
- ② 解除ボタンから指を離し、ロック位置まで押し下げます。
- ③ さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

3人掛けタンブルシート（車いす仕様車 “Dタイプ”）

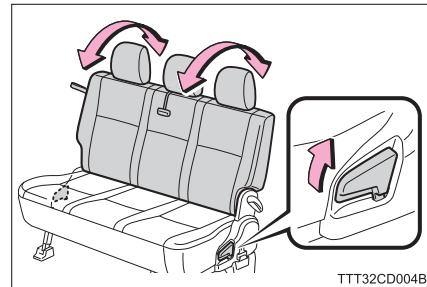
リクライニング調整のしかた

- ① 背もたれをうしろ側に倒すときは、1人掛けスペースアップシートが格納されていないことを確認する

格納されているときは、着座状態にもどしてから（→P.160）、3人掛けタンブルシートの背もたれをうしろ側に倒します。

- ② 左右いずれかのレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かす

調節後、背もたれを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。

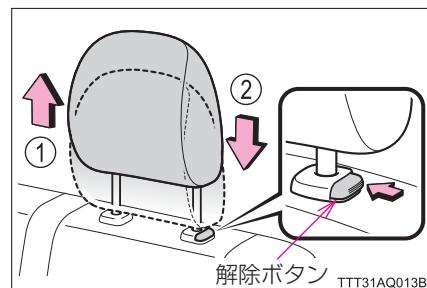


ヘッドレスト調整のしかた

- ① 上げる

- ② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

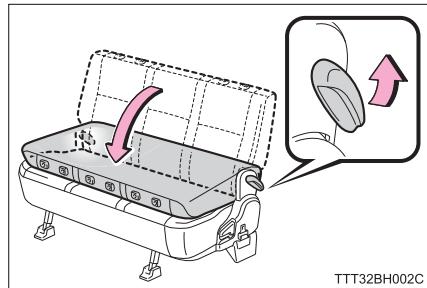


3人掛けタンブルシートの格納

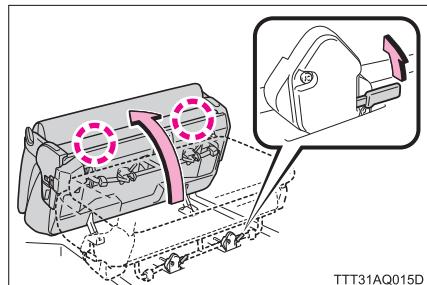
車いすを車内前側に乗り入れ・固定するときは、シートを格納します。

■ 格納のしかた

- 1 シートベルトをはずし、中央席シートベルトを分離する
(→ P.172, 173)
- 2 ヘッドレストを取りはずす (→ P.146)
- 3 背もたれを起こす (→ P.143)
- 4 左右いずれかの前倒しレバーを引いて、背もたれを前に倒す

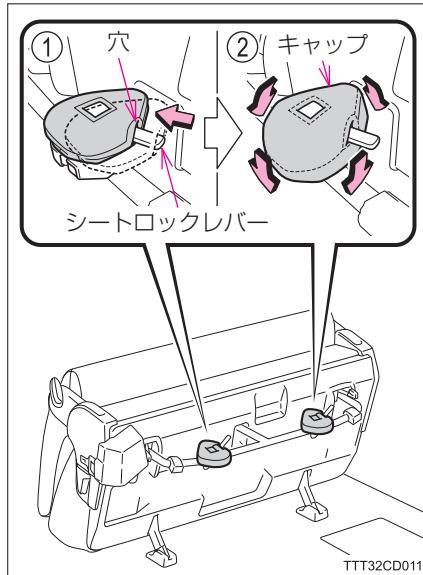


- 5 ○部を目安に持ち、シート後部を引き上げながらロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、シート全体を前方に起こす

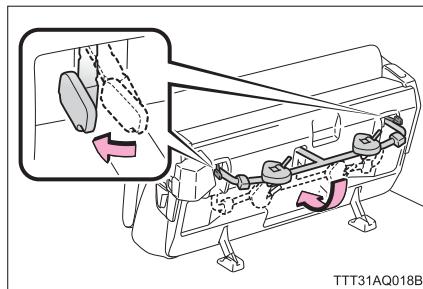


6 シートロック部にキャップをかぶせる

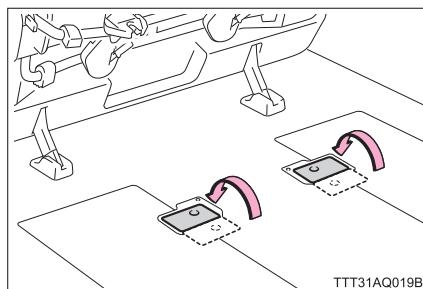
- ① キャップの穴にシートロックレバーを通す
- ② キャップのすそを広げながらシートロック部にキャップをはめ込む



7 左右のレバーを内側に引いてロックを解除し、シート脚部を折りたたむ



8 床面ロック部カバーを閉める(左右とも)



■ もとにもどすときは

格納したときと逆の手順で行います。

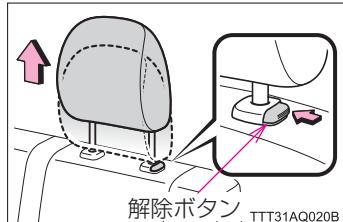
□ 知識

■ 背もたれをうしろ側に倒すときは

1人掛けスペースアップシートを着座状態にしてから操作してください。1人掛けスペースアップシートが格納されているとシートがあたり、3人掛けタンブルシートの背もたれをうしろ側に倒すことができません。

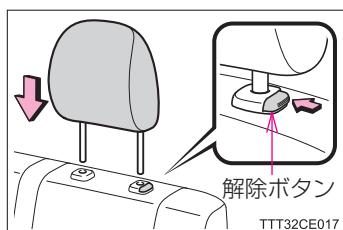
■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押したまま引き抜きます。



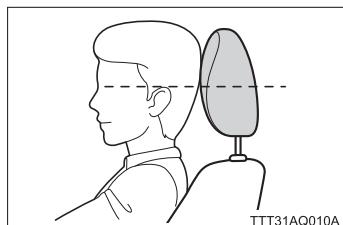
■ ヘッドレストを取り付けるときは

- 1 解除ボタンを押しながらヘッドレスト取り付け穴に合わせて挿し込みます。
- 2 解除ボタンから指を離し、ロック位置まで押下げます。
- 3 さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



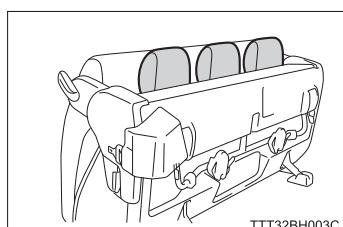
■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあるあたりになるように調整してください。



■ シート格納時のヘッドレスト収納場所について

シート格納時、はずしたヘッドレストは右図のように収納します。



⚠️ 警告

■リクライニング調整について

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。
背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■シートの格納・もどす操作をするときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートの格納・もどす操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- シートを格納するときは、必ずシートロック部にキャップをかぶせ、シート脚部を格納する
シート脚部が起きたままだと、車いす乗り入れ時、車いす乗車の方にシート脚部があたり、けがをするおそれがあります。
- シートロック部のキャップの取り付け・取りはずし時にロック部で手を切らないように注意する
- シートを格納したときは、床面ロック部カバーを必ず閉める
開けたままだと車内を移動するとき、つまずいてけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- 格納したシートの上に人を乗せて走行しない
- シートをもとにもどすときは、シート脚部で手足を挟まないように注意する
- シートをもとにもどしたときは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げるなどして、シートが確実に固定されていることを確認する

⚠ 注意

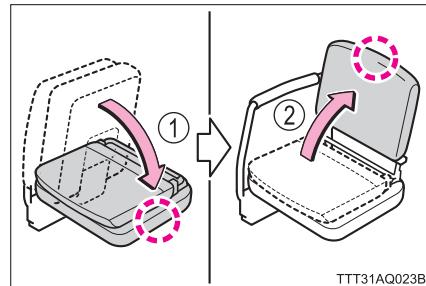
■ 破損を防ぐために

- シートをもとにもどすときは、必ずシートロック部のキャップを取りはずしてください。
キャップが付いたままシートをもどすと、ロック部にかみ込み、キャップを破損するおそれがあります。
- シートをもとにもどすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。
ものがある状態でシートをおろすと、シートやものが破損するおそれがあります。

右はね上げ式シート（介助の方用） (車いす仕様車 “B タイプロング”)

使用するときは

- ① クッションの○部を目安に持ち、クッションを手前に引いて、静かに降ろす
- ② 背もたれの○部を目安に持ち、背もたれを起こす



3

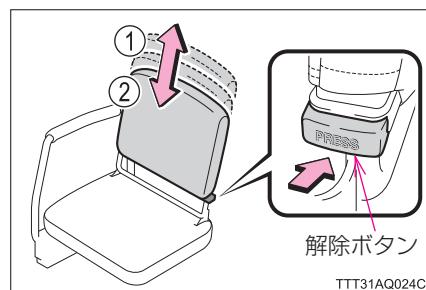
車室内・車室外装備

格納するときは

逆の手順で背もたれ・クッションを格納する

背もたれの高さ調整

- ① 上げる
- ② 下げる
 - ・ 背もたれの高さは 2 段階に調整できます。
 - ・ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。
 - ・ シートを格納するときは、背もたれをいちばん下げた位置にします。



⚠ 警告

■シートの格納・もどす操作をするときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートの操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 操作中は、クッションおよび背もたれの○部を目安に持ち、可動部や結合部や手すりに手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 格納したシートの上に人を乗せて走行しない

■シートに着座するときは

- 必ず手すりを持ってください。

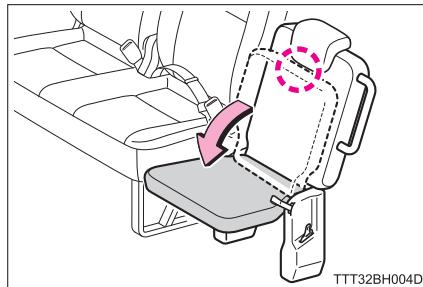
走行中のゆれなどにより不安定になり、けがをするおそれがあります。

- スライドドアに手や腕を置かないでください。
スライドドア開閉時、スライドドアに手や腕を挟まれ、けがをするおそれがあります。

クッションはね上げ式シート (車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／F タイプ”)

使用するときは

- ① クッションの○部を目安に持ち、クッションを静かに降ろす



- ② クッションを下に押し、クッションをロックさせる

操作後、クッションを前後左右にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

格納するときは

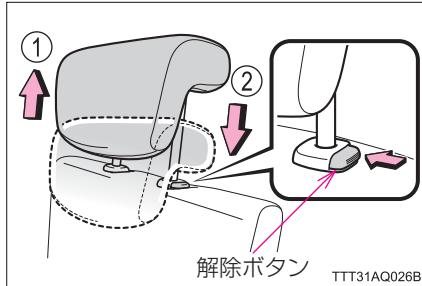
ロック解除ストラップを引きながら、クッションの○部を目安に持ち、クッションを持ち上げる



ヘッドレスト調整のしかた

- ① 上げる
- ② 下げる

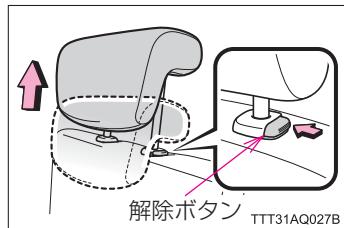
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

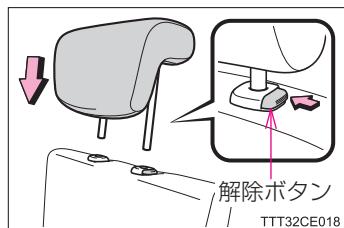
■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押したまま引き抜きます。



■ ヘッドレストを取り付けるときは

- ① 解除ボタンを押しながらヘッドレスト取り付け穴に合わせて挿し込みます。
- ② 解除ボタンから指を離し、ロック位置まで押し下げます。
- ③ さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ ヘッドレストの使用について

常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ クッションの格納・もどす操作をするときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にクッションの操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 操作中は、クッションのC部を目安に持ち、可動部に手足を挟まないように注意する
- シートを使用するときは、クッションを前後左右にゆすり、クッションが確実にロックされていることを確認する
- お子さまに操作させない
- 格納したクッションの上に人を乗せて走行しない

■ シートに着座するときは

必ず手すりを持ってください。

走行中のゆれなどにより不安定になり、けがをするおそれがあります。

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

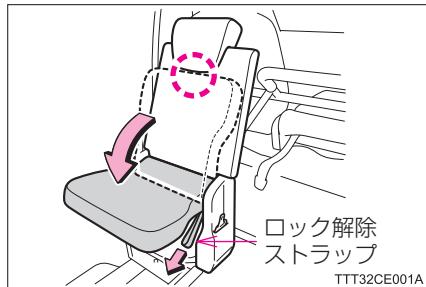
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

クッションはね上げ式シート（うしろ向き／介助の方用） (車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”)

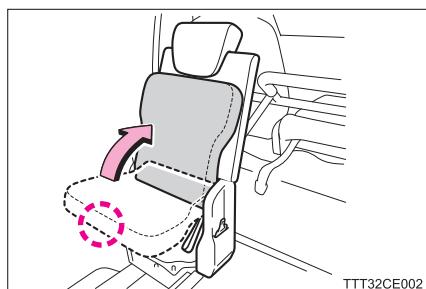
使用するときは

ロック解除ストラップを引きながら、クッションの○部を目安に持ち、クッションを静かに降ろす



格納するときは

- 1 クッションの○部を目安に持ち、クッションを持ち上げる

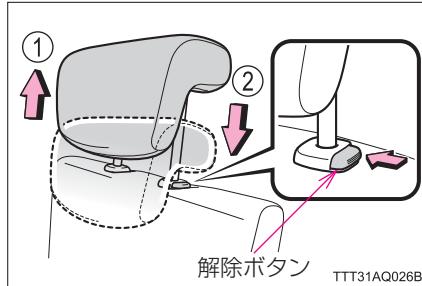


- 2 クッションを背もたれ側に押し、クッションをロックさせる
操作後、クッションを前後左右にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

ヘッドレスト調整のしかた

- ① 上げる
- ② 下げる

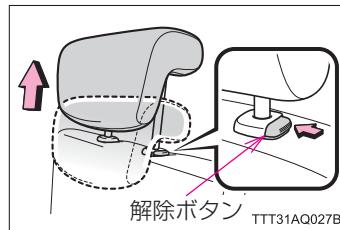
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

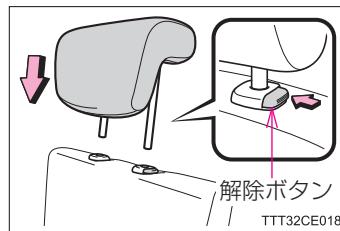
■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押したまま引き抜きます。



■ ヘッドレストを取り付けるときは

- ① 解除ボタンを押しながらヘッドレスト取り付け穴に合わせて挿し込みます。
- ② 解除ボタンから指を離し、ロック位置まで押し下げます。
- ③ さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ ヘッドレストの使用について

常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ クッションの格納・もどす操作をするときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にクッションの操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 操作中は、クッションのC部を目安に持ち、可動部に手足を挟まないように注意する
- ロック解除ストラップを引きながらクッションをおろすときは、クッションに腕などをあてないように注意する
- シートを格納したときは、クッションを前後左右にゆすり、クッションが確実にロックされていることを確認する
- お子さまに操作させない
- 格納したクッションの上に人を乗せて走行しない

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

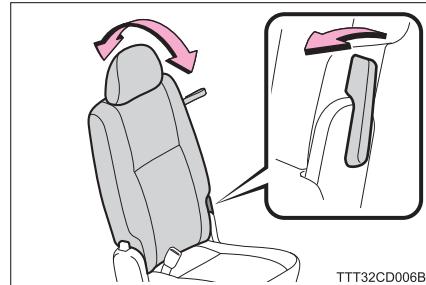
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げる固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1人掛けスペースアップシート (車いす仕様車 “Bタイプスーパー長／ロタイプ”)

リクライニング調整のしかた

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かす

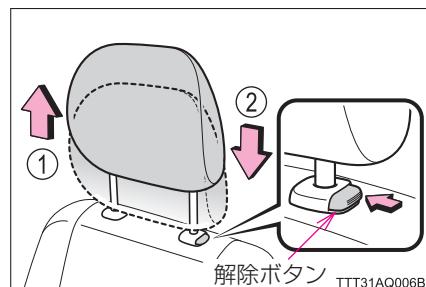
調節後、背もたれを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。



ヘッドレスト調整のしかた

- ① 上げる
- ② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



1 人掛けスペースアップシートの格納

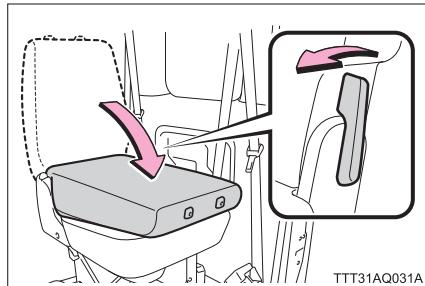
車いす仕様車“Dタイプ”で、車いすを車内左前側に乗り入れ・固定するときは、シートを格納します。

- 車いす乗り入れ・固定後は、シートをもとにもどして使用することができます。

■格納のしかた

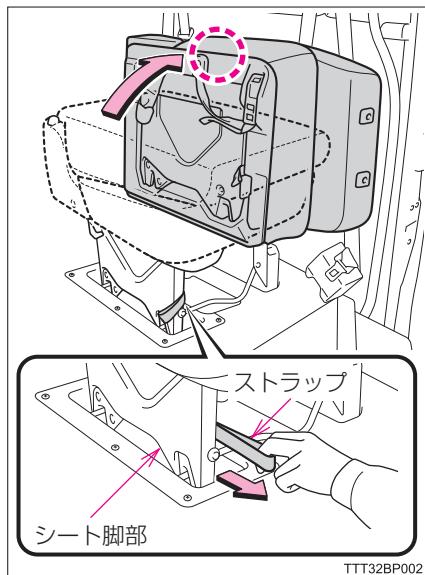
1 ヘッドレストを取りはずす (→ P.161)

2 レバーを引いたまま、背もたれを前に倒す



3 シート脚部のストラップを床面に対して水平方向に引いてロックを解除し、○部を目安に持って、シートを横方向にいっぽいまで持ち上げる

シート脚部が自動的に折りたたまれるため、シート脚部には手を添えないでください。

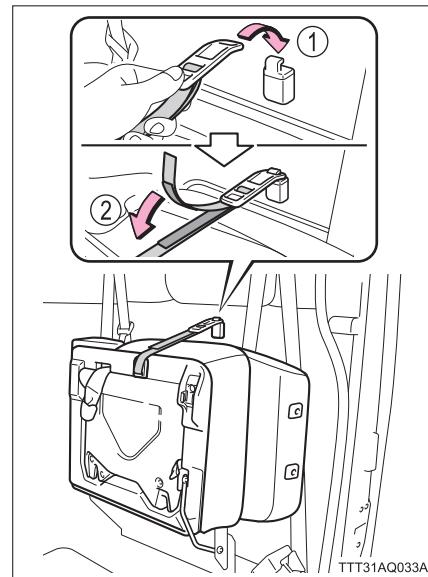
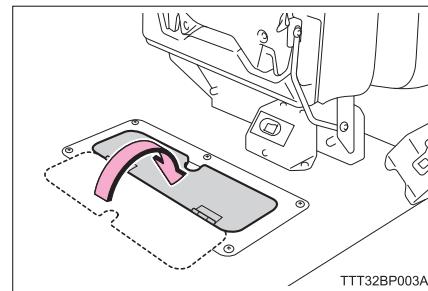


4 固定バンドでシートを固定する

① 固定バンドのフックを車両側のフックに引っかける

② バンドを引き、面ファスナーを貼り合わせる

シートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。

**5 床面ロック部カバーを閉める**

■ もとにもどすときは

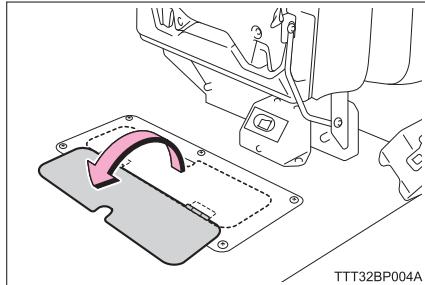
▶ 車内左前側に車いすが乗り入れ・固定されていない場合

格納したときと逆の手順で行います。

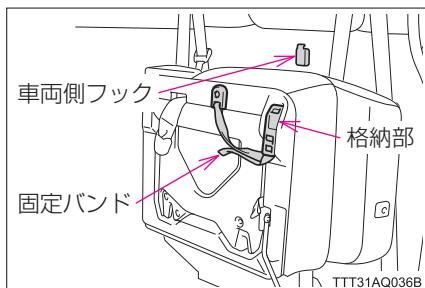
▶ 車内左前側に車いすが乗り入れ・固定されている場合

(車いす仕様車 “D タイプ”)

- 1 床面ロック部カバーを開ける

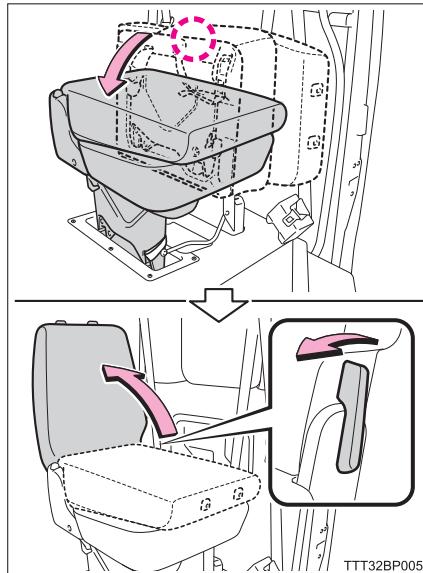


- 2 固定バンドのフックを車両側のフックからはずし、シート裏面の格納部にはめ込む



- ③ レバーを引いたまま、背もたれを起こしながら○部を目安に持って、シートをおろす

シート脚部はシートをおろすと自動的に出てくるため、シート脚部には手を添えないでください。



TTT32BP005

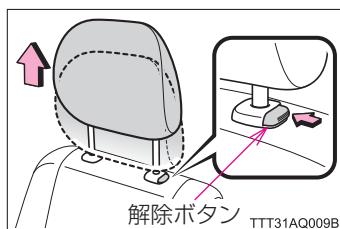
- ④ シートを押さえ付け、シートを確実に固定する

- ⑤ ヘッドレストを取り付ける

□ 知識

■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押したまま引き抜きます。



解除ボタン

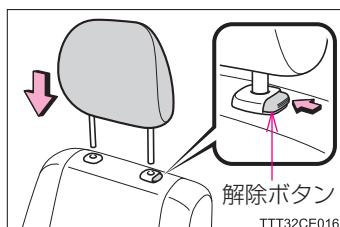
TTT31AQ009B

■ ヘッドレストを取り付けるときは

① 解除ボタンを押しながらヘッドレスト取り付け穴に合わせて挿し込みます。

② 解除ボタンから指を離し、ロック位置まで押し下げます。

③ さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



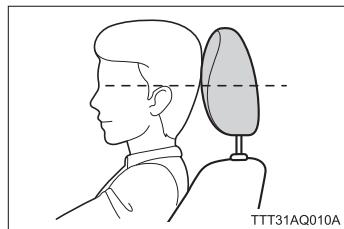
解除ボタン

TTT32CE016

□ 知識

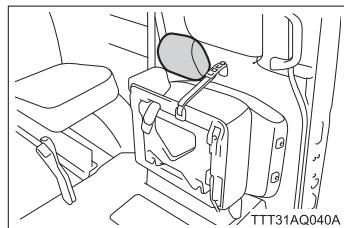
■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



■ シート格納時のヘッドレスト収納場所について

シート格納時、はずしたヘッドレストは右図のように収納します。



⚠ 警告

■ リクライニング調整について

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

⚠ 警告

■ シートの格納・もどす操作をするときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートの格納・もどす操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P の位置にする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- シートを格納したときは、固定バンドで確実に固定する
確実に固定されていないと、シートが倒れて車いす乗車の方にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シート固定後はシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。
- シートを格納したときは、床面ロック部カバーを必ず閉める
開けたままだと車内を移動するとき、つまずいてけがをするおそれがあります。
- 格納したシートの上に人を乗せて走行しない
- シートをもとにもどすときは、シート脚部で手足を挟まないように注意する
- シートをもとにもどしたときは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げるなどして、シートが確実に固定されていることを確認する

⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

シートをおろすときは、床面ロック部カバーが開いていること、および床面にものがないことを確認してから行ってください。

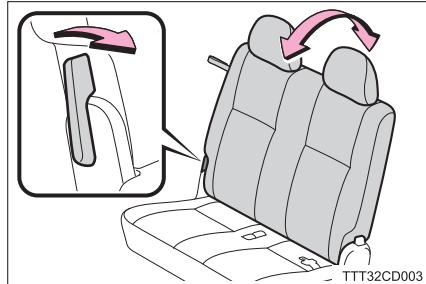
床面ロック部カバーが閉まっていたり、ものがある状態でシートをおろすと、シートやものが破損するおそれがあります。

2人掛けスペースアップシート (車いす仕様車“ASタイプ”)

リクライニング調整のしかた

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かす

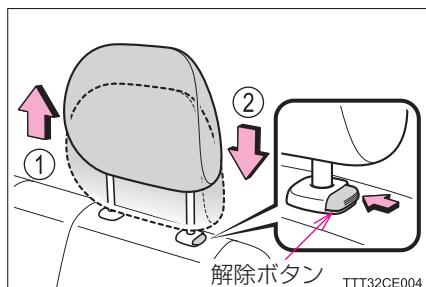
調節後、背もたれを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。



ヘッドレスト調整のしかた

- ① 上げる
- ② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



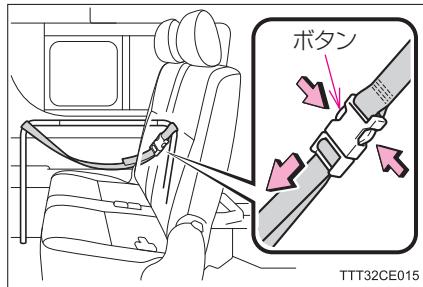
2人掛けスペースアップシートの格納

車いすを車内に乗り入れ・固定するときは、シートを格納します。

■ 格納のしかた

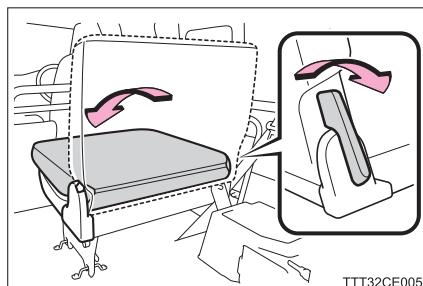
1 固定バンドをはずす

バックルのボタンを押してロックを解除します。

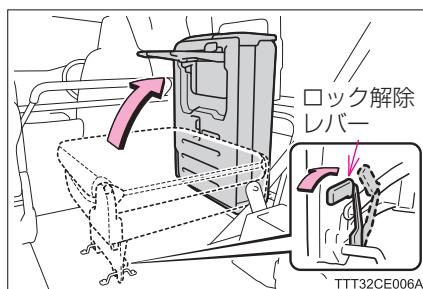


2 ヘッドレストを取りはずす (→ P.167)

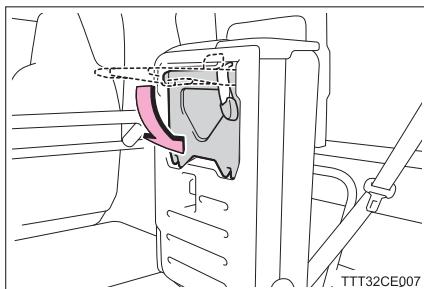
3 レバーを引いたまま、背もたれを前に倒す



4 ロック解除レバーを動かしてシート脚部のロックを解除し、シート全体を窓側に起こす シートを起こしたあとは、手でしっかりと支えてください。

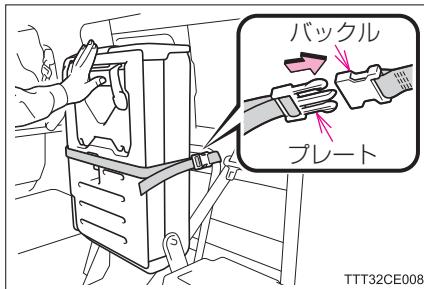


5 シート脚部を折りたたむ



TTT32CE007

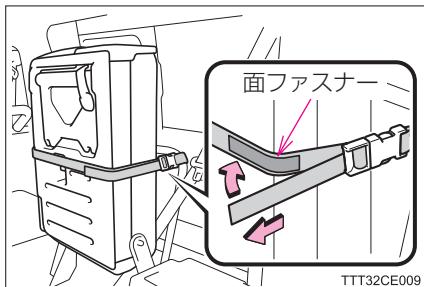
6 左手でシート全体を支えたまま、固定バンドのプレートをバックルに挿し込み、シートを固定する



TTT32CE008

7 固定バンドの端を引いてたるみをなくし、シートを確実に固定する

- シート固定後、バンドの端を面ファスナーで確実に固定します。
- シートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認します。

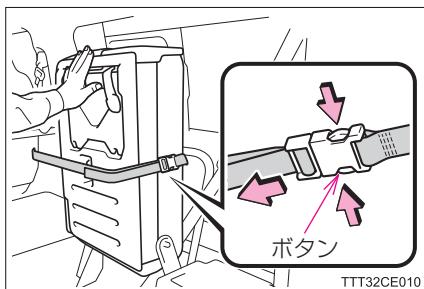


TTT32CE009

■ もとにもどすときは

格納したときと逆の手順で行います。

固定バンドをはずすときは、左手でシート全体を支えたまま、バックルのボタンを押してロックを解除します。

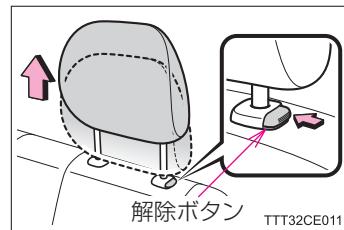


TTT32CE010

□ 知識

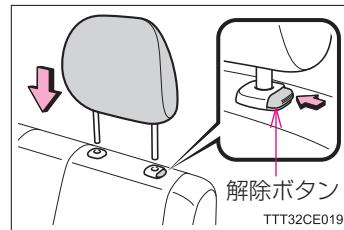
■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押したまま引き抜きます。



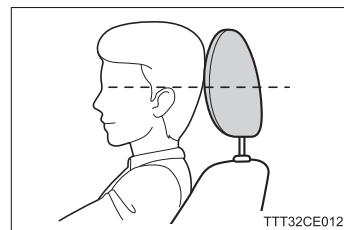
■ ヘッドレストを取り付けるときは

- ① 解除ボタンを押しながらヘッドレスト取り付け穴に合わせて挿し込みます。
- ② 解除ボタンから指を離し、ロック位置まで押し下げます。
- ③ さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



⚠ 警告

■リクライニング調整について

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。
背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■シート格納後、車内を移動するときは

足元に注意してください。

2人掛けスペースアップシートのストライカーでつまずいてけがをするおそれがあります。



⚠ 警告

■ シートの格納・もどす操作をするときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

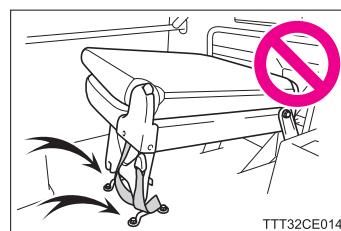
- 走行中にシートの格納・もどす操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P の位置にする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- シートを格納したときは、固定バンドで確実に固定する
確実に固定されていないと、シートが倒れて車いす乗車の方にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シート固定後はシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。
- 格納したシートの上に人を乗せて走行しない
- シート脚部を起こすとき、顔などにあてないように注意する
- シートをもとにもどすときは、シートに手を添えて、シート脚部で手足を挟まないようにゆっくりと操作する
- シートをもとにもどしたときは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げるなどして、シートが確実に固定されていることを確認する

⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

シートをおろすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。

ものがある状態でシートをおろすと、シートやものが破損するおそれがあります。



シートベルト（車いす仕様車）

シートごとにシートベルトが異なります。次の一覧表を確認してください。

ウェルジョインは標準車と同じシートベルトが装備されます。（→標準車取扱書の「シートベルト」）

●：装備

シート			シートベルト	3点式	シートベルトリルータ	
			2点式			
1人掛けリクライニングシート			—	●	●	
1人掛けシート	全席		—	●	●	
	右側席	全車	—	●	●	
2人掛けリクライニングシート	左側席	車いす仕様車 “Bタイプロング”	●	—	—	
		車いす仕様車 “Cタイプ” 前側席／うしろ側席				
		車いす仕様車 “Fタイプ”				
		車いす仕様車 “Bタイプ スーパー長”				
3人掛けタンブルシート		右側席	—	●	●	
		中央席	—	●	●※	
		左側席	—	●	—	
右はね上げ式シート（介助の方用）			●	—	—	
クッションはね上げ式シート			—	●	—	
クッションはね上げ式シート（うしろ向き／介助の方用）			●	—	—	
1人掛けスペースアップシート			—	●	●	
2人掛けスペースアップ シート	右側席		—	●	●	
	左側席		●	—	—	

※：3人掛けタンブルシート中央席のシートベルトリルータは樹脂タイプになります。（他はすべてバンドタイプ）

走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

ここでは標準車と異なる使用方法のシートベルトのみ記載しています。ここに記載されていないシートのシートベルトについては、標準車取扱書の「シートベルト」を参照し、標準車と同様の方法で使用してください。

3点式シートベルトを正しく着用するには

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

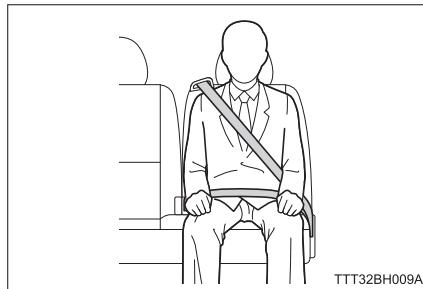
首にかかるときはシートベルトリルーツを使用してください。(→ P.175)

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● リクライニング調整可能なシートは背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

*: 右図は車いす仕様車“Bタイプ スーパーロング”的2人掛けリクライニングシート



3

車室内・車室外装備

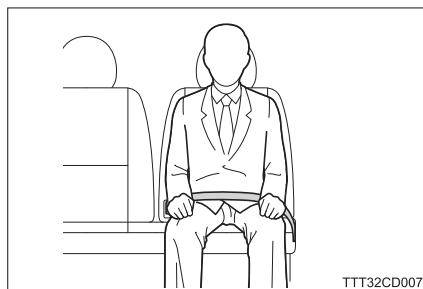
2点式シートベルトを正しく着用するには

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● リクライニング調整可能なシートは背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

*: 右図は車いす仕様車“Fタイプ”的2人掛けリクライニングシート



►車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”的クッションはね上げ式シート(うしろ向き／介助の方用)

スライドドアが全開または全閉状態で着用する

着け方、はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
 - ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す
- *: 右図は車いす仕様車 “F タイプ” の 2 人掛けリクライニングシート

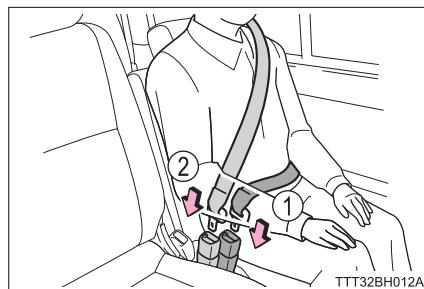


クッションはね上げ式シート用 3 点式シートベルト (車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／F タイプ”)

■ 着用のしかた

肩部ベルト・腰部ベルトが分離・独立した 3 点式のシートベルトです。正しく作動させるために、シートベルトのプレートを正しい位置（バックル）へ確実に挿し込んでください。

- ① 腰部ベルトのプレートを “カチッ” と音がするまでバックルに挿し込む
- ② 肩部ベルトのプレートを “カチッ” と音がするまでバックルに挿し込む



シートベルト種類	プレート樹脂部色	バックル色
① 腰部ベルト	黒	黒
② 肩部ベルト	グレージュ	グレージュ

3人掛けタンブルシート用 3点式シートベルト (車いす仕様車 “Dタイプ”)

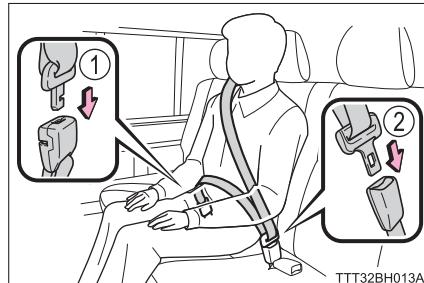
着座位置によりシートベルトの着用のしかたが異なります。(右側席は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「シートベルト」を参照してください)

■ 中央席シートベルトの着用のしかた

中央席は2つのバックルを用いた3点式のシートベルトです。正しく作動させるために、シートベルトのプレートを正しい位置(バックル)へ確実に挿し込んでください。

プレートをバックルに挿し込む

- ① プレートAを“カチッ”と音がするまでバックルAに挿し込む
- ② プレートBを“カチッ”と音がするまでバックルBに挿し込む



3

車室内・車室外装備

■ 中央席シートベルトの分離のしかた

中央席シートベルトは、3人掛けタンブルシートを格納する場合など必要なときに分離することができます。

- ① バックルBの解除ボタンを押し、プレートBをはずす
- ② キーまたはプレートBをバックルAの穴に挿し込む

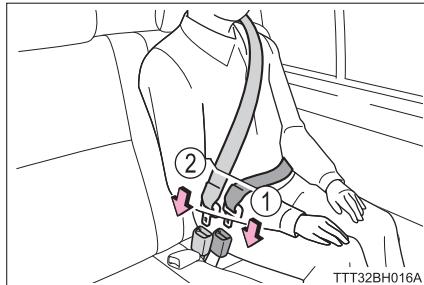
シートベルトを分離・分割するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



■左側席シートベルトの着用のしかた

肩部ベルト・腰部ベルトが分離・独立した3点式のシートベルトです。正しく作動させるために、シートベルトのプレートを正しい位置（バックル）へ確実に挿し込んでください。

- ① 腰部ベルトのプレートを“カチッ”と音がするまでバックルに挿し込む
- ② 肩部ベルトのプレートを“カチッ”と音がするまでバックルに挿し込む



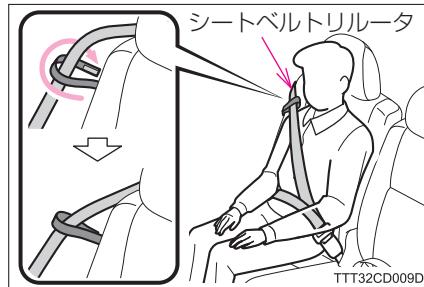
シートベルト種類		バックル色
①	腰部ベルト	黒
②	肩部ベルト	グレージュ

肩部ベルトが首にあたってしまうときは

シートベルトリルータを使用し、肩部ベルトの経路を調整します。

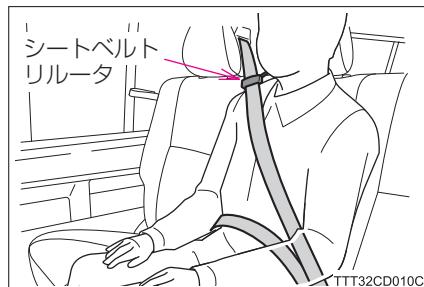
▶ バンドタイプ（設定されるシートは P.170 の表を参照）

肩部ベルトをシートベルトリルータで巻き、面ファスナーを貼り合わせる



▶ 樹脂タイプ（車いす仕様車 “D タイプ” 3 人掛けタンブルシート中央席）

肩部ベルトをシートベルトリルータの溝に通す



⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- リクライニング調整可能なシートの場合、背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 3点式シートベルトは必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方を着用する
- 3点式シートベルトの肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■クッションはね上げ式シート（うしろ向き／介助の方用）でのシートベルトの着用について（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”）

スライドドア開閉中にシートベルトを着用したり、はずさないでください。

シートとスライドドアのすき間が狭いため、手を挟みけがをするおそれがあります。



TTT32CE021

■分離式シートベルトについて（車いす仕様車“Dタイプ”）

分離式シートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A を結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



TTT32BH017A

⚠ 警告

■ シートベルトの取り扱いについて

- シートベルトをはずすときは、うしろに乗車されている方にあたらないよう注意しながら、ゆっくり巻きもどしてください。
- ベルトやプレート・バックルなどは、車いす乗車の方にあてたり、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

■ チャイルドシートの装着禁止

リヤ席にチャイルドシートを装着しないでください。

* : ウエルジョインのリヤ席はチャイルドシートの装着ができますので、標準車取扱書の「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。

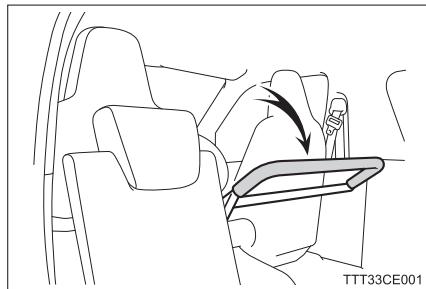


スライドドア乗降口ハンドレール&フロントハンドレール (車いす仕様車 “AS タイプ／B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” / ウェルジョイン)

走行中や車内外への乗降、着座をサポートします。

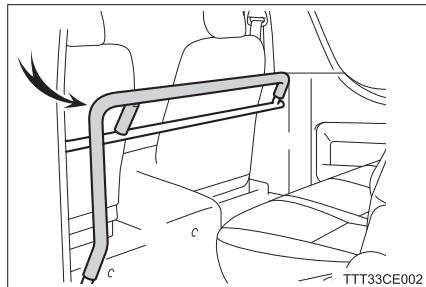
▶ 車いす仕様車 “AS タイプ”

フロントハンドレール



▶ 車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” / ウェルジョイン

スライドドア乗降口ハンドレールとフロントハンドレールの一
体型です。

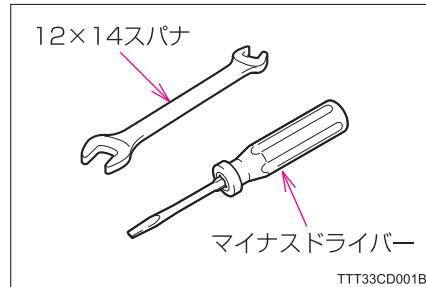


脱着のしかた

エンジンカバーを全開にするときは、ハンドレールを取りはずします。

■ 使用工具について

次の工具を使用します。



■ ハンドレールを取りはずす前に

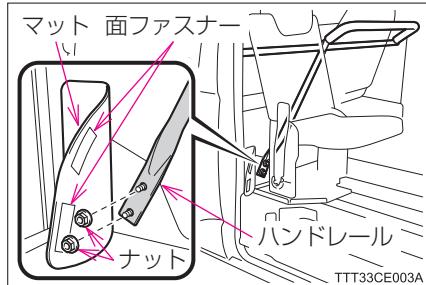
車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” にお乗りの方は、エンジンカバーを半開状態にし、バッテリーの一端子をはずす (→ P.220)

■ 助手席側下部取付部のはずし方

車両タイプおよび可倒式手すり装着有無によりはずし方が異なります。お乗りのお車に該当する項目を参照してください。

▶ 車いす仕様車 “AS タイプ”

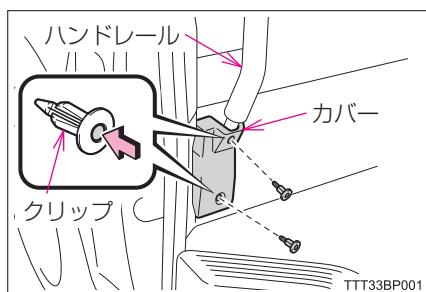
- ① 面ファスナーをはがし、マットをめくる
- ② ナット2本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール下部の固定をはずす



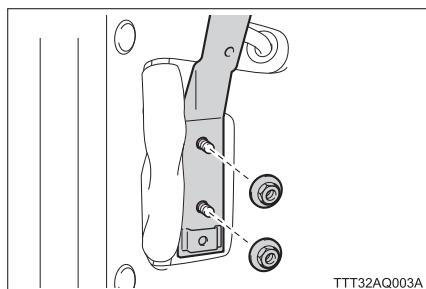
▶ 車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” の可倒式手すり非装着車／ウェルジョイン

- 1 クリップ2本およびカバーを取りはずす

- ① クリップの中心をプラスドライバーなど先の細いもので押す
- ② クリップを引き抜く
- ③ カバーを取りはずす

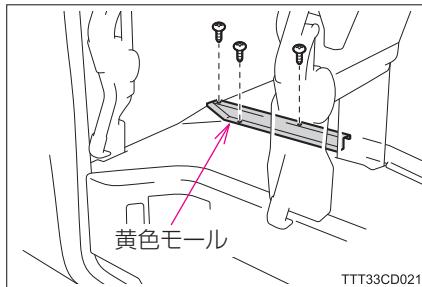


- 2 ナット2本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール下部の固定をはずす



► 車いす仕様車 “B タイプロング／C タイプ／F タイプ” の可倒式手すり装着車

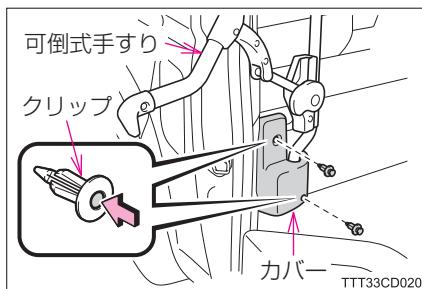
- 1 車内の黄色モールを取りはずす
- ① プラスドライバーを使用してビス 3 本を取りはずす
 - ② 黄色モールを上方に引き抜く



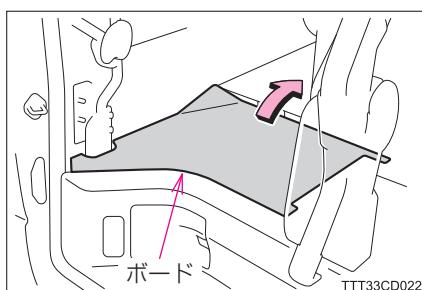
- 2 前側の可倒式手すりを展開する (→ P.190)

- 3 クリップ 2 本およびカバーを取りはずす

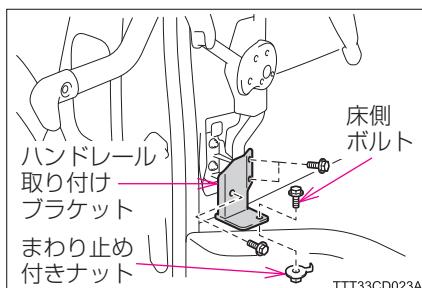
- ① クリップの中心をプラスドライバーなど先の細いもので押す
- ② クリップを引き抜く
- ③ カバーを取りはずす



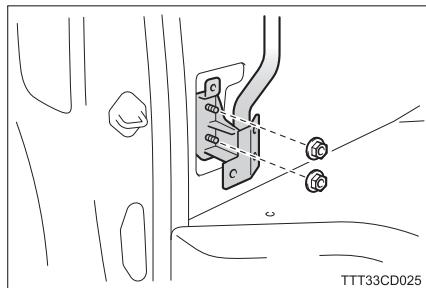
- 4 ボードを車両内側に引き抜く



- 5 ボルト 4 本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール取り付けブラケットを取りはずす
床側のボルトを取りはずすと、床下のまわり止め付きナットがはずれます。



- 6 ナット2本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール下部の固定をはずす



TTT33CD025

▶車いす仕様車“Bタイプスーパーロング”の可倒式手すり装着車

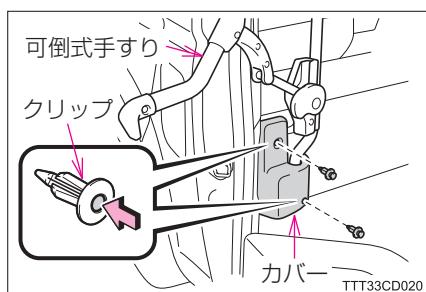
- 1 前側の可倒式手すりを展開する(→P.190)

- 2 クリップ2本およびカバーを取りはずす

① クリップの中心をプラスドライバーなど先の細いもので押す

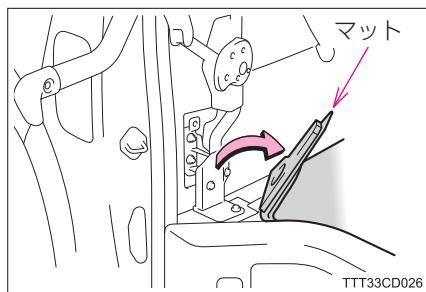
② クリップを引き抜く

③ カバーを取りはずす



TTT33CD020

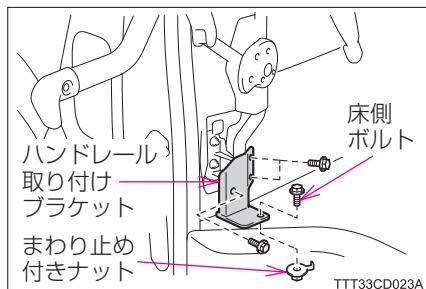
- 3 助手席側取付部付近の床面のマットをめくる



TTT33CD026

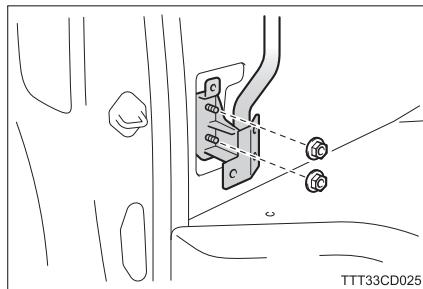
- 4 ボルト4本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール取り付けブラケットを取りはずす

床側のボルトを取りはずすと、床下のまわり止め付きナットがはずれます。



TTT33CD023A

- 5 ナット2本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール下部の固定をはずす



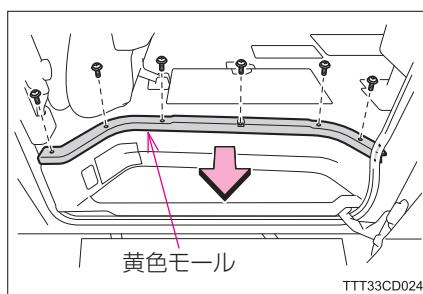
▶車いす仕様車 “Dタイプ” の可倒式手すり装着車

- 1 3人掛けタンブルシートを格納する (→ P.144)

- 2 スライドドア乗降口の黄色モールを取りはずす

① プラスドライバーを使用してビス6本を取りはずす

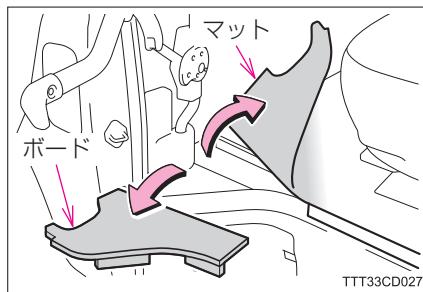
② 黄色モールを手前に引き抜く



- 3 3人掛けタンブルシートをもとにもどす (→ P.145)

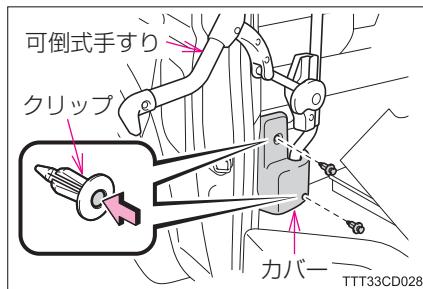
- 4 可倒式手すりを展開する (→ P.190)

- 5 マットをめくり、ボードを取りはずす



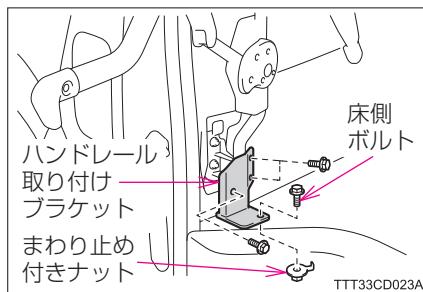
6 クリップ2本およびカバーを取りはずす

- ① クリップの中心をプラスドライバーなど先の細いもので押す
- ② クリップを引き抜く
- ③ カバーを取りはずす

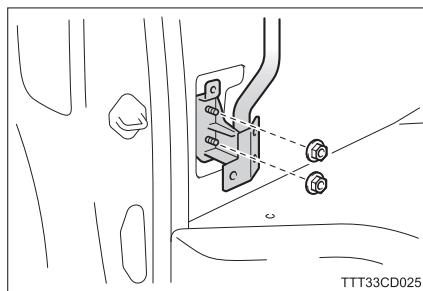


7 ボルト4本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール取り付けブラケットを取りはずす

床側のボルトを取りはずすと、床下のまわり止め付きナットがはずれます。



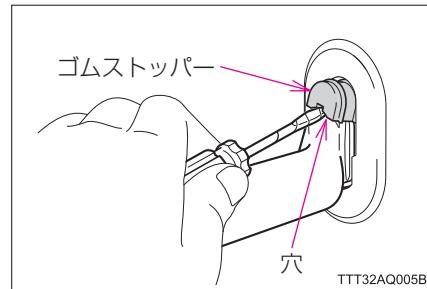
8 ナット2本をスパナでゆるめて取りはずし、ハンドレール下部の固定をはずす



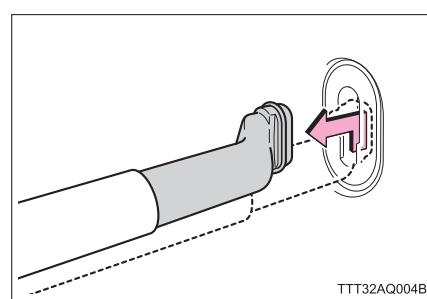
■ 運転席側・助手席側上部取付部のはずし方

- 1 運転席側の取付部（伸縮側）の穴にマイナスドライバーを挿し込み、ゴムストッパーを取りはずす

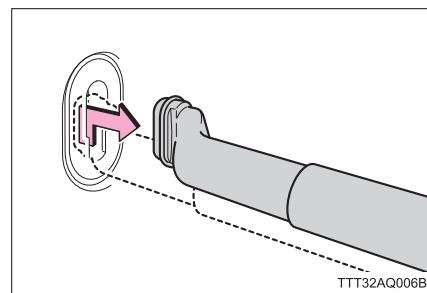
- 傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。
- 車いす仕様車“AS タイプ”にお乗りの方は、助手席側のゴムストッパーも取りはずします。



- 2 運転席側の取付部（伸縮側）を引き上げて内側に縮め、運転席側取付部をはずす



- 3 助手席側の取付部（固定側）を引き上げ、ハンドレールを取りはずす

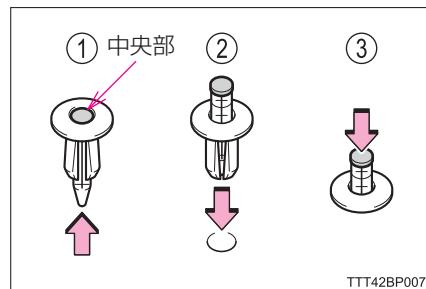


■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で行います。

クリップ2本は次のように固定します。

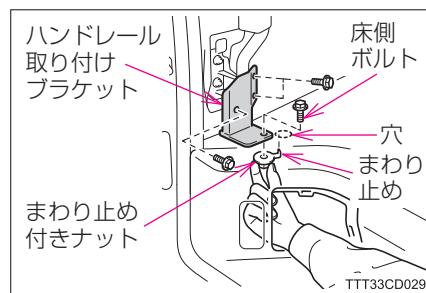
- ① クリップ中央部分を押し上げる
- ② カバーの穴に挿し込む
- ③ クリップ中央部分を押す



▶可倒式手すり装着車

ハンドレール取り付けブラケットを取り付けるときは、次の方
法で行います。

- ① スライドドアステップ部のカ
バーを取りはずし、床下に手
を入れる
- ② 床下のまわり止め付きナット
を持ち、まわり止め部分を穴
に合わせた状態で床側のボル
トをスパナで締め付ける



⚠ 警告

■車の故障や火災を防ぐために（車いす仕様車“Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”）

ハンドレールを脱着する前に、必ずバッテリーの一端子をはずしてください。
工具とヒューズが接触してショートし、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■破損を防ぐために

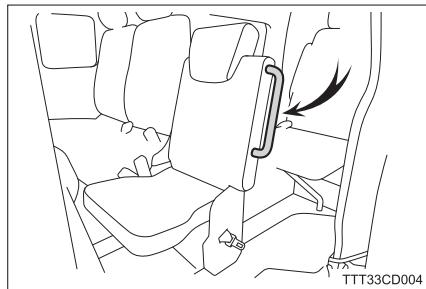
ハンドレールをはめ込むときは、必ずハンドレール全体を下側に押さえてください。

片側のみに荷重をかけると、ブラケットが破損するおそれがあります。

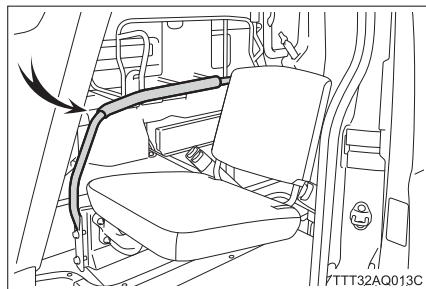
手すり

走行中や車内外への乗降、車内の移動、着座をサポートします。

**スライドドア乗降口手すり（シート付き）
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／F タイプ”)***

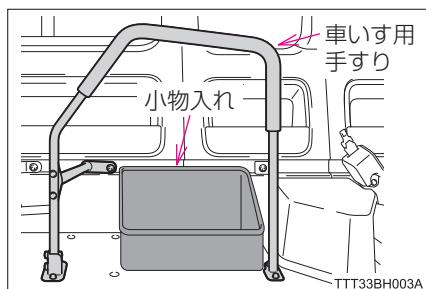


右はね上げ式シート用手すり（車いす仕様車 “B タイプロング”）



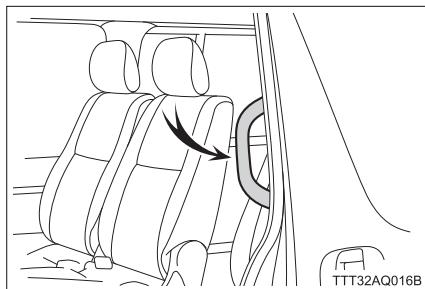
**車いす用手すり（右側）&小物入れ
(車いす仕様車 “B タイプスーパーロング”)**

前側の車いす乗車の方専用の手すりです。



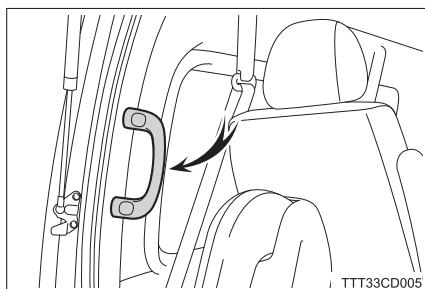
*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**スライドドア乗降口グリップ
(車いす仕様車“Bタイプスーパー・ロング／Dタイプ”／ウェルジョイン)**



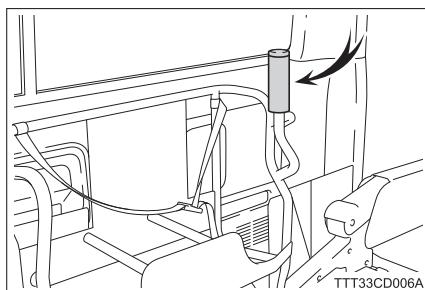
バックドア乗降グリップ（左側のみ）（車いす仕様車）

スイングアームリフト操作時や
バックドア側からの乗り込み時に
使用します。



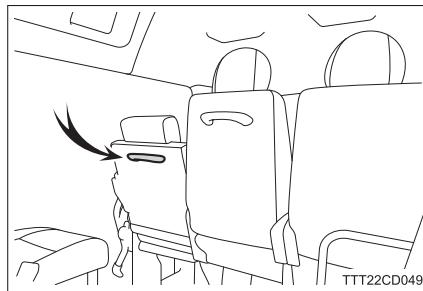
**車いす用グリップ（車いす仕様車 “Aタイプ／ASタイプ／Bタイプ
／Cタイプ／Dタイプ”）**

うしろ側（スイングアームリフト
上）の車いす乗車の方専用の手す
りです。

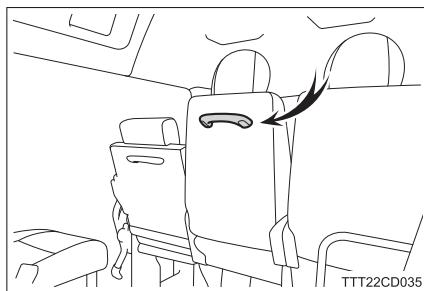


**シートバックグリップ
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／F タイプ”)**

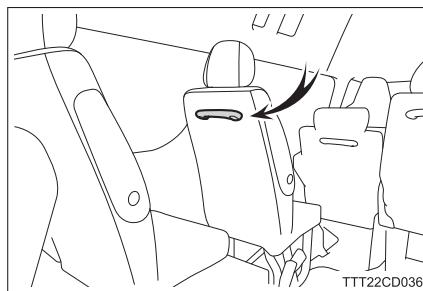
- クッションはね上げ式シート
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／F タイプ”)



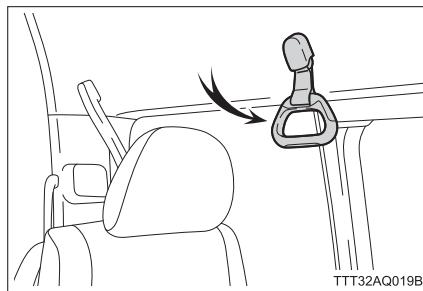
- 2人掛けリクライニングシート
左席 (車いす仕様車 “F タイプ”)



- 1人掛けシート 3列目
(車いす仕様車 “F タイプ”)



ルーフサイドグリップ (左うしろ) 吊革タイプ (車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ／B タイプ／C タイプ／D タイプ”)

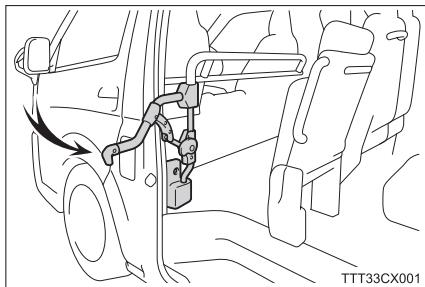


可倒式手すり（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”）★

スライドドアより外側に出せるため、車内外への乗降をサポートできます。

▶ 前側

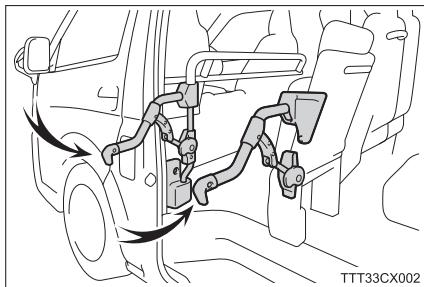
（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”）



TTT33CX001

▶ 前側+うしろ側

（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／F タイプ”）



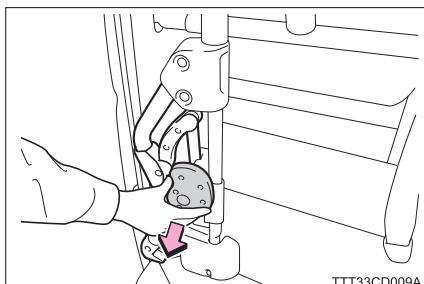
TTT33CX002

展開のしかた

前側・うしろ側とも同じ方法で操作します。

① ハンドルを引き、ロックを解除する

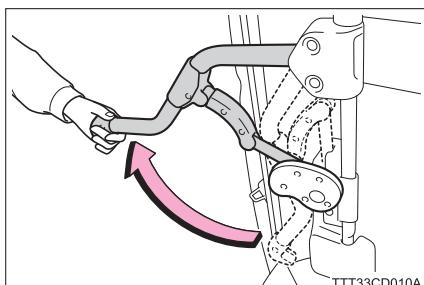
ハンドルを引くとロックがはずれ、手すりが少し起き上がります。



TTT33CD009A

② 手すりの先端部を持ち、手すりをいっぱいまで引き上げる

“カチッ”と音がしたことを確認後、手すりを持って前後左右にゆすり、確実にロックしたことを確認します。



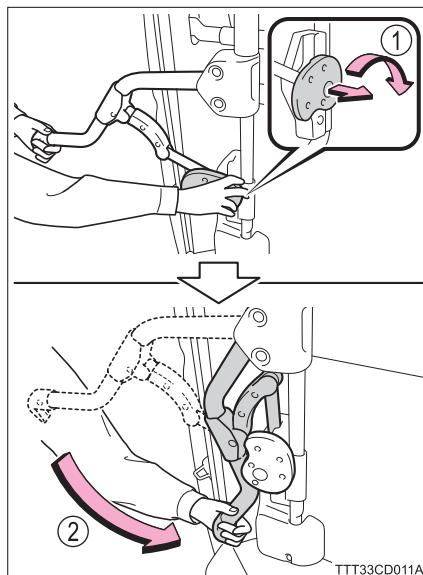
TTT33CD010A

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

格納のしかた

ハンドルを引いたまま右にまわし (①)、もう片方の手で手すりの先端部を持ち、手すりをいっぱいまで押し下げる (②)

- ・手すりが動き始めたらハンドルから手を離します。
- ・“カチッ”と音がしたことを確認後、手すりを持って前後左右にゆすり、確実にロックしたことを確認します。



使い方

▶ 前側のみ使用する場合



グリップ（黄色部分）を両手でしっかり持って乗降してください。

▶ 前側・うしろ側とも使用する場合



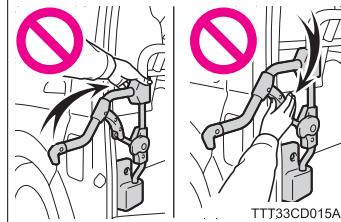
▶ うしろ側のみ使用する場合



⚠ 警告

■可倒式手すりを使用して乗降するときは

- 可倒式手すりを使用するときは、グリップ（黄色部分）以外を持たないでください。
可動部分を持つと手や指を挟み、けがをするおそれがあります。



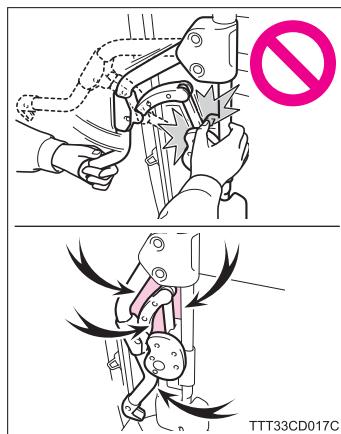
- 手すり先端部に衣服やかばんの紐などを引っかけないよう、注意してください。
転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■可倒式手すりを格納するときは

- 手すり先端部を持ち、格納部分に手や指などを入れないでください。
手や指などを挟み、けがをするおそれがあります。

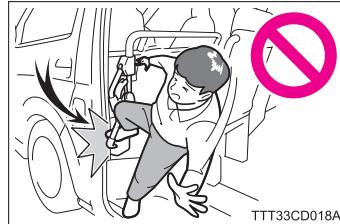
→ : 危険部位



⚠ 警告

■可倒式手すりを格納した状態で乗降するときは

手すり先端部に足を引っかけないよう、注意してください。
転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■故障を防ぐために

- 可倒式手すりは必ず展開して使用してください。
格納した状態で無理な力を加えると故障の原因になります。



- 可倒式手すりにもたれたりぶら下がらないでください。
無理な力を加えると故障の原因になります。
- 可倒式手すりの展開・格納をするときは、確実にロックを解除した状態で行ってください。
ロック解除が不完全な状態で無理に手すりを動かすと、故障の原因になります。
- スライドドアを閉めるときは、必ず可倒式手すりが格納されていることを確認してください。
手すりを展開したままスライドドアを閉めると、故障の原因になります。

電動格納式ステップ

スライドドアの開閉と連動して、ステップが出し入れされます。

電動格納式ステップの作動条件

電動格納式ステップは、スライドドアを開いたときに、次の作動条件をすべて満たした場合動作します。

- シフトレバー「Pの位置」（車いす仕様車）
- ステップメインスイッチ「ON 状態」

ステップメインスイッチおよびランプについて

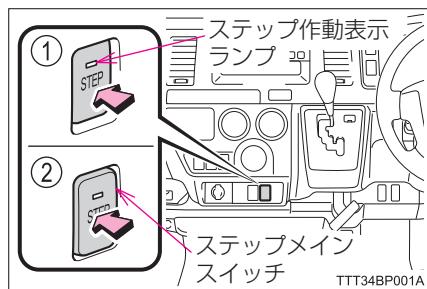
ステップメインスイッチを押すごとにONとOFFが切りかわります。

① ON

スライドドアの開閉と連動して、ステップが出し入れされます。

② OFF

スライドドアを開けてもステップは引き出されません。

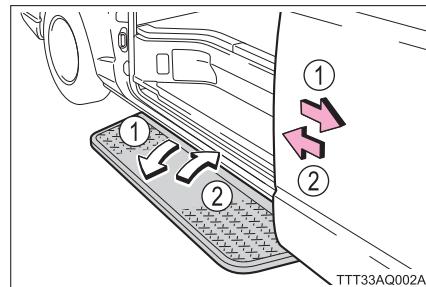


ステップ作動表示ランプは、ステップが引き出されると点灯し、格納されると消灯します。

ステップ作動表示ランプの状態	ステップの状態
 ランプ点灯	引き出し
 ランプ消灯	格納

使い方

- ① 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする
- ② スライドドアが閉まっていること、およびスライドドア付近に人やものがないことを確認する
- ③ ステップメインスイッチを押し、ON にする (→ P.194)
- ④ スライドドアの開閉と連動して、ステップが出し入れされます。
 - ① ステップ引き出し
スライドドアを開けると自動的にステップが引き出されます。
 - ② ステップ格納
スライドドアが完全に閉まると自動的に格納されます。



使用できないときは

歩道が高くステップが引き出せないときや、ステップ付近に障害物があるときなどは、ステップメインスイッチを OFF にしてください。

スライドドアを開けてもステップは引き出されません。

□ 知識

■ 作動について

- ステップが引き出された状態でステップメインスイッチを OFF にしても、スライドドアを閉めればステップは格納されます。
- ステップおよびステップ下側を、定期的に水をかけて洗い流してください (→ P.206)。泥や小石がつまると、ステップが作動しにくくなります。

■ 走行する前に

ステップメインスイッチのステップ作動表示ランプが消灯していることを確認してください。

ステップ作動表示ランプが点灯しているときはステップが完全に格納されていません。

 知識**■ シフトレバーについて**

電動格納式ステップを使用するときは、必ずシフトレバーを P の位置にしてください。

電動格納式ステップが完全に格納されていない（ステップ作動表示ランプが点灯している）状態でスライドドアが開いているとシフトインターロックが作動し、シフトレバーを P の位置から動かせません。

スライドドアを閉めてもシフトレバーが P の位置から動かないときは、シフトロックを解除し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→標準車取扱書の「シフトレバーがシフトできないときは」）

⚠ 警告

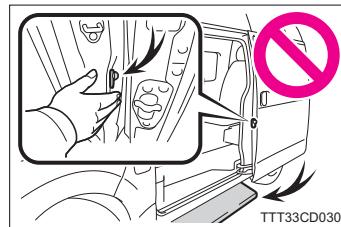
■ スライドドアを開閉するときは

- スライドドアを開閉するときは、ステップ付近の安全を確認してから行ってください。
ステップにあたり人が転倒したり、ステップを損傷するおそれがあります。
- シフトレバーが P の位置およびスライドドアが開いた状態でステップメインスイッチを ON にすると、即座にステップが引き出されますので、注意してください。
- シフトレバーが P の位置でスライドドアを開けないと、ステップが引き出されずステップを使用される方がけがするおそれがあります。

■ 乗降するときは

ドアカーテンスイッチを触らないように、注意してください。

ドアカーテンスイッチに触るとスライドドアが閉じたと感知してサイドステップが格納され、乗降途中の方が転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ 悪天候時、ステップを使用するときは

雨天時および寒冷時、ステップ表面に水や氷雪などが付着していると、すべて転倒するおそれがありますので、注意してください。

■ 走行する前に

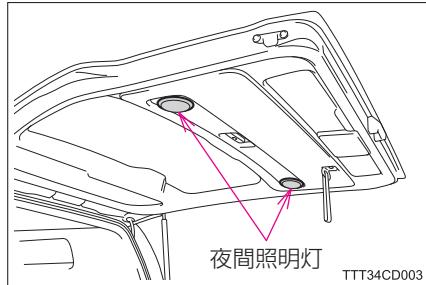
ステップメインスイッチのステップ作動表示ランプが消灯していることを確認してください。

ステップ作動表示ランプが点灯しているときはステップが完全に格納されていません。ステップが完全に格納されておらず、スライドドアが開いている時はシフトレバーが P の位置から動きません。

夜間照明灯（車いす仕様車）

夜間の乗降時、スイングアームリフトを明るく照らし、安全性を高めます。

夜間照明灯は、車幅灯およびバックドアの開閉と連動して点灯します。（→標準車取扱書の「ランプスイッチ」）



⚠ 警告

■ 点灯時および消灯直後は

夜間照明灯のレンズにふれないでください。

夜間照明灯のレンズは高温のため、やけどをするおそれがあります。

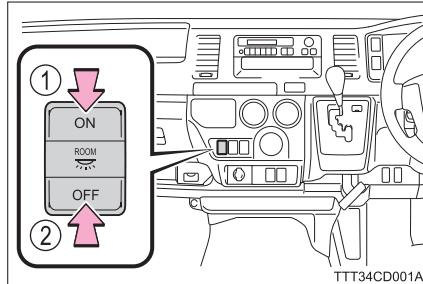
ルームランプ

室内を明るく照らします。

点灯のしかた

- ① リヤルームランプメインスイッチを押し、ONにする（スーパー ロングボディー車）

- ① ON
② OFF



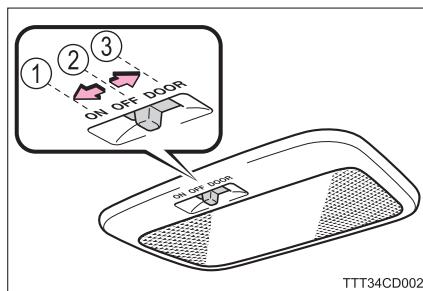
- ② ランプスイッチのツマミを操作する

- ① 点灯

スーパー ロングボディー車はリヤルームランプメインスイッチのON／OFFに連動して、点灯／消灯が切りかわります。

- ② 消灯

- ③ スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



 **知識****■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンスイッチが“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはOFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の場合、夜間照明灯が点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

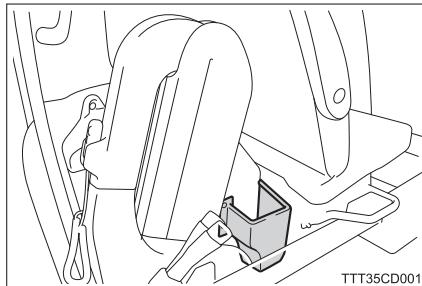
 **警告****■ 点灯時および消灯直後は**

ルームランプのレンズにふれないでください。
ルームランプのレンズは高温のため、やけどをするおそれがあります。

小物入れ（車いす仕様車）

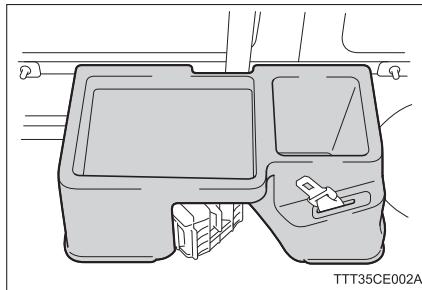
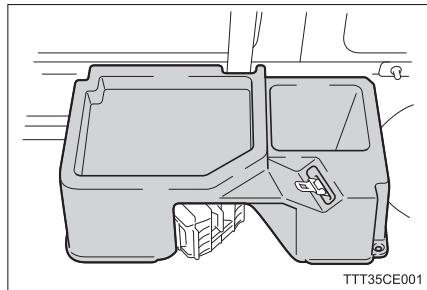
次の場所に小物入れが装備されます。

左側最後列（車いす仕様車）



車いす収納装置前部（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ／B タイプロング／F タイプ”）

- ▶ 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”
- ▶ 車いす仕様車 “B タイプロング／F タイプ”



□ 知識

■ 車いす収納装置前部小物入れについて（車いす仕様車 “F タイプ”）

車いす 2 脚収納時、使用できません。

⚠ 警告

■ 小物入れを使用するときは

入れたものが小物入れからはみ出していることを確認してください。
車内を移動するとき、ものにあたってけがをしたり、乗員の方がつまずいて転倒するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 故障・破損を防ぐために

小物入れに入れたものが、小物入れからはみ出していることを確認してください。また、小物入れが変形するような大きいものを入れないでください。
スイングアームリフト作動中、ものがスイングアームリフトに巻き込まれて破損したり、スイングアームリフトの故障につながるおそれがあります。

リヤヒーター

車内の後方部分を暖房することができます。

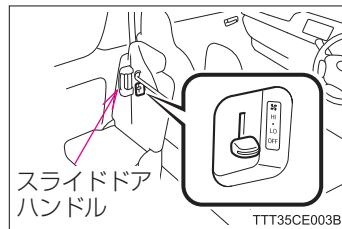
使用方法は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「リヤヒーター」を参照してください。

□ 知識

■ リヤヒーターを使用するときは（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”）

クッションはね上げ式シート（うしろ向き／介助の方用）が装備されるため、リヤヒーター・スイッチが操作しづらくなっています。

リヤヒータースイッチを操作するときは、スライドドアハンドルなどに触れないよう、注意してください。



お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

電動格納式ステップの清掃 ...	206
スイングアームリフトの清掃 (車いす仕様車) ...	209
光電センサーの清掃 (車いす 仕様車 "F タイプ") ...	212
車いす固定装置の清掃 (車いす仕様車) ...	215
ベルトの清掃 (車いす仕様車) ...	218

4-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口 ...	219
工具 ...	224
タイヤ ...	226

電動格納式ステップの清掃

泥や小石、砂などの異物がつまると、ステップが作動しにくくなったり、故障の原因になります。次の方法でステップを清掃してください。

ステップを清掃する前に

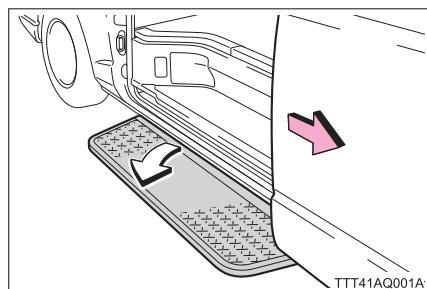
ステップが引き出された状態で、ステップを手動操作に切りかえ、スライドドアと連動して自動開閉しないようにします。

① 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする

② ステップメインスイッチをONにする(→P.194)

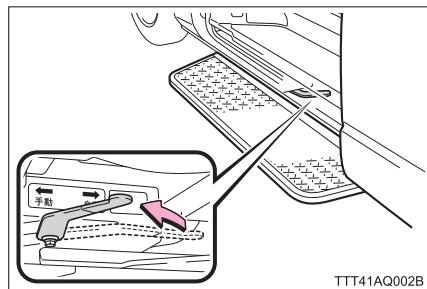
③ スライドドアを全開にし、ステップを引き出す

スライドドアが全開位置から動かないことを確認してください。



④ ステップ下側の奥のレバーを「自動」→「手動」に切りかえる

この状態ではスライドドアを閉めてもステップは作動しません。(ステップはロックされていません)



⑤ ステップメインスイッチをOFFにする(→P.194)

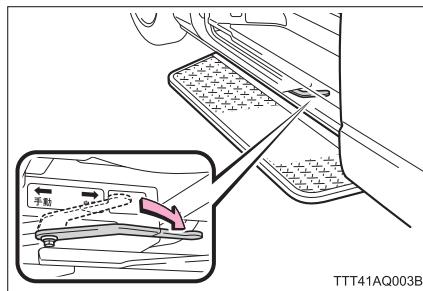
清掃のしかた

① スライドドアを閉める

② ステップおよびステップ下面に水をかけて洗い流す

清掃が完了したら

- 1 スライドドアを全開にする
- 2 レバーを「手動」→「自動」に切りかえる



- 3 ステップメインスイッチをONにする(→P.194)
- 4 スライドドアの開閉と連動してステップが作動することを確認する

知識

■ステップを清掃したあとは

必ずレバーを「手動」→「自動」に切りかえてください。「手動」のままだとスライドドアを開閉してもステップは作動しません。

! 警告

■ステップを清掃する前に

- 必ずステップを手動操作(レバーを「自動」→「手動」)に切りかえ、ステップが作動しないようにしてください。
清掃中にスライドドアを閉めるとステップが格納され、手を挟まれかがをするおそれがあります。
- レバーを操作中、スライドドアを閉めないでください。
ステップが作動し、手を挟まれ、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

■ステップを清掃するときは

- スライドドアを開けたまま、ステップを清掃しないでください。
車内の電気部品に水がかかって故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- レバーが「手動」のときはステップがロックされていないため、清掃中にステップが不意に動くおそれがありますので、手を挟まれないよう注意してください。

■ステップを清掃したあとは

ステップを手動格納後、必ずレバーを「自動」に切りかえてください。
「手動」のままだとステップのロックが解除されているため、走行中にステップが引き出され、人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■高圧洗浄機を使用するときは

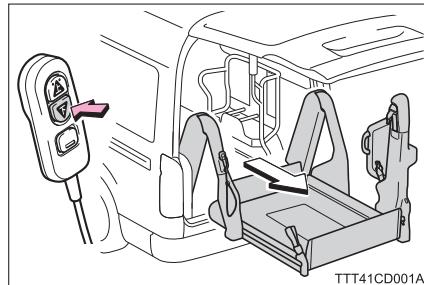
ノズル先端をステップユニットに近付けすぎないでください。
水圧が高いため、ユニット内部に水が入ったり、グリースが流れてステップの作動不良につながるおそれがあります。

スイングアームリフトの清掃（車いす仕様車）

泥や小石、砂などの異物がつまると、スイングアームリフトが作動しにくくなったり、故障の原因になります。次の方法でスイングアームリフトを清掃してください。

スイングアームリフトを清掃する前に

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 リフトメインスイッチをON状態にする（→P.58）
- 3 バックドアを全開にする
バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチがONになります。
- 4 スイングアームリフト作動範囲
周辺の安全を確認後、操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトが下降し始める直前まで車外にスライドさせる



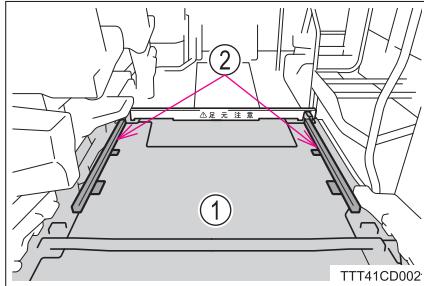
- 5 リフトメインスイッチをOFF状態にする（→P.58）
- 6 エンジンを停止する

清掃のしかた

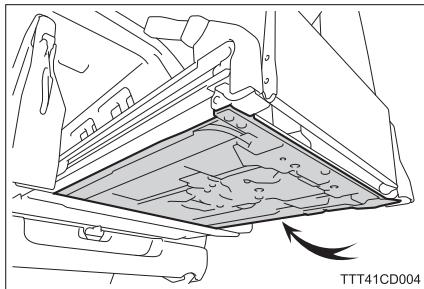
スイングアームリフト全体において、次の部分を重点に泥や小石、砂などの異物および雪や水があったら取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ります。

▶ 車内レールおよびスイングアームリフトが格納される部分

- ① スイングアームリフト格納部
- ② 車内レール

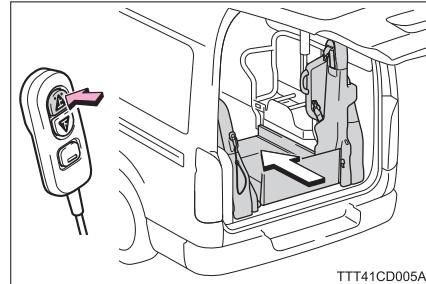


▶ スイングアームリフト裏面



清掃が完了したら

- 1 エンジンを始動する
- 2 リフトメインスイッチを ON 状態にする (→ P.58)
- 3 スイングアームリフト作動範囲
周辺の安全を確認後、操作スイッチの「上」を押し続け、スイングアームリフトを車内にスライドさせ、格納する
スイングアームリフトが自動的に停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで、スイッチを押し続けます。



- 4 バックドアを閉める
- 5 リフトメインスイッチを OFF 状態にする (→ P.58)
- 6 エンジンを停止する

⚠ 警告

■スイングアームリフトを清掃するときは

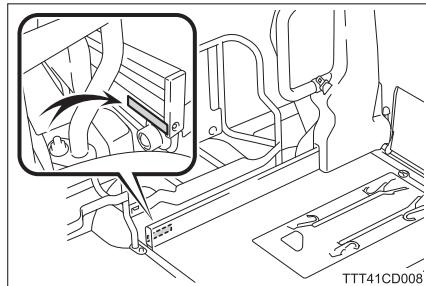
- 必ずリフトメインスイッチを OFF 状態にしてください。
リフトメインスイッチが ON 状態のままだと、操作スイッチが押された場合、スイングアームリフトが動き、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スイングアームリフトに直接水をかけないでください。
スイングアームリフト上の車いす固定装置やリフトユニットなどの電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

光電センサーの清掃（車いす仕様車 “Fタイプ”）

光電センサーおよび反射板が汚れたりぬれていると、スイングアームリフトが車内スライドしなくなったり、作動中に停止することがあります。次の方法で光電センサーおよび反射板を清掃してください。

反射板（プラットホームレール部右前端）の清掃のしかた

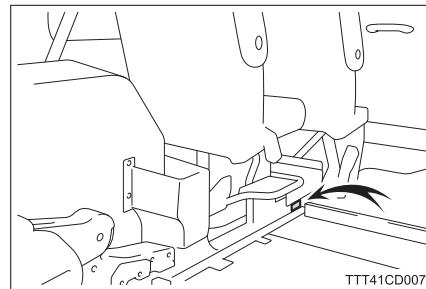
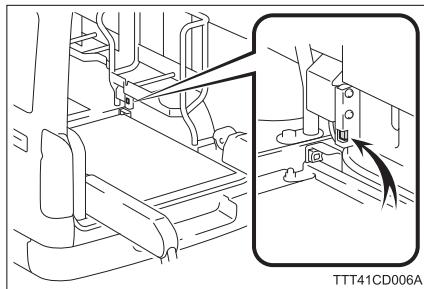
- ① 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- ② リフトメインスイッチをON状態にする（→P.58）
- ③ バックドアを全開にする
バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチがONになります。
- ④ 操作スイッチの「下」を押し、スイングアームリフトを車外に約50mmスライドさせる（→P.67）
スイングアームリフトをスライド途中で停止したため、“ピー”とブザーが鳴り続けます。
- ⑤ リフトメインスイッチをOFF状態にする（→P.58）
- ⑥ エンジンを停止する
- ⑦ 清掃するときは、乾いたやわらかい布で汚れや水をふき取る



光電センサー（投光・受光器）／反射板（1人掛けシート足元付近）の清掃のしかた

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 リフトメインスイッチをON状態にする（→P.58）
- 3 バックドアを全開にする
バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチがONになります。
- 4 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトを車外にスライド・下降させる（→P.67）
- 5 リフトメインスイッチをOFF状態にする（→P.58）
- 6 エンジンを停止する
- 7 清掃するときは、乾いたやわらかい布で汚れや水をふき取る

►光電センサー（投光・受光器） ►反射板（1人掛けシート足元付近）



清掃が完了したら

- 1 エンジンを始動する
- 2 リフトメインスイッチをON状態にする（→P.58）
- 3 スイングアームリフト作動範囲周辺の安全を確認後、操作スイッチの「上」を押し続け、スイングアームリフトを上昇・車内にスライドさせ、格納する（→P.68）
- 4 バックドアを閉める
- 5 リフトメインスイッチをOFF状態にする（→P.58）
- 6 エンジンを停止する

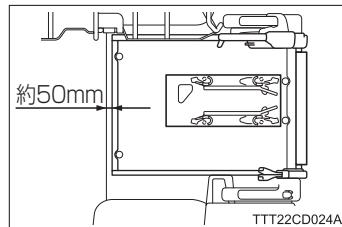
□ 知識

■ 反射板（プラットホームレール部右前端）について

プラットホームレール部右前端の反射板は、スイングアームリフト格納時、プラットホームによりセンサー光が遮断され、スイングアームリフトが作動しなくなることを防止するため設けています。

反射板（プラットホームレール部右前端）による光電センサーの検出範囲：

スイングアームリフトの格納完了位置～格納
約 50mm 手前



⚠ 警告

■ 光電センサーを清掃する前に

必ずリフトメインスイッチを OFF 状態にしてください。

リフトメインスイッチが ON 状態になっていると、誤って操作スイッチの「上」または「下」が押された場合、不意にスイングアームリフトが作動し、スイングアームリフトに挟まれるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 光電センサーを清掃するときは

光電センサーに水をかけないでください。

電気部品に水がかかって故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ 光電センサーを清掃するときは

光電センサーおよび反射板を強くふかないでください。

傷が付いたり、反射板がはがれるおそれがあります。

車いす固定装置の清掃（車いす仕様車）

車いす固定装置のワイヤーが汚れると、ワイヤーのもどりが悪くなることがあります。次の方法でワイヤーを清掃してください。

清掃する前に、必ずリフトメインスイッチが OFF 状態になっていることを確認します。（→ P.58）

清掃のしかた

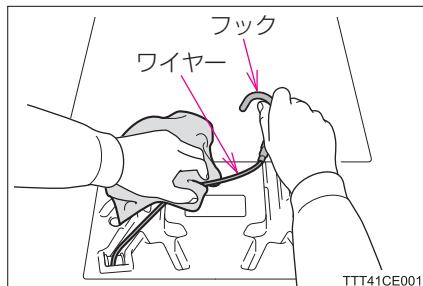
▶ 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”

スイングアームリフト上の車いす固定装置・車内の車いす固定装置で形状が異なりますが、同じ方法で清掃します。

■ ワイヤーの清掃

フックを持って清掃します。

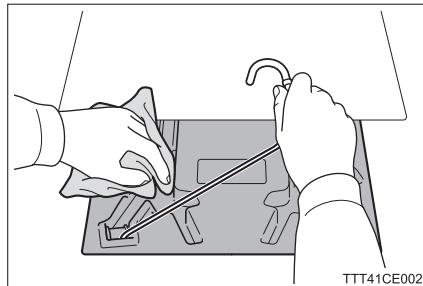
- ① ワイヤーに砂やほこりなどの汚れが付着していたら、ワイヤーの状態を確認しながら、ゆっくりとやわらかい布などで汚れをふき取る
- ② 潤滑剤を湿らせた布で再度ワイヤーをふく



■ 車いす固定装置全体の清掃

フックを持ち、フックを取り出し清掃します。

泥や小石、砂などの異物および雪や水があったら取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

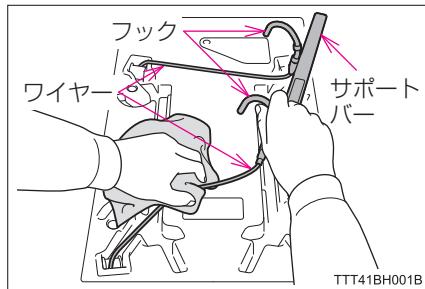


▶車いす仕様車 “Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”

■ワイヤーの清掃

サポートバーおよびフックと一緒に持て清掃します。

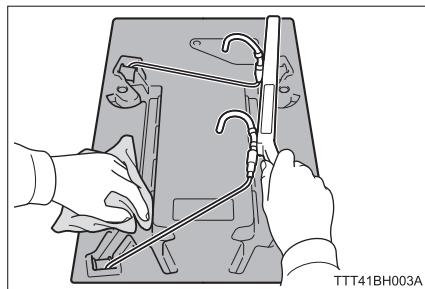
- ① ワイヤーに砂やほこりなどの汚れが付着していたら、ワイヤーの状態を確認しながら、ゆっくりとやわらかい布などで汚れをふき取る
- ② 潤滑剤を湿らせた布で再度ワイヤーをふく



■車いす固定装置全体の清掃

サポートバーを持ち、サポートバーおよびフックを取り出し清掃します。

泥や小石、砂などの異物および雪や水があったら取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る



⚠ 警告

■車いす固定装置を清掃するときは

車いす固定装置に水をかけないでください。

電気部品に水がかかって故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ワイヤーを清掃する前に

必ずリフトメインスイッチを OFF 状態にしてください。

リフトメインスイッチが ON 状態になっていると、誤って固定装置スイッチの「ロック」側が押された場合、不意にワイヤーが巻き締まり、ワイヤーだけがをするおそれがあります。

■ワイヤーを清掃するときは

●車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”にお乗りの方は、フックをしっかりと持ち、ワイヤーの状態を確認しながら行ってください。

ワイヤーが不意に巻き取られ、けがをするおそれがあります。

●車いす仕様車“Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”にお乗りの方は、サポートバーおよびフックをしっかりと持ち、ワイヤーの状態を確認しながら行ってください。

ワイヤーが不意に巻き取られたり、サポートバーからワイヤー（フック）がはずれ、けがをするおそれがあります。

●ワイヤーに直接ふれないでください。

ワイヤーに傷やほつれがあった場合、けがをするおそれがあります。

ワイヤーがほつれている場合は、ワイヤーの交換が必要です。車いす固定装置をそのまま使用せず、トヨタ販売店にご相談ください。

ベルトの清掃（車いす仕様車）

シートベルト、車いす収納装置のベルトおよび車いす固定ベルト（車いす仕様車“Aタイプ／ASタイプ”）などが汚れたときは、次のように清掃を行ってください。

清掃のしかた

中性洗剤かぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

乾くまで使用しないでください。

⚠ 警告

■ベルトを清掃するときは

- ベルトの清掃にベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用しないでください。
有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用すると、ベルトの性能が低下し、十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでベルトを使用しないでください。
- シートベルトを清掃するときは、プレートをしっかり持ち、ベルトの状態を確認しながら行ってください。
ベルトが不意に巻き取られ、けがをするおそれがあります。

エンジン点検口

エンジンカバーを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

エンジン点検口を開ける前に

① エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする

② 助手席シートを次のように調整する（→標準車取扱書の「フロントシート」）

▶ 分割式ヘッドレスト装着車

助手席シートの前後位置をいちばんうしろに移動し、背もたれを前方に倒す

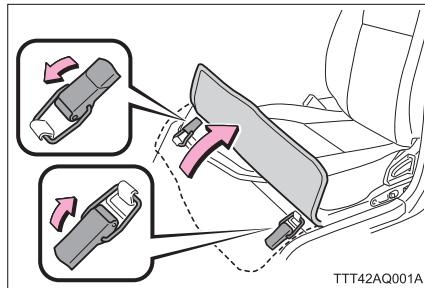
▶ 一体式ヘッドレスト装着車

助手席シートを前倒しにする

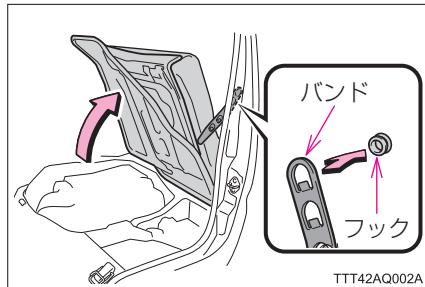
③ センターシート装着車はセンターシートを前倒しにする（→標準車取扱書の「フロントシート」）

半開のしかた

- 1 カバーをめくってロック（2か所）を解除する



- 2 エンジンカバーを持ち上げ、バンドをフックにかけて固定する
フックをバンドの穴にしっかりとはめ込んで、確実に固定されたことを確認してください。



半開状態からの閉め方

- 1 エンジンカバーを手で支え、バンドをフックからはずす
2 エンジンカバーを閉め、ロックする
シートを前後左右にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

全開のしかた

▶ 車いす仕様車 “A タイプ”

「半開のしかた」と同じ方法で行います。(\rightarrow P.220)

エンジンカバーは全開位置まで持ち上げ、固定します。

▶ 車いす仕様車 “AS タイプ／B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”／ウェルジョイン

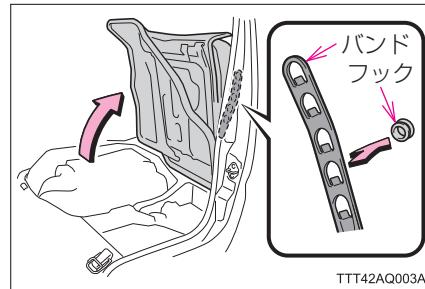
- 1 エンジンカバーを半開状態にする (\rightarrow P.220)

- 2 スライドドア乗降口ハンドレール＆フロントハンドレール^{*}を取りはずす (\rightarrow P.180)

- 3 エンジンカバーを手で支え、バンドをフックからはずす

- 4 エンジンカバーを持ち上げ、全開位置でバンドをフックにかけて固定する

フックをバンドの穴にしっかりとめ込んで、確実に固定されたことを確認してください。



全開状態からの閉め方

▶ 車いす仕様車 “A タイプ”

「半開状態からの閉め方」と同じ方法で行います。(\rightarrow P.220)

▶ 車いす仕様車 “AS タイプ／B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”／ウェルジョイン

- 1 エンジンカバーを手で支え、バンドをフックからはずす

- 2 エンジンカバーを閉める

この時点ではロックする必要はありません。

- 3 スライドドア乗降口ハンドレール＆フロントハンドレール^{*}を取り付ける (\rightarrow P.186)

- 4 エンジンカバーをロックする

シートを前後左右にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

⚠ 警告

■ 走行前の確認

エンジンカバーがしっかりとロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にシートが突然動いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンカバーを開けるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にエンジンカバーを開けない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P の位置にする
- お子さまに操作させない

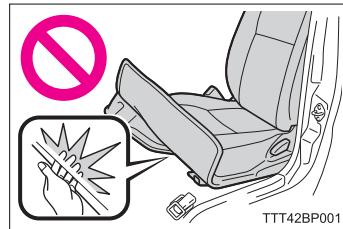
■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布などを置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ エンジンカバーを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。



 **注意****■ エンジンカバーを閉めるときは**

シートベルトを挟み込まないように注意してください。

工具

工具の取り扱いについては、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

工具を取り出す前に（車いす仕様車）

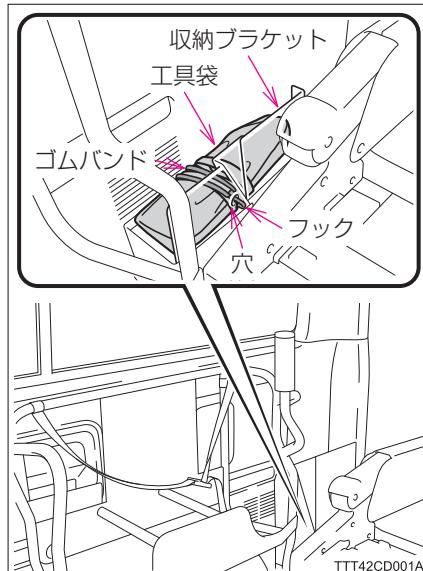
- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする
- 2 リフトメインスイッチを ON 状態にする（→ P.58）
- 3 バックドアを全開にする
バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチが ON になります。
- 4 操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトを車外にスライド・下降させる（→ P.67）
- 5 リフトメインスイッチを OFF 状態にする（→ P.58）
- 6 エンジンを停止する

工具の取り出し方

▶ 車いす仕様車

工具袋は車両右側後部の、スイングアームリフト横に装備されます。

- ・ 工具袋を取り出すときは、ゴムバンドのフックを収納ブラケットの穴からはずします。
- ・ 使用後はもとの位置にもどし、ゴムバンドで確実に固定してください。



▶ ウェルジョイン

標準車と同様、運転席側 2 列目シート下部に装備されます。(→標準車取扱書の「パンクしたときは」)

⚠ 警告

■ 工具の取り出し・格納をするときは

ゴムバンドの取り付け・取りはずし時、指などを挟まないように注意してください。

■ 工具を使用したあとは

工具を必ず工具袋に入れ、所定の場所に確実に保管してください。

車室内などに放置すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

タイヤ

仕様・タイプにより装着されるタイヤが異なります。次の一覧表を確認してください。

タイヤ・ホイール仕様一覧

車種			タイヤ サイズ	ホイール サイズ
仕様	ボデー／タイプ／駆動方式			
車いす 仕様車	ロング	A タイプ	2WD	195/80R15 103/101L LT
		AS タイプ		
		B タイプ		
		C タイプ		
		F タイプ		
		A タイプ	4WD	195/80R15 107/105L LT
		AS タイプ		
		B タイプ		
		C タイプ		
		F タイプ		
ウェル ジョイン	スーパー	B タイプ	195/80R15 103/101L LT	15 × 6J
		D タイプ		
	ロング	ロング		
スーパー長			195/80R15 107/105L LT	

タイヤが冷えているときの空気圧については、インストルメントパネル横（運転席側）に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。

万一の場合には

5

5-1. パンクしたときは

- スペアタイヤの取り出し
(車いす仕様車) 228
ジャッキアップするときは... 231

5-2. 緊急時の対処法

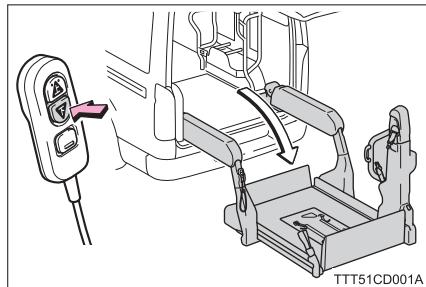
- ヒューズの交換 234
スイングアームリフトが
作動しないときは
(車いす仕様車) 242
車いす固定装置が作動しない
ときは (車いす仕様車) 252
電動格納式ステップが
引き出された状態で
作動しないときは 255
バックドアイージークローザーが
故障したときは
(車いす仕様車) 257

スペアタイヤの取り出し（車いす仕様車）

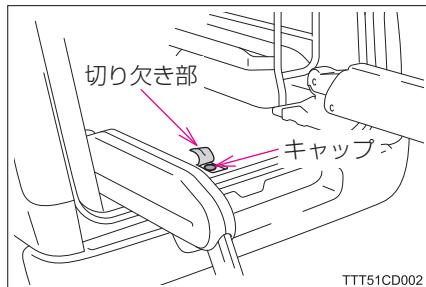
スペアタイヤを取り出すときは、次のことを行います。
格納場所、使用工具などは標準車と同様ですので、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

スペアタイヤを取り出すときは

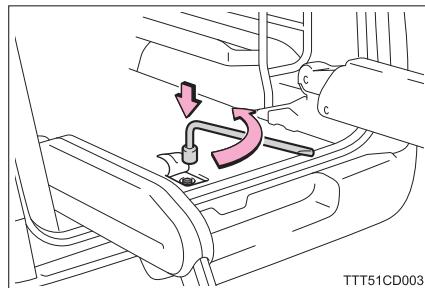
- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 リフトメインスイッチをON状態にする（→P.58）
- 3 バックドアを全開にする
バックドアを開けるとリフトメインスイッチのランプが点灯し、リフトメインスイッチがONになります。
- 4 スイングアームリフト作動範囲
周辺の安全を確認後、操作スイッチの「下」を押し続け、スイングアームリフトを車外スライド・下降させる
スイングアームリフトが自動的に停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで、スイッチを押し続けます。



- 5 リフトメインスイッチをOFF状態にする（→P.58）
- 6 エンジンを停止する
- 7 マットの切り欠き部分をめくり、キャップをはずす



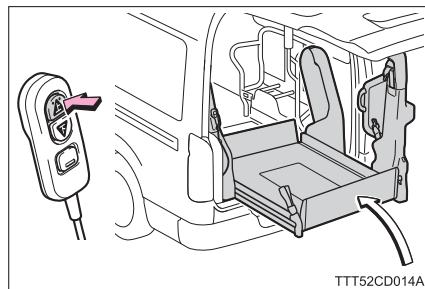
- 8 ホイールナットレンチを使用し、ボルトを左に約45回転まわす
ボルトはまわしすぎないでください。



- 9 エンジンを始動する

- 10 リフトメインスイッチをON状態にする (→ P.58)

- 11 スイングアームリフト作動範囲
周辺の安全を確認後、操作スイッチの「上」を押し続け、スイングアームリフトを上昇・車内にスライドさせ、格納する
スイングアームリフトが自動的に停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで、スイッチを押し続けます。



- 12 リフトメインスイッチをOFF状態にする (→ P.58)

- 13 エンジンを停止する

以降の手順は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「パンクしたときは」を参照してください。

スペアタイヤを格納具に格納したあとは、逆の手順でスペアタイヤを確実に格納してください。

⚠ 警告**■スペアタイヤを取り出す前に**

- 必ずスイングアームリフトが自動的に停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで、スイングアームリフトを車内にスライドさせてください。(→ P.69)
スイングアームリフトが接地した状態のままスペアタイヤを取り出すと、スイングアームリフトとスペアタイヤで手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 必ずリフトメインスイッチを OFF 状態にしてください。
誤って操作スイッチが押された場合、スイングアームリフトが作動し、スイングアームリフトに巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**■スペアタイヤを取り出すときは**

- ボルトをまわしすぎないでください。
まわしすぎるとスペアタイヤ格納具のフックがはずれ、格納具が突然落ちるおそれがあります。

ジャッキアップするときは

ジャッキアップする前に、電動格納式ステップが引き出された状態で、スライドドアと連動して作動しないようにします。

- 手動操作に切りかえることにより、ステップは作動しなくなります。
- ジャッキの使用方法は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

ジャッキの搭載位置

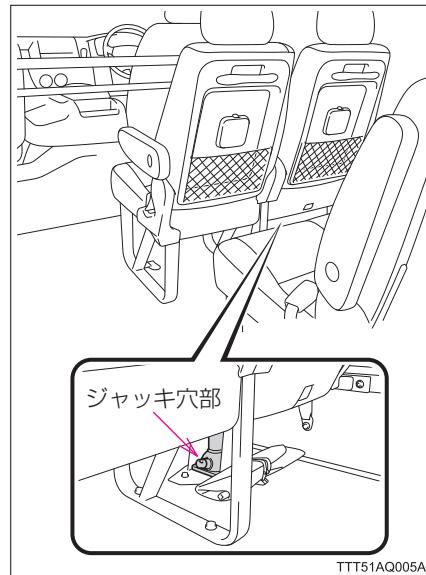
▶ 車いす仕様車

標準車と同様です。（→標準車取扱書の「パンクしたときは」）

▶ ウエルジョイン

運転席側 2 列目シート下部に装備されます。

使用後はジャッキ穴部が車両内側になるように格納してください。

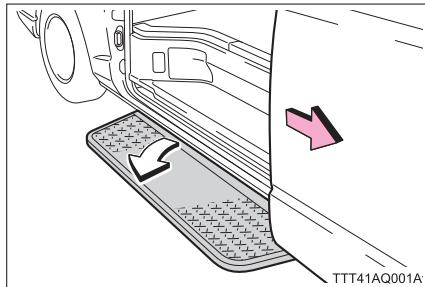


ステップの手動操作への切りかえ方

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする
- 2 ステップメインスイッチを ON にする (→ P.194)

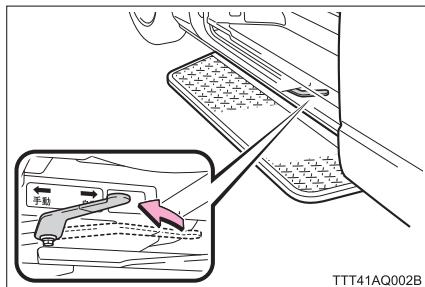
- 3 スライドドアを全開にし、ステップを引き出す

スライドドアが全開位置から動かないことを確認してください。



- 4 ステップ下側の奥のレバーを「自動」→「手動」に切りかえる

この状態ではスライドドアを閉めてもステップは作動しません。(ステップはロックされています)



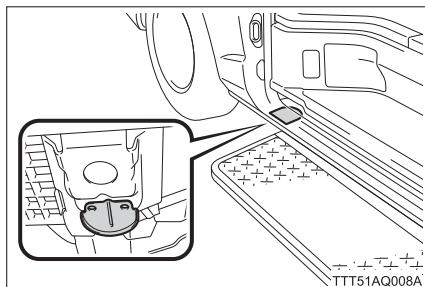
- 5 スライドドアを閉める

- 6 ステップメインスイッチを OFF にする (→ P.194)

ジャッキセット位置

▶ フロント側ジャッキセット位置

ステップ前側の奥にあります。

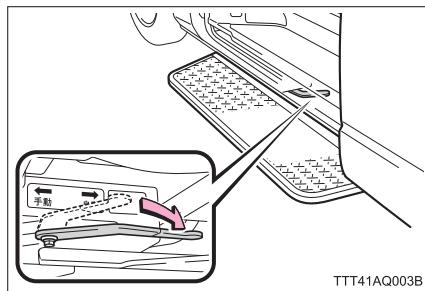


▶ リヤ側ジャッキセット位置

標準車と同様です。(→標準車取扱書の「パンクしたときは」)

作業が完了したら

- 1 スライドドアを全開にする
- 2 レバーを「手動」→「自動」に切りかえる



- 3 ステップメインスイッチをONにする(→P.194)
- 4 スライドドアの開閉と連動してステップが作動することを確認する

知識

■作業完了後は

必ずレバーを「手動」→「自動」に切りかえてください。「手動」のままだとスライドドアを開閉してもステップは作動しません。

! 警告

■ジャッキアップする前に

- 必ずステップを手動操作(レバーを「自動」→「手動」)に切りかえ、ステップが自動開閉しないようにしてください。
ジャッキアップ中にスライドドアを閉めるとステップが格納され、ジャッキにあたってジャッキがはずれた場合、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
レバーが「手動」のときはステップがロックされていません。ジャッキアップ時、ステップがジャッキにあたらないよう注意してください。

- レバーを操作中、スライドドアを閉めないでください。
ステップが作動し、手を挟まれ、けがをするおそれがあります。

■ステップを手動格納したあとは

ステップを手動格納後、必ずレバーを「自動」に切りかえてください。
「手動」のままだとステップのロックが解除されているため、走行中にステップが引き出され、人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ヒューズの交換

ヒューズを点検する前に、各装置ごとの作動条件を満たしていることを確認してください。

作動条件を確認したにもかかわらず、装置が正常に作動しないときは、ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

各装置ごとの作動条件

装置	作動条件	
リフトメインスイッチ	バックドア「開」	
スイングアームリフト	シフトレバー「P の位置」	
	リフトメインスイッチ「ON 状態」	
	バックドア「開」	
	後退防止用ストッパー「起立」	
	車いす固定装置「操作していない」	
後退防止用ストッパー	車いす仕様車 “F タイプ”	光電センサー「感知していない」*
	スイッチ操作でうしろ側に倒す場合	スイングアームリフト「完全に下降し“ピッピッ”とブザーが鳴る」
車いす固定装置	バックドア「開」	
	リフトメインスイッチ「ON 状態」	
	スイングアームリフト「停止中」	
電動格納式ステップ	ステップメインスイッチ「ON」	
ルームランプ	スーパーLONG	リヤルームランプメインスイッチ「ON」

* : スイングアームリフト車内スライド時のみ

ヒューズ位置

■ポンプ保護カバー内（車いす仕様車）

カバーのクリップは次の方法で取りはずします。

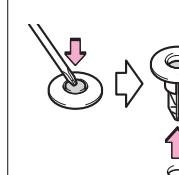
▶クリップA

クリップAの中心をプラスドライバーなど先の細いもので押し、クリップAを引き抜く

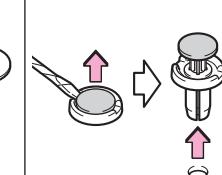
▶クリップB

マイナスドライバーを使ってクリップBの中心を引き上げ、クリップBを引き抜く

▶クリップA

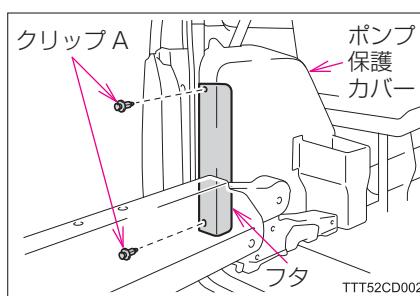


▶クリップB



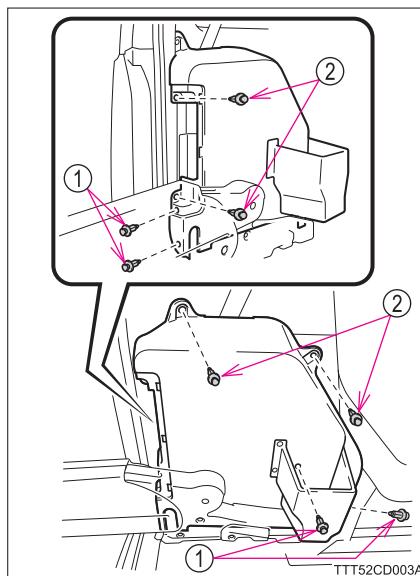
TTT52CD001

- ① 車両後方側のポンプ保護カバーのクリップA 2本を取りはずし、フタを取りはずす



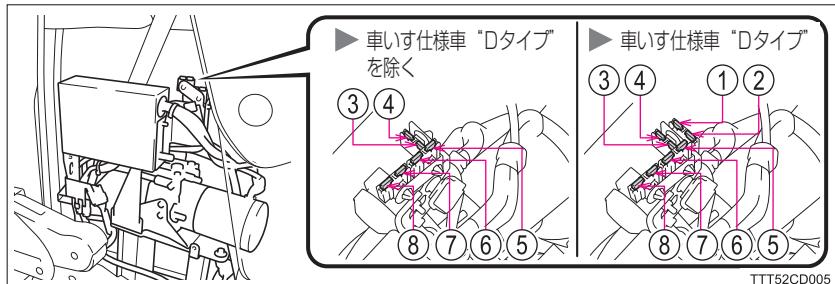
TTT52CD002

- ② 次のクリップを取りはずし、ポンプ保護カバーを取りはずす
 ① クリップA 4本
 ② クリップB 4本



TTT52CD003A

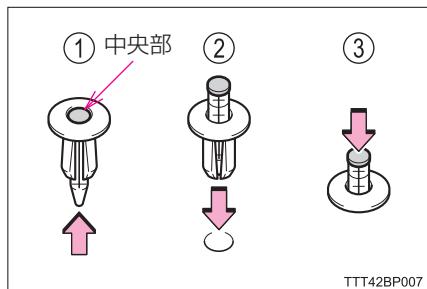
3 ヒューズを点検する



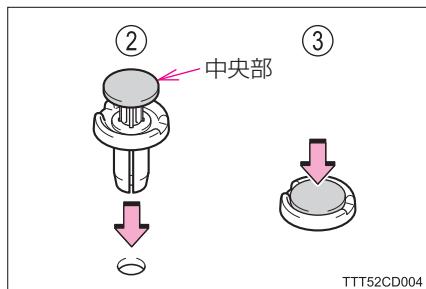
アンペア数		使用装置
①	25A	左前側用車いす固定装置
②	25A	右前側用車いす固定装置
③	25A	スイングアームリフト、車いす固定装置、電動格納式ステップ
④	5A	スイングアームリフト
⑤	10A	後退防止用ストッパー
⑥	10A	後退防止用ストッパー
⑦	15A	電動格納式ステップ
⑧	15A	電動格納式ステップ

4 ヒューズ点検後、ポンプ保護カバーおよびフタを取り付け、クリップで固定する

► クリップ A



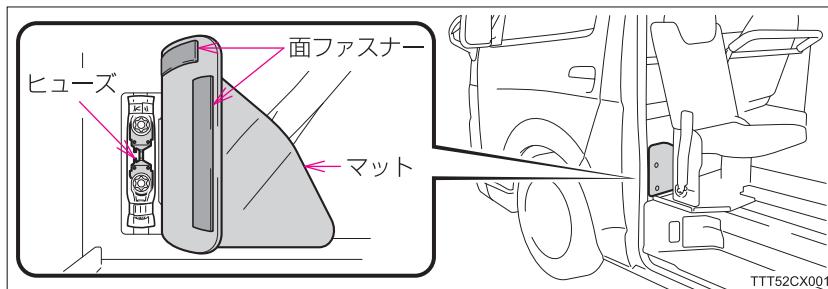
► クリップ B



- ① クリップ A のみ：中央部分を押し上げる
- ② クリップをカバーの穴に挿し込む
- ③ クリップ中央部分を押す

■ クッションはね上げ式シート（うしろ向き／介助の方用）下部付近
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”)

面ファスナーをはがし、マットをめくる



※：イラストは車いす仕様車 “AS タイプ”

アンペア数	使用装置
150A	メイン電源

■ハンドレール取付部カバー内（車いす仕様車“Bタイプ／Cタイプ／Dタイプ／Fタイプ”）

ヒューズを点検・交換するときは、必ずバッテリーの一端子をはずしてください。

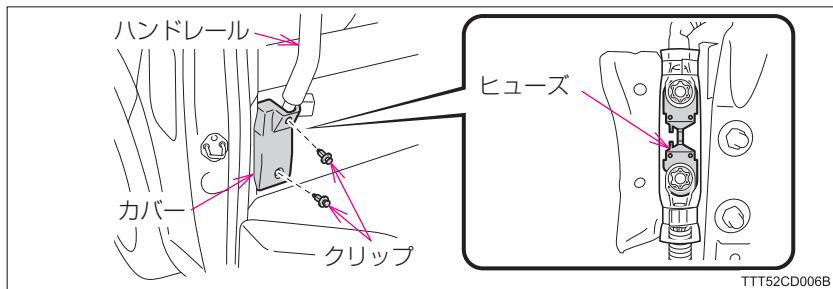
① クリップ2本およびカバーを取りはずす

►可倒式手すり非装着車

① クリップの中心をプラスドライバーなど先の細いもので押す

② クリップを引き抜く

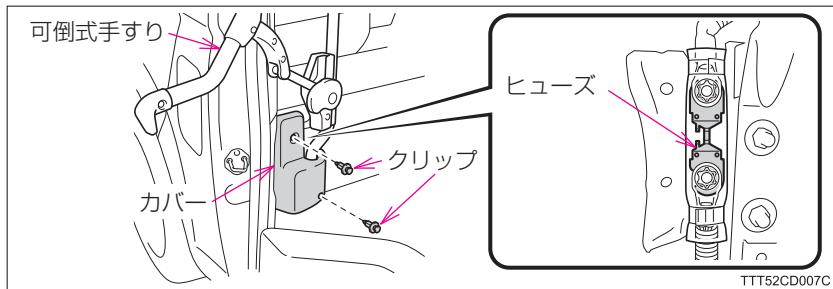
③ カバーを取りはずす



アンペア数	使用装置
150A	メイン電源

►可倒式手すり装着車

車両タイプによりカバーの取りはずし方が異なります。（→P.180～184）

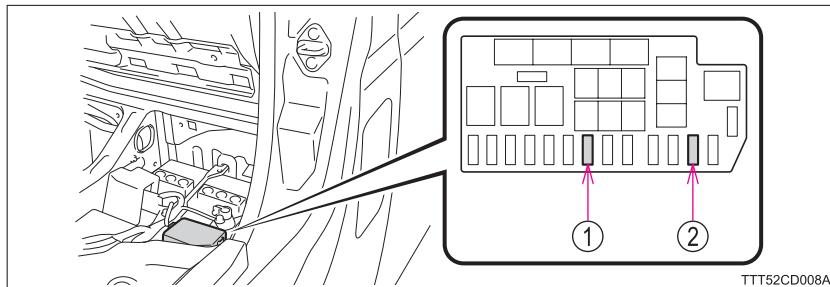


アンペア数	使用装置
150A	メイン電源

② ヒューズ点検後、カバーを取り付け、クリップで固定する（→P.186）

■ エンジンルーム内ヒューズボックス

エンジンルーム内ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」を参照してください。



▶ 車いす仕様車

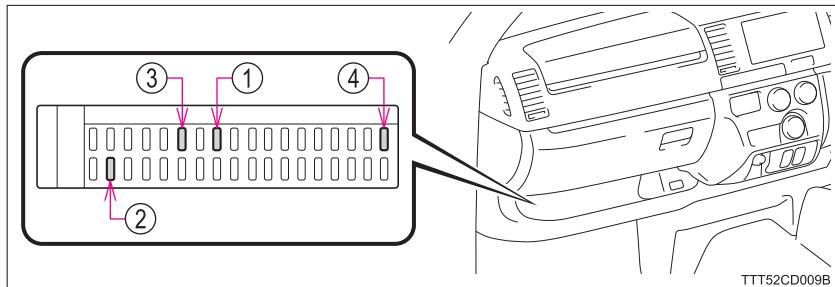
ヒューズ名称		アンペア数	使用装置
①	ECU-B	10A	スイングアームリフト、車いす固定装置、電動格納式ステップ
②	DOME NO.1	10A	ルームランプ、夜間照明灯

▶ ウエルジョイン

ヒューズ名称		アンペア数	使用装置
①	ECU-B	10A	電動格納式ステップ
②	DOME NO.1	10A	ルームランプ

■ グローブボックス下ヒューズボックス

グローブボックス下ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」を参照してください。



▶ 車いす仕様車

ヒューズ名称		アンペア数	使用装置
①	TAIL	10A	夜間照明灯
②	WELCAB No.2	7.5A	スイングアームリフト、車いす固定装置、電動格納式ステップ
④	ECU-IG NO.1	10A	スイングアームリフト

▶ ウエルジョイン

ヒューズ名称		アンペア数	使用装置
②	WELCAB No.2	7.5A	電動格納式ステップ
③	WELCAB	15A	電動格納式ステップ

 **知識****■スイングアームリフト作動中にヒューズが切れたときは**

スイングアームリフトが車外スライド・下降途中および上昇・車内スライド途中でのヒューズ切れによるヒューズ交換・バッテリー交換をしたときは、リセットをする必要があります。

ヒューズ・バッテリーの接続状態を確認し、リセット操作をしてください。
(→ P.243)

■ヒューズを交換したあとは

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置が動かないとき

 **警告****■車の故障や火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

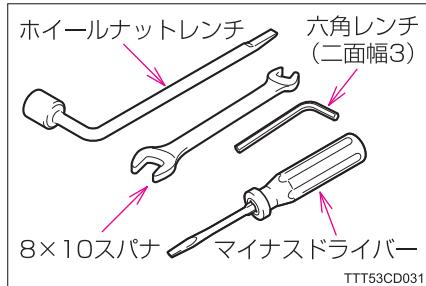
スイングアームリフトが作動しないときは（車いす仕様車）

操作スイッチを押してもスイングアームリフトが作動しないときは、作動条件（→P.234）を確認してください。作動条件を確認してもスイングアームリフトが作動しない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 万一、スイングアームリフトが降下状態または車外スライド・下降途中および上昇・車内スライド途中で動かなくなってしまったときは、バックドアを閉めることができません。この項目に記載されている要領で車内に格納してください。
- 万一、スイングアームリフトに乗っている方がいるときは、スイングアームリフトに乗っている方を降ろしてから作業を行ってください。

使用工具について

スイングアームリフトを手動で車内に格納するときは、次の工具を使用します。



リセットについて

スイングアームリフトが車外スライド・下降途中および上昇・車内スライド途中でのヒューズ切れによるヒューズ交換・バッテリー交換をしたときは、次の手順でリセットを行ってください。

- リセットをしないと、正規の作動をしません。
- バッテリーの容量が不足していると、全システム作動しません。

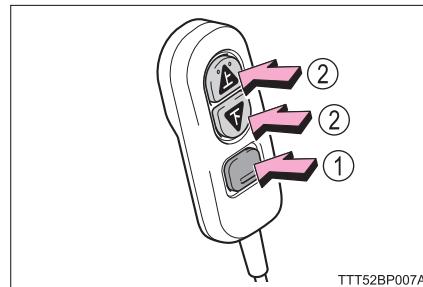
1 操作前に、次のことを確認する

- ・スイングアームリフトの作動範囲内に人やものがないこと
- ・シフトレバーがPの位置になっていること
- ・バックドアが全開になっていること
- ・リフトメインスイッチがON状態になっていること（→P.58）
- ・光電センサーの感知範囲内に人やものがないこと（車いす仕様車“Fタイプ”のみ→P.68）

2 操作スイッチの「上」「下」いずれかと倒しボタンを、同時に10秒間押し続ける

- ①倒しボタン
②「上」「下」スイッチ

10秒間押し続け（ブザーが鳴ります）、「ピッ」とブザーが鳴ったらスイッチから指を離します。



TTT52BP007A

3 ②のブザー（“ピッ”音）が鳴ってから10秒以内（次のブザーが鳴り始めるまで）に、倒しボタンおよび「上」「下」スイッチいずれかを次のように操作する

- ①倒しボタンを4回押します。
②「上」「下」スイッチいずれかを4回押します。

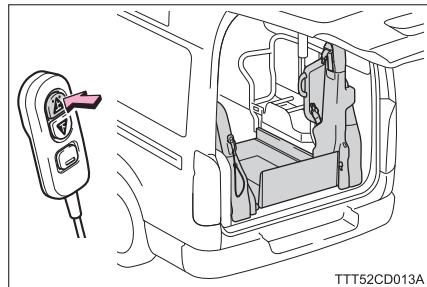
操作完了すると、“ピッピー”とブザーが鳴ります。

4 操作スイッチの「上」を押し続ける

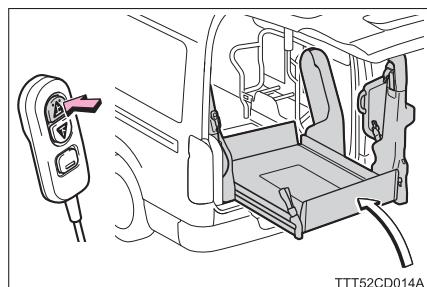
スイングアームリフトの状態により作動が異なります。該当する状態の項目を参照してください。

▶スイングアームリフトが車外スライド・車内スライド途中の場合

- ① “ピーッ”と作動音が鳴ったあと、“ピーピー”と断続音が鳴り始めます。
- ② “ピーピー”音が鳴りやみ、“ピッピッ”とブザーが鳴るまでスイッチを押し続けます。
- ③ スイングアームリフトが正常に作動することを確認します。

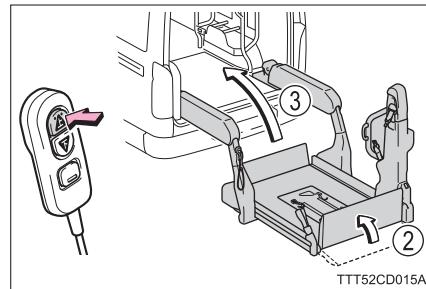
**▶スイングアームリフトが上昇・下降途中の場合**

- ① “ピーッ”と作動音が鳴ったあと、“ピーピー”と断続音が鳴り始め、スイングアームリフトが上昇します。
- ② スイングアームリフト上昇端で“ピーピー”音が鳴りやみ、スイングアームリフトが停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまでスイッチを押し続けます。
- ③ スイングアームリフトが正常に作動することを確認します。



►スイングアームリフト下降端（後退防止用ストッパー倒れ状態）の場合

- ① “ピーッ”と作動音が鳴ったあと、“ピーピー”と断続音が鳴り始めます。
- ② 後退防止用ストッパーが自動で起き上がり、起立完了後、スイングアームリフトが上昇します。
- ③ スイングアームリフト上昇端で“ピーピー”音が鳴りやみ、スイングアームリフトが停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまでスイッチを押し続けます。
- ④ スイングアームリフトが正常に作動することを確認します。



 **知識**

■リセット時のスイングアームリフトの作動について

スイングアームリフトは上昇側にしか作動しません。

操作スイッチを押してもスイングアームリフトが動かないとき

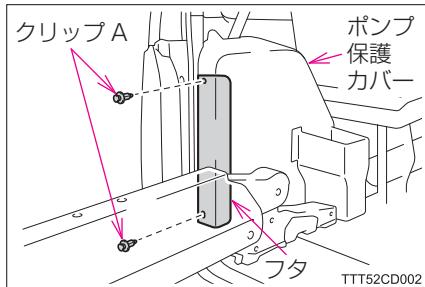
次の要領で格納してください。

- この操作をする前に、必ずリセット操作を実施してください。
(→ P.243)
- すべての操作はスイングアームリフトのプラットホームが完全に車外に引き出された状態で実施してください。

■緊急上昇スイッチ操作でスイングアームリフトを上昇させる場合

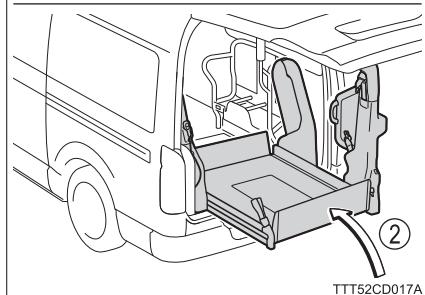
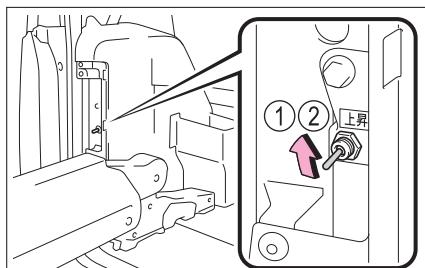
- 1 車両後方側のポンプ保護カバーのクリップA 2本を取りはずし、フタを取りはずす

- ① クリップAの中心をプラスドライバーなど先の細いもので押す (→ P.235)
- ② クリップAを引き抜く
- ③ フタを取りはずす



- 2 緊急上昇スイッチを1秒間に2回「上昇」側に操作し、スイングアームリフトを上昇させる

- ① 1回目は短く押す
- ② 2回目はスイングアームリフトが動くまで押し続ける
スイングアームリフトがいちばん上昇した位置（車内スライドする直前）まで動かします。（車内へのスライドはしません）



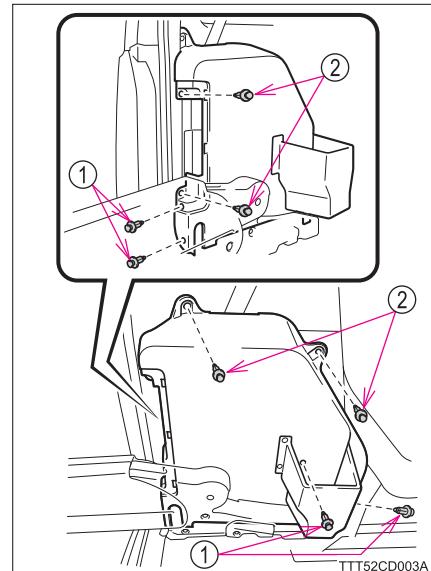
■緊急上昇スイッチ操作でスイングアームリフトが上昇しない場合

次の要領でスイングアームリフトを上昇させてください。

- この操作をする前に、必ず緊急上昇スイッチの操作を実施し、スイングアームリフトが上昇したときは、この操作は行わないでください。

- ① 次のクリップを取りはずし、ポンプ保護カバーを取りはずす
(クリップの取りはずし方
→ P.235)

- ① クリップ A 4 本
② クリップ B 4 本

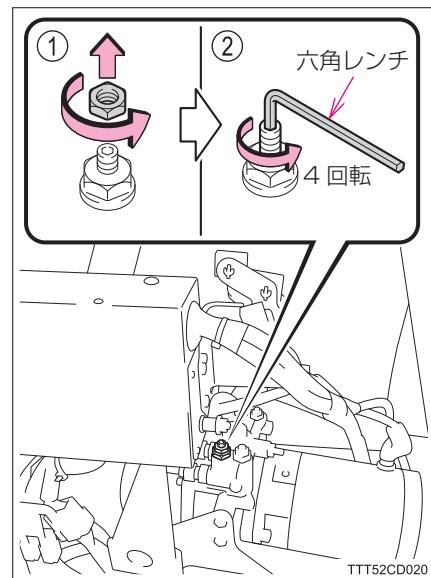


- ② 油圧ポンプのロックナットおよびストッパーを、次のように操作する

- ① 10mm スパナを使用し、ロックナットを左にまわし、取りはずす

- ② 六角レンチを使用し、ストッパーを左に 4 回転させる

4 回転させると油圧ポンプ内部のプラグにあたります。それ以上ストッパーをまわさないでください。



- ③ スイングアームリフトを2人以上で、斜め前方上側へゆっくりと持ち上げる

急激に力を加えるとスイングアームリフトが動きにくいため、できるだけゆっくり行います。



TTT52CD022A

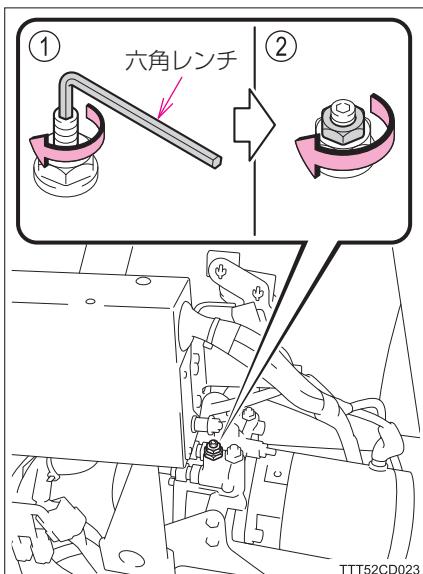
- ④ 油圧ポンプのロックナットおよびストッパーを、次のように操作する

- ① 六角レンチを使用し、ストッパーを右に回転させ、締め付ける

締め付けトルク : 2.0 ~ 2.9N · m
{20 ~ 29kgf · cm}

- ② 10mmスパナを使用し、油圧ポンプのロックナットを右にまわし、締め付ける

締め付けトルク : 2.0 ~ 2.9N · m
{20 ~ 29kgf · cm}



TTT52CD023

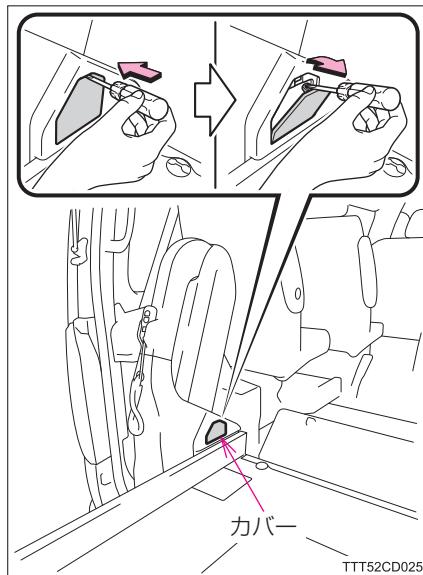
■手動でスイングアームリフトをスライド格納する場合

スイングアームリフトをP.246の「■緊急上昇スイッチ操作でスイングアームリフトを上昇させる場合（またはP.247の「■緊急上昇スイッチ操作でスイングアームリフトが上昇しない場合」）」の方法で上昇させてから行います。

- 作業をする前に、平坦な場所に車両が駐車されていることを確認してください。

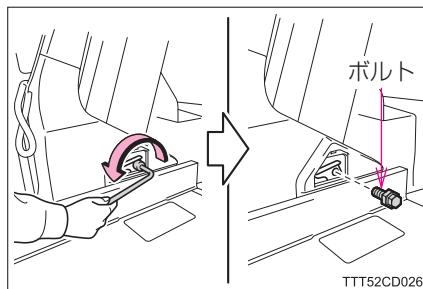
- ① スイングアームリフトをいっぱいまで上昇させた位置で、スイングアームリフト左側のカバーを取りはずす

マイナスドライバーをカバー上部に挿し込み、カバー取りはずします。



TTT52CD025

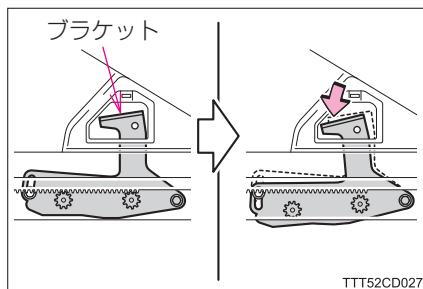
- ② ホイールナットレンチでボルトをゆるめ、ボルトを取りはずす



TTT52CD026

- ③ ブラケットを押し下げ、ギヤのかみ合いをはずす

②のボルトを取りはずすと同時にブラケットが下がる場合もあります。



TTT52CD027

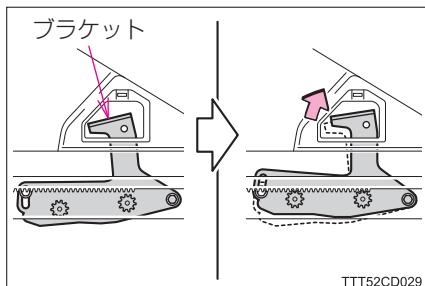
- 4 スイングアームリフトを車内にスライド格納する



- 5 後退防止用ストッパーを前側に倒す (→ P.76)

- 6 ブラケットを押し上げ、ギヤをかみ合わせる

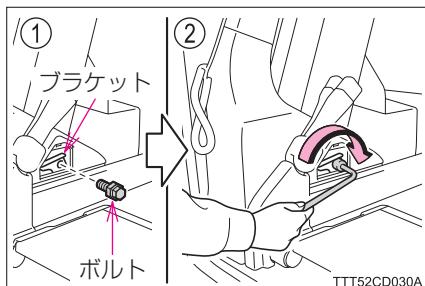
ブラケットが固いときは、スイングアームリフトを前後に少し動かしながらブラケットを押し上げます。



- 7 スイングアームリフトのスライドをロックさせる

- ① ブラケットにボルトを取り付ける

- ② ホイールナットレンチでボルトを締め付ける



- 8 後退防止用ストッパーを起こす (→ P.76)

- 9 バックドア周辺の安全を確認し、バックドアを閉める

□ 知識

■ 車両を移動させるときは

スイングアームリフトを車内に格納後、必ず後退防止用ストッパーを起こし、バックドアを閉めてください。シフトロックが働き、シフトレバーをPの位置から動かせません。

後退防止用ストッパーを起こし、バックドアを閉めてもシフトレバーがPの位置から動かないときは、シフトロックを解除してから車両を移動させてください。(→標準車取扱書の「シフトレバーがシフトできないときは」)

⚠ 警告

■緊急上昇スイッチを操作するときは

必ずスイングアームリフトのプラットホームが完全に車外に引き出された状態で操作してください。

スイングアームリフトに巻き込まれるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■スイングアームリフトを持ち上げるときは

必ず2人以上で行ってください。

1人で行うと腰をいためるおそれがあります。

■手動でスイングアームリフトをスライド格納するときは

必ず平坦な場所で作業してください。

傾斜地でスライド格納すると、スイングアームリフトが不意に動き出すおそれがあり危険です。

■トヨタ販売店まで車両を移動させるときは

スイングアームリフトに乗らないでください。

⚠ 注意

■損傷を防ぐために

- すべての操作をスイングアームリフトのプラットホームが完全に車外に引き出された状態で実施してください。

プラットホームが引き出された状態以外で操作するとスイングアームリフトが周辺の部品にあたり、損傷するおそれがあります。

- スイングアームリフトが格納されている状態で緊急上昇スイッチを下側に操作しないでください。

スイングアームリフトが車内の部品にあたり、損傷するおそれがあります。

- スイングアームリフトを手動でスライド格納したあとは、必ずスイングアームリフトのスライドをロックさせてください。

走行中に動き出し、スイングアームリフトおよびバックドアを損傷するおそれがあります。

車いす固定装置が作動しないときは（車いす仕様車）

固定装置スイッチを押しても車いすの固定・解除ができないときは、作動条件（→ P.234）を確認してください。作動条件を確認しても車いす固定装置が作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

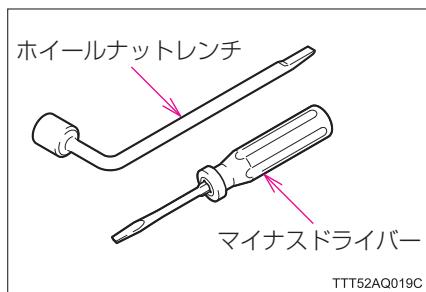
- 固定装置スイッチの「ロック」側を押しても車いすの固定ができないときは、車いすを車外に降ろし、トヨタ販売店で点検を受けてください。（車いすを固定することができませんので、必ず車いすを車外に降ろしてください）
- 万一、固定装置スイッチの「解除」側を押しても車いすの固定が解除できなくなってしまったときは、トヨタ販売店にご相談ください。

使用工具について

（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”）

車いすの固定を手動で解除するときは、次の工具を使用します。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



TTT52AQ019C

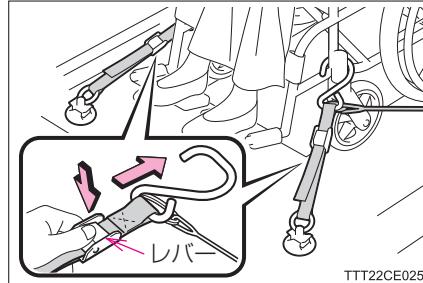
手動での車いすの固定解除のしかた

► 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”

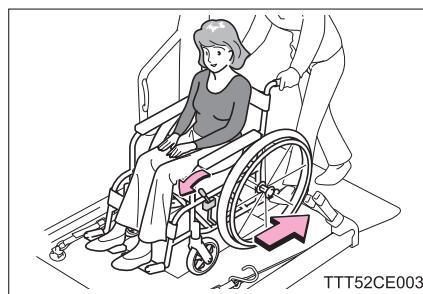
スイングアームリフト上・車内で車いす固定装置が異なりますが、同じ方法で行います。

① 車いす用シートベルトをはずす (→ P.122)

② 前側の車いす固定ベルトのバッブルのレバーを押しながらベルトをゆるめ、フックを車いすからはずす (→ P.89, 95, 100)



③ 車いすのブレーキを両輪とも解除し、車いす固定装置のフックを車いすに引っかけたまま、車いすを少し後退させる

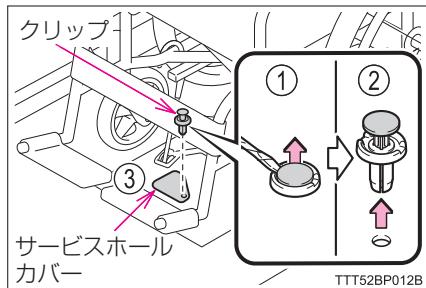


④ 車いす固定装置のフックを車いすからはずす

▶ 車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”

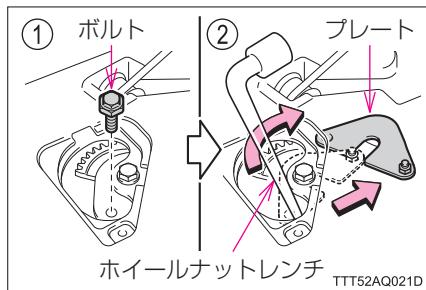
① 車いす固定装置前側のサービスホールカバーを取りはずす

- ① マイナスドライバーを使って、クリップの中心を引き上げる
- ② クリップを引き抜く
- ③ サービスホールカバーを取りはずす



② 車いすの固定を解除する

- ① ホイールナットレンチを使用して、ボルトを取りはずす
ボルトは 14mm スパナで取りはずすこともできます。
- ② ホイールナットレンチの柄でプレートをこじる
ロックがはずれ、車いすの固定が解除されます。



③ 車いす固定装置のフックを車いすからはずす

⚠ 警告

■ サービスホールカバーをはずしたときは（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”）

ユニット内に手を入れないでください。

固定を解除すると、歯車などが急にもどり、けがをするおそれがあります。

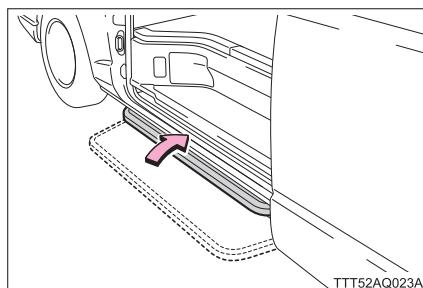
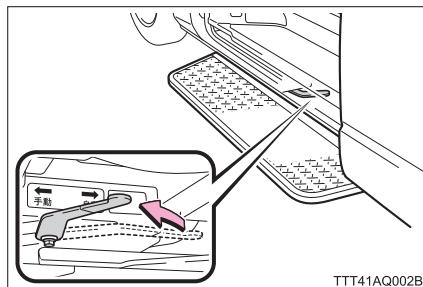
電動格納式ステップが引き出された状態で作動しないときは

電動格納式ステップがスライドドアの開閉と連動して出し入れされないときは、ステップメインスイッチ(→P.194)およびレバー(→P.206)を確認してください。確認しても電動格納式ステップが作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

万一、電動格納式ステップが引き出された状態で動かなくなってしまったときは、この項目に記載されている要領でステップを格納してください。

手動でのステップの格納のしかた

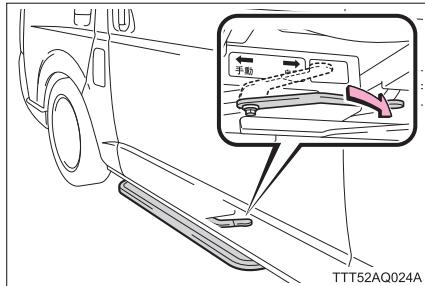
- 1 スライドドアを全開にする
- 2 ステップ下側の奥のレバーを「自動」→「手動」に切りかえる
この状態ではスライドドアを閉めてもステップは作動しません。(ステップはロックされています)
- 3 ステップを手動で格納する



4 スライドドアを閉める

5 レバーを「手動」→「自動」に切りかえる

この状態でステップはロックされ、動かなくなります。



知識

■ 修理完了後は

必ずレバーを「手動」→「自動」に切りかえてください。「手動」のままだとスライドドアを開閉してもステップは作動しません。

警告

■ ステップを手動格納する前に

レバーを操作中、スライドドアを閉めないでください。

ステップが正常に作動した場合、手を挟まれ、けがをするおそれがあります。

■ ステップを手動格納したあとは

ステップを手動格納後、必ずレバーを「自動」にもどしてください。

「手動」のままだとステップのロックが解除されているため、走行中にステップが引き出され、人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バックドアイージークローザーが故障したときは (車いす仕様車)

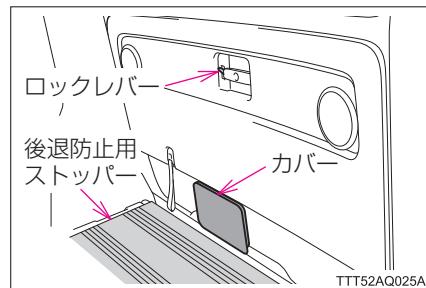
バックドアが開かない場合は、次の手順で車内からロックを解除してください。

ロックの解除のしかた

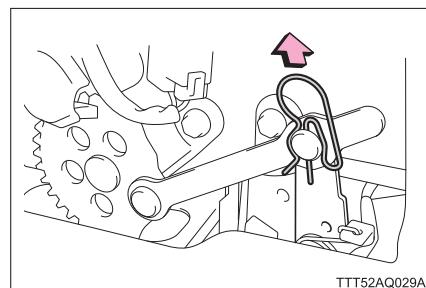
① 後退防止用ストッパーを前側に倒す (→ P.76)

② バックドア内側のカバーを取りはずす

- はずしにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用してはずします。
- バックドア内板を傷付けないように注意してください。
- ロックレバーが上（解錠）になっていることを確認します。

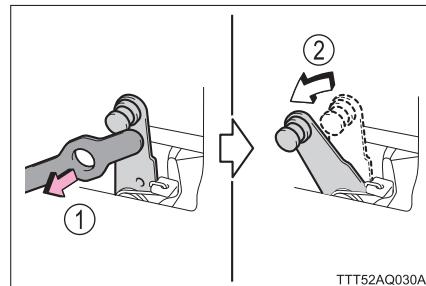


③ ピンを引き抜く



④ ロッドを手前に引いて上側にずらし、ロッドとレバーの連結をはずす ①

レバーが矢印方向 ② に動きます。レバーが自動で動かないときは、矢印の方向に手で動かしてください。



5 車内または車外のバックドアハンドルを操作してバックドアを開ける

この処置でバックドアを開けることができても、すみやかにトヨタ販売店でバックドアイージークローザーの点検を受けてください。

点検・整備項目

6

6-1. 点検・整備項目

定期点検整備 260

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。点検結果を記録する際には、巻末の記録簿をA4サイズにコピーして使用してください。

「●」は法令で定められた点検時期を示し、「○」および交換時期はトヨタが推奨する点検・交換時期を示します。(下表項目以外の点検項目については、メンテナンスノートを参照ください)

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考
	自家用貨物				
	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
車いす固定装置およびベルト	車いす固定ベルト（A・ASタイプ） ベルト、アンカー部の 破損・破れ・ほつれ	○		○	
	車いす用シートベルト ベルト、アンカー部の 破損・破れ・ほつれ	○		○	
	車いす固定装置 ワイヤーの傷・ほつれ アンロック状態での ワイヤー巻き取り ロック状態	○	○		清掃後、潤滑剤を給油 スムーズに行われること
ステップ	電動格納式ステップ 引き出し、格納時の 引っかかり・異音	○		○	
	取付部のゆるみ・ガタ ・変形			○	

* : 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考	
	日 常 点 檢	自家用貨物				
		6 か 月 ご と	12 か 月 ご と	24 か 月 ご と		
スイングアームリフト	後退防止用ストッパー、解除レバー ロックのガタ・変形	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	リフト 取付け部のゆるみ・ガタ ・損傷		<input type="radio"/>			
	プラットホームの傾き ・変形（無負荷状態）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	前後スライドおよび昇降作 動の引っかかり・振動 ・異音	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			

* : 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考
	日 常 点 検	自家用貨物 6 か 月 ご と	12 か 月 ご と		
スイングアームリフト	油圧装置				
	油圧作動油の汚れ・量		○	1	リフト振出時に MAX であること
	配管部（油圧ホース）の損傷	○	○		ふくれ・すり切れ・破れがないこと
	配管部（ユニオンナット）のゆるみ	○	○		作動油の漏れ・にじみがないこと
	配管部（クランプ）のはずれ	○	○		はずれ・たれ下がりがないこと
	パワーパッケージ取付部の締め付け		○		
	パワーパッケージの作動油漏れ	○	○		
	パワーパッケージ作動時の異音	○	○		
	シリンダー取付部のゆるみ・ガタ・変形			○	
	シリンダー作動時の引っかかり・異音		○		
	シリンダーの作動油漏れ	○	○		
バッテリー点検口	バッテリー（ディーゼル車は2個搭載）				
	液量	●			
	ターミナル部の接続状態		●	●	

* : 空欄については点検および交換の必要はありません。

定期交換部品（車いす仕様車）

装備の機能・性能を確保し、安全に使用していただくため、次の部品は定期的に交換をお願いいたします。

- 交換作業はトヨタ販売店にお申し付けください。

交換時期	装備	部品名
1年	油圧装置	油圧作動油 (指定作動油: ISO 規格 VG15 相当)

消耗部品

次の部品は使用頻度・経年変化などにより、消耗・劣化する部品です。点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

- 交換作業はトヨタ販売店にお申し付けください。

▶ 全車

消耗部品
ルームランプの電球 (12V/8W*)
スライドドアステップランプの電球 (12V/5W*)

* : メーカーオプションの LED を除く

▶ 車いす仕様車

消耗部品
テンションゴム（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”）、 サポートバー（車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”）、 油脂類、夜間照明灯の電球 (12V/10W)

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	266
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	272
五十音順さくいん.....	274

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

車いすについて

車いすがスイングアームリフトおよび車内に乗車できない・正しい位置（→ P.78, 79）に乗り入れできない

- お乗りのお車の、乗車可能な車いすの目安を確認してください。
(→ P.38 ~ 42)
- スイングアームリフトの最大昇降能力・定員の範囲内で使用してください。
(→ P.36)
- 車いすの乗り入れ順・シートの格納状態を確認してください。
(→ P.38 ~ 42)

車いす固定装置のフックが車いすにかけられない

- 車いすの停止位置で、車いすのブレーキを両輪ともかけていますか？
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.78, 90, 97)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”
→ P.79, 108)
- 車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” のスイングアームリフト上の車いす固定装置を使用するとき、車いす固定装置の前側フックをかける位置がプラットホーム上のラベルよりも前側になっていますか？
(→ P.78)
- 車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” でサポートバーが車いすにあたる場合は、サポートバーをはずした状態で車いすにフックをかけます。
(→ P.114)

車いす用シートベルトの肩部ベルトが首にあたったり、肩からはずれてしまう

- スイングアームリフト上の車いす乗車の方は、アジャスタブルシートベルトアンカーを使用すると肩部ベルトの高さが調整できます。
(→ P.124)
- 車内に車いすを乗り入れ・固定したときは、シートベルトリルータを使用してください。
(→ P.124)



車いす用シートベルトが正しく着用できない

- 車いすのアームレスト下側にカバーなどありませんか？
- シートベルトの装着手順、バックルおよびプレートの色を確認してください。（→ P.119, 121）



車いすが車いす収納装置に収納できない

- お乗りのお車の、収納可能な手動車いすの目安を確認してください。（→ P.134）
- 車いす仕様車“Fタイプ”で車いす2脚収納時、前側から先に収納していませんか？（→ P.131）

シートについて



シートベルトが着用できない

- シートベルトの装着手順、バックルおよびプレートの色を確認してください。（→ P.171～174）

故障かな？と思ったら



シフトレバーがPの位置から動かない

- バックドアを閉める前にスイングアームリフトを完全に格納し、後退防止用ストッパーを起こした位置で確実にロックさせましたか？（→ P.59）
- 電動格納式ステップが出た状態でスライドドアが開いていませんか？（→ P.196）
- バックドアおよびスライドドアを閉めてもシフトレバーがPの位置から動かないときは、シフトロックを解除し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→標準車取扱書の「シフトレバーがシフトできないときは」）



リフトメインスイッチが ON にならない

- バックドアが閉まっていますか？（→ P.59）



操作スイッチを押してもスイングアームリフトが作動しない

- リフトメインスイッチが OFF 状態になっていますか？（→ P.58）
- シフトレバーが P 以外の位置になっていますか？（→ P.59）
- 後退防止用ストッパーが前側に倒れていますか？（→ P.76）
- 光電センサーの感知範囲内に人やものがありますか？（車いす仕様車 “F タイプ” のスイングアームリフト車内スライド時のみ）（→ P.68）



倒しボタンを押しても後退防止用ストッパーがうしろ側に倒れない

- スイングアームリフトの下降が自動的に停止し、“ピッピッ”とブザーが鳴るまで操作スイッチの「下」を押し続けましたか？（→ P.74）



車いす固定装置での車いすの固定がゆるい

- 車いすの停止位置で、車いすのブレーキを両輪ともかけていますか？（車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.78, 90, 97）
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.79, 108)
- 車いすを斜めに乗り入れていますか？
車いすの固定がゆるいときは、固定装置スイッチの「解除」側を押し、固定操作をやり直してください。
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.89, 94, 100)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ” → P.112, 113)



固定装置スイッチを押しても車いす固定装置が作動しない

- リフトメインスイッチが OFF 状態になっていませんか？（→ P.58）
- バックドアが閉まっていませんか？
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.85)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”
→ P.107)
- スイングアームリフト作動中または走行中ではありませんか？
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.85)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”
→ P.107)
- 車いす固定位置に該当する固定装置スイッチを押していますか？
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.88, 93, 99)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”
→ P.110, 111)



スライドドアの開閉と連動してステップが出し入れされない

- シフトレバーが P の位置以外になっていませんか？
(→ P.196)
- ステップメインスイッチが OFF になっていませんか？（→ P.194）
ステップメインスイッチを ON にするときは、スライドドアを閉めてください。
- レバーが「手動」になっていませんか？（→ P.207）
レバーを「自動」に切りかえるときは、必ず「ステップ引き出し／スライドドア全開」もしくは「ステップ格納／スライドドア全閉」のいずれかの（レバー操作後にステップが動き出さない）状態で操作してください。



ルームランプが点灯しない（スーパーロングボディー車）

- リヤルームランプメインスイッチが OFF になっていませんか？（→ P.199）



ブザーが鳴りだした

- ブザーが鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P.272）をご確認ください。

トラブルが発生した



スイングアームリフトが車内に格納された状態で動かなくなった (P.242 のことを確認しても動かない場合)

- そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。



スイングアームリフトが車外に出た状態で動かなくなった (P.242 のことを確認しても動かない場合)

- 最初にリセット操作を実施し、スイングアームリフトが動いた場合はそのままトヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P.243）
- リセット操作をしても動かない場合は、「操作スイッチを押してもスイングアームリフトが動かないとき」の操作を実施し、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P.246）



車いす固定装置で車いすが固定できない（P.252 のことを確認しても固定できない場合）

- 車いすを車外に降ろし、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。



車いすの固定が解除できない（P.252 のことを確認しても解除できない場合）

- 「手動での車いすの固定解除のしかた」の操作を実施し、車いすを車外に降ろし、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。
(車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ” → P.253)
(車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”
→ P.254)



スライドドアを開けても電動格納式ステップが引き出されない (P.255 のことを確認しても作動しない場合)

- そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。



電動格納式ステップが引き出された状態で動かない（P.255 のこと）を確認しても作動しない場合）

- 「手動でのステップの格納のしかた」の操作を実施し、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P.255）



タイヤがパンクした

- P.228 および標準車取扱書の「パンクしたときは」の方法でスペアタイヤを取り出します。
- フロント側をジャッキアップするときは、ステップを手動操作に切り替えます。（→ P.232）



スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P.136）



バックドアが開かない

- 「ロックの解除のしかた」の方法で、車内からバックドアのロックを解除し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P.257）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤作動などをお知らせするためにブザーが鳴ります。

スイングアームリフト操作時

状況	原因	詳細
操作スイッチの「上」または「下」を押したとき	スイングアームリフト作動開始	P.67 P.68
	スイングアームリフト作動中	P.67 P.68
	スイングアームリフトが車外に完全に下降	P.67
	スイングアームリフトが車内に完全に格納	P.69
操作スイッチの「上」または「下」を押してもスイングアームリフトが動かないとき	シフトレバーがP以外の位置で、操作スイッチの「下」を押している	P.59
	複数の装置のスイッチを同時に押している	P.61
	バックドアが閉まった状態で、操作スイッチの「下」を押している	P.60
操作スイッチの「上」または「下」から指を離したとき	スイングアームリフトがスライド途中	P.60
スイングアームリフトの車内スライド時	光電センサーのセンサー光の感知範囲内に人やものがあることを感知 (車いす仕様車“Fタイプ”)	P.60 P.68
バックドアを閉めたとき	後退防止用ストッパーが前側に倒れている	P.60 P.76

シフトレバー操作時

状況	原因	詳細
停車後、シフトレバーをPの位置に動かしたとき	スイングアームリフトが完全に格納されていない	P.63

車いす固定装置操作時

▶車いす仕様車 “A タイプ／AS タイプ”

状況	原因	詳細
車いすを固定するとき	スイングアームリフト上の固定装置スイッチの「ロック」側を押し、車いすを固定した※ ¹	P.88 P.93
	車内の固定装置スイッチの「ロック」側を押し続け、車いすを固定した※ ¹	P.99
	リフトメインスイッチが OFF またはバックドアが閉まっている	P.85
	スイングアームリフト上の固定装置スイッチの「ロック」側を押しても車いすの固定が完了していない	P.88 P.93
	車内の固定装置スイッチの「ロック」側を 5 秒以上押続けた※ ²	P.61 P.99

※¹：車いす固定装置の作動状況により、吹鳴回数がかわります。

※²：車内の固定装置スイッチの「解除」側を 5 秒以上押し続けた場合も、同じブザーが鳴ります。

▶車いす仕様車 “B タイプ／C タイプ／D タイプ／F タイプ”

状況	原因	詳細
車いすを固定するとき	車いす固定装置のフックを車いす固定装置から取り出した※	P.109
	車いすの固定が完了していない※	P.109
	リフトメインスイッチが OFF またはバックドアが閉まっている	P.107
	固定装置スイッチの「ロック」側を押しても車いすの固定が完了していない	P.110
車いすの固定を解除したとき	車いす固定装置の右うしろのフックが床面固定部に完全に格納されていない※	P.112 P.113

※：ブザーが鳴り始めてから 30 秒以上経過すると、音がかわります。（→ P.62）

五十音順さくいん

あ

アジャスタブルシートベルト	
アンカー	124
安全なドライブのために	
車いすの固定および	
シートベルトの着用.....	29
車いすの車内外への乗降.....	22
車両火災・故障・損傷を	
防ぐために	33

い

1人掛けシート	141
1人掛けスペースアップシート...	157

え

エンジン点検口.....	219
--------------	-----

お

大型車いす	78
大型車いす用ベルト.....	92, 95
仮置き位置.....	95
清掃	218
取り付け・取りはずし	85
お手入れのしかた	
車いす固定装置の清掃	215
光電センサーの清掃	212
スイングアームリフトの	
清掃.....	209
電動格納式ステップの清掃....	206
ベルトの清掃	218

か

ガードバー	119, 131
解除レバー	75
可倒式手すり	190
簡単な点検・部品交換	
エンジン点検口	219
工具	224
タイヤ	226

き

緊急時の対処法	
車いす固定装置が	
作動しないとき	252
スイングアームリフトが	
作動しないとき	242
電動格納式ステップが	
引き出された状態で	
作動しないとき	255
バックドアイージークローザーが	
故障したとき	257
ヒューズの交換	234
緊急上昇スイッチ	246

く

クッションはね上げ式シート	151
クッションはね上げ式シート (うしろ向き／介助の方用)	154
車いすから 1人掛けシートに 移乗する場合	81
車いす固定装置 (A タイプ／AS タイプ)	
大型車いす用ベルト	85, 90
緊急時の対処法	252
車いす固定ベルト	85, 86, 96
固定装置スイッチ	88, 93, 99
作動しないとき	252
作動条件	85
車内での固定	96
車内での固定解除	100
手動での車いすの固定解除	253
スイングアームリフト上での 大型車いす固定	90
スイングアームリフト上での 大型車いす固定解除	94
スイングアームリフト上での 固定	86
スイングアームリフト上での 固定解除	89
清掃	215
ブザー	61
車いす固定装置 (B タイプ／ C タイプ／D タイプ／F タイプ)	
解除	112
緊急時の対処法	252
固定	108
固定装置スイッチ	110, 111
作動しないとき	252
作動条件	107
サポートバー	109, 114
手動での車いすの固定解除	254
清掃	216

ブザー	62
フックがかけられないとき	114
車いす固定ベルト (アシストバー付き)	98, 100
清掃	218
取り付け・取りはずし	85
車いす固定ベルト (テンションゴム付き)	86, 89
清掃	218
取り付け・取りはずし	85
車いす収納装置	
A タイプ／AS タイプ	
／B タイプ／D タイプ	127
F タイプ	131
C タイプ	129
収納可能な車いす	134
車いす乗車の目安	37
車いす搭載基準線 (赤色)	78, 90
車いすの車内外への乗降・固定 操作の流れ	44
車いすの乗り入れ・停止位置	
A タイプ／AS タイプ	
	78, 90, 97
B タイプ／C タイプ／D タイプ	
／F タイプ	79, 108
車いす用グリップ	188
車いす用シートベルト	
肩部ベルトが肩にかからない 場合	124
3 点式シートベルト	119
2 点式シートベルト	121
はずし方	122
車いす用手すり (右側) & 小物入れ	187
車いすを 3 脚または 4 脚 乗り入れる場合	80

こ

工具	224
後退防止用ストッパー	74
光電センサー	68
清掃	212
固定シート	138, 141
固定装置スイッチ	
A タイプ／AS タイプ	
.....	88, 93, 99
B タイプ／C タイプ／D タイプ	
／F タイプ	110, 111
小物入れ	
車いす収納装置前部	201
左側最後列	201

さ

作動条件	234
サポートバー	109, 114
3 人掛けタンブルシート	143

し

シート	
1 人掛けシート	141
1 人掛けスペースアップ	
シート	157
クッションはね上げ式	
シート	151
クッションはね上げ式シート	
(うしろ向き／介助の方用)	154
3 人掛けタンブルシート	143
2 人掛けスペースアップ	
シート	164
右はね上げ式シート	
(介助の方用)	149
リクライニングシート	138
シートバックグリップ	189
シートベルト	
肩部ベルトが首に	
あたってしまうときは	175
クッションはね上げ式シート用	
3 点式シートベルト	172
構成	170
3 点式シートベルトを	
正しく着用するには	171
3 人掛けタンブルシート用	
3 点式シートベルト	173
着け方、はずし方	172
2 点式シートベルトを	
正しく着用するには	171
シートベルトリルータ	124, 175
室内装備	
小物入れ	201
リヤヒーター	203
ジャッキアップするときは	231

す

スイングアームリフト	
(プラットホーム)	
緊急時の対処法	242
緊急上昇スイッチ	246
車いす乗車の目安	37
作動しないとき	242
作動条件	66
使用する前に	36
スライド・昇降	66
清掃	209
操作スイッチ	67
操作スイッチを押しても	
動かないとき	246
乗り入れ	78, 79
ブザー	60
リセットについて	243
リフトメインスイッチ	58
ステップ(電動格納式ステップ)	
緊急時の対処法	255
ステップメインスイッチ	194
清掃	206
使い方	195
引き出された状態で	
作動しないとき	255
ステップメインスイッチ	194
ストレッチャー乗車の目安	42
ストレッチャーの乗り入れ位置	82
スペアタイヤの取り出し	228
スペースアップシート	
1人掛け	157
2人掛け	164
スライドドア乗降口グリップ	188
スライドドア乗降口手すり	187
スライドドア乗降口ハンドレール&	
フロントハンドレール	178

そ

操作スイッチ	
上	68
下	67
操作スイッチを押しても	
スイングアームリフトが	
動かないとき	246
倒しボタン	74
ホルダー	67
操作の流れ:車いすの	
車内外への乗降・固定	
大型車いすのスイングアーム	
リフト上からの固定解除・	
降車	50
大型車いすをスイングアーム	
リフト上に乗り入れ・固定	48
車内から固定解除・降車	55
車内に乗り入れ・固定	53
スイングアームリフト上から	
固定解除・降車	46
スイングアームリフト上に	
乗り入れ・固定	44

た

タイヤ	226
-----	-----

ち

チャイルドプロテクター	136
-------------	-----

て

定期点検整備記録簿	卷末
手すり	
車いす用グリップ	188
車いす用手すり（右側）&	
小物入れ	187
シートバックグリップ	189
スライドドア乗降口	
グリップ	188
スライドドア乗降口手すり	187
スライドドア乗降口ハンドレール	
&フロントハンドレール	178
バックドア乗降グリップ	188
フロントハンドレール	178
右はね上げ式シート用	
手すり	187
ルーフサイドグリップ	
（左うしろ）吊革タイプ	189
点検・整備項目	
消耗部品	263
定期交換部品	263
定期点検整備	260
電装品	
電動格納式ステップ	194
夜間照明灯	198
ルームランプ	199
電動格納式ステップ	
緊急時の対処法	255
ステップメインスイッチ	194
清掃	206
使い方	195
引き出された状態で	
作動しないとき	255
2人掛けスペースアップシート	164

は

バックドアイージークローザー	137
故障したときは	257
バックドア乗降グリップ	188
はね上げシート	
クッションはね上げ式	151
クッションはね上げ式	
（うしろ向き／介助の方用）	154
右はね上げ式	149
パンクしたときは	
ジャッキアップするとき	231
スペアタイヤの取り出し	228

ひ

ヒューズの交換	234
---------	-----

ふ

ブザー	60
フットプロテクタ	67
プラットホーム	
（スイングアームリフト）	
緊急時の対処法	242
車いすの固定および	
シートベルトの着用	79
車いすの乗り入れ位置	78, 79
車外スライド・下降	67
上昇・車内スライド	68
ストレッチャーの	
乗り入れ位置	82
操作スイッチ	67
操作スイッチを押しても	
動かないとき	246
乗り入れ	78, 79
フロントハンドレール	178

に

へ

ベルトの清掃 218

ほ

ポンプ保護カバー 235, 247

み

右はね上げ式シート
(介助の方用) 149
右はね上げ式シート用手すり 187

め

メインスイッチ
ステップメインスイッチ 194
リフトメインスイッチ 58
リヤルームランプ
メインスイッチ 199

や

夜間照明灯 198

り

リクライニングシート 138
リセットについて 243
リフト (スイングアームリフト)
緊急時の対処法 242
緊急上昇スイッチ 246
車いす乗車の目安 37
作動しないとき 242
作動条件 66
使用する前に 36
スライド・昇降 66
清掃 209
操作スイッチ 67
操作スイッチを押しても
動かないとき 246
乗り入れ 78, 79
ブザー 60
リセットについて 243
リフトメインスイッチ 58
リフトメインスイッチ 58
リヤヒーター 203
リヤルームランプ
メインスイッチ 199

る

ルーフサイドグリップ (左うしろ)
吊革タイプ 189
ルームランプ 199

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

0800-700-7700

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html>にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。



ウェルキャブ（福祉車両）

<https://toyota.jp/welcab/>



トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

トヨタ ウェルキャブシリーズ



1845222

NAT-2022年2月14日

2020年4月17日 初版

2022年2月21日 2版

ハイエース

車いす仕様車／ウェルジョイン